



# 第17回世界冬の都市市長会議 日本・札幌市

## 報告書

会 期:2016年7月27日～30日  
会 場:札幌コンベンションセンター



## 第17回世界冬の都市市長会議を終えて



世界冬の都市市長会会長  
札幌市長 秋元 克広

7月27日に始まりました市長会議から、その関連行事として開催しました冬の都市見本市と冬の都市フォーラムまで、一連の会議日程を無事に終了することができました。

札幌には、国内外の積雪寒冷地8か国・32都市から市長をはじめとする代表者にお越しいただき、会議では有意義な議論が交わされたほか、さまざまな関連行事を通じて、会員都市間の絆を深める交流ができたと考えております。

34年ぶりに札幌で市長会議を開催するにあたり、冬の都市のまちづくりの魅力はどこにあるのかということを意識し、会議プログラムや関連行事の準備を進めてまいりました。一口に冬の都市と申ししましても、国や都市の規模、歴史や文化は実に多彩で、このような違いを特色と捉え、まちの魅力創出や活力増進につながるまちづくりの創意工夫を会員都市同士で共有できたのではないかと思います。

また、物産の販売や各種展示を通じて、参加都市をPRする冬の都市見本市「2016ウインターシティーズ・ショーケース」と国連機関から講演者をお招きしてご講演いただいた冬の都市フォーラムには、多数の市民の皆様にご参加いただきました。札幌市が主宰する国際ネットワークであります世界冬の都市市長会の活動や冬の都市のまちづくりについて、ご理解を深める機会となりましたら、幸いです。

今後とも、市長会議開催によって得られた知恵や経験を生かして、世界の冬の都市、そして札幌が魅力溢れるまちとしてさらなる飛躍を遂げていけるよう努力していくことが大切であると思います。

最後に、第17回世界冬の都市市長会議を開催するため、温かいご支援とご協力をいただきました多くの皆様に心から感謝を申し上げます。





## 第17回世界冬の都市市長会議報告書 もくじ

### ダイジェスト

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 会議1日目                 | 6  |
| 会議2日目                 | 8  |
| 会議3日目                 | 10 |
| エクスカーショ               | 12 |
| 2016ウインターシティーズ・ショーケース | 13 |
| ビジネス交流会               | 14 |
| 冬の都市フォーラム             | 15 |
| 第17回世界冬の都市市長会議概要      | 16 |

### 会 議

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 開会式・あいさつ・総会                       | 22 |
| 会員都市の事例紹介                         | 24 |
| テーマ1 冬を活用したまちづくり                  |    |
| 札幌市長 秋元 克広                        | 25 |
| 長春市市長助理・副秘書長 王 慧力                 | 26 |
| エドモントン市冬の都市コーディネーター スーザン・ホルドスウォース | 27 |
| ジャムス市副市長 周 啓濤                     | 28 |
| ノボシビルスク市副市長 アレクセイ・コンドラチエフ         | 29 |
| 鶏西市副市長 于 金才                       | 30 |
| テーマ2 冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり        |    |
| 麟蹄郡企画監査室長 イム・デシク                  | 31 |
| テーマ1 冬を活用したまちづくり                  |    |
| 華川郡観光課長 チョン・グァンギョ                 | 32 |
| チチハル市副秘書長 王 徳海                    | 33 |
| ロヴァニエミ市国際課長 トゥーラ・リンタラガルディン        | 34 |
| テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり    |    |
| 松本市長 菅谷 昭                         | 35 |
| ハルビン市外事弁公室副主任 崔 玉平                | 36 |
| 瀋陽市都市建設局現代建築産業弁公室主任 居 理宏          | 37 |
| 札幌市長 秋元 克広                        | 38 |
| 環境保全に関する行動目標の最終報告                 | 39 |
| 講演:コペンハーゲンの環境エネルギーに関する取り組み事例      | 46 |
| 市長ディスカッション:まちに経済的な活力を創出するための方策    | 48 |
| 北極圏デザイン小委員会                       | 54 |
| ウランバートル消防技術支援事業の結果報告              | 58 |
| 国連開発計画の取り組み                       | 60 |
| 札幌開成高校生徒によるまちづくり提言                | 62 |
| 全体会議・閉会式                          | 64 |
| 記者会見                              | 66 |

### 食 事

|                  |    |
|------------------|----|
| コーヒープレイク         | 68 |
| 昼食               | 69 |
| 札幌市長主催歓迎夕食会      | 70 |
| 瀋陽市政府主催夕食会       | 71 |
| 世界冬の都市市長会会長主催夕食会 | 72 |

### 視察・エクスカーショ

|            |    |
|------------|----|
| 視察・エクスカーショ | 74 |
|------------|----|

### 関連行事

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 冬の都市見本市               |    |
| 2016ウインターシティーズ・ショーケース | 76 |
| ビジネス交流会               | 78 |
| 冬の都市フォーラム             |    |
| 世界冬の都市市長会の活動紹介        | 79 |
| 日本の国連加盟60周年を迎えて       | 82 |
| 親善大使として見たこと感じたこと      | 85 |

### 資 料

|                    |    |
|--------------------|----|
| 札幌コンベンションセンター会場図   | 90 |
| 看板、バックパネル、記念品、配布資料 | 92 |



第 17 回世界冬の都市市長会議

# ダイジェスト

# 34年ぶりの札幌開催に8か国32都市が参加！

7月27日から29日の3日間にわたり、札幌コンベンションセンターで開催された第17回世界冬の都市市長会議は、「札幌宣言」を採択し、閉会しました。翌日の30日はエクスカーションとして、札幌市内の名所を巡り、夏の札幌をお楽しみいただきました。

今回の会議には、8か国32都市から98名が参加し、冬の都市のまちづくりをテーマに活発な議論が行われました。また、期間中に冬の都市見本市や冬の都市フォーラムなど市民向けの関連事業も実施され、海外の都市やその文化、冬の都市のまちづくりやその魅力に触れ、理解を深めていただける機会となりました。

34年ぶりに札幌で開催された市長会議の様子をダイジェストで報告します。

1日目



**開会式・総会** 会議1日目は、開会式に続いて、総会が行われました。



札幌市の秋元克広  
市長による開会の挨拶



世界冬の都市市長会理事を  
務める韓国・華川郡の  
チェ・ムンスン郡首による挨拶



2020年の市長会議開催地に  
立候補したフィンランド・ロヴァニエミ市の  
エスコ・ロトゥヴォネン市長



会員都市、オブザーバー参加都市の参加者による記念撮影



## 会員都市の事例紹介

午後からは各都市の事例発表が始まり、北陸先端科学技術大学院大学の敷田麻実教授の進行で、テーマ1「冬を活用したまちづくり」と、テーマ2「冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり」について、7都市が事例発表しました。



敷田麻実教授  
(北陸先端科学技術大学院大学)



会議の全体進行は、札幌市総務局の都市市長室長



## 昼食&コーヒープレイク

昼食会場とコーヒープレイク会場は中ホールに設営。食事をとりながら、都市間交流が行われました。



ランチメニューは、サラダ、パスタ、カルパッチョ、キーマカレーグラタン、デザート、スープなどを用意しました。

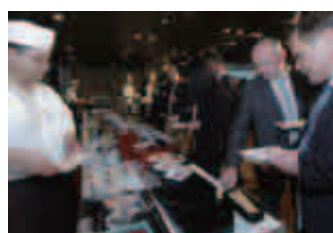


コーヒープレイクでは、参加都市同士の名刺交換も積極的に行われていました。



## 札幌市長主催歓迎夕食会

会場：札幌パークホテル 初日の会議を終え、市長会議開催都市の主催による歓迎夕食会を開催しました。



# 2日目

## 会員都市の事例紹介/環境保全に関する行動目標の最終報告/ コペンハーゲン市長の講演/市長ディスカッション

会議2日目は、前日に引き続き、テーマ1の「冬を活用したまちづくり」と、テーマ3の「冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり」について、7都市が事例発表しました。その後、各都市の環境保全に関する取組報告、デンマーク・コペンハーゲン市のモーテン・カベル技術・環境担当市長による講演に続き、市長ディスカッションが行われ、熱い議論が交わされました。



2日目には、会議の合間に談笑する姿も多く見られました。

コペンハーゲン市のモーテン・カベル  
技術・環境担当市長の講演



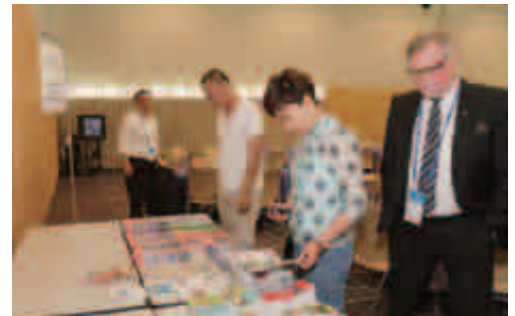
### 燃料電池自動車の展示試乗会



2日目の昼食前には、日本が誇る水素を燃料とした燃料電池自動車の展示試乗会を開催し、多くの会議参加者がその乗り心地を体験しました。



### 昼食&コーヒーブレイク



会期中はランチのメニューも毎日変えて提供しました。



### 瀋陽市政府主催夕食会

会場：札幌プリンスホテル 国際館パミール



次回市長会議開催都市の中国・瀋陽市の主催による夕食会が開催されました。主賓席を設け、各都市の代表が着席しました。

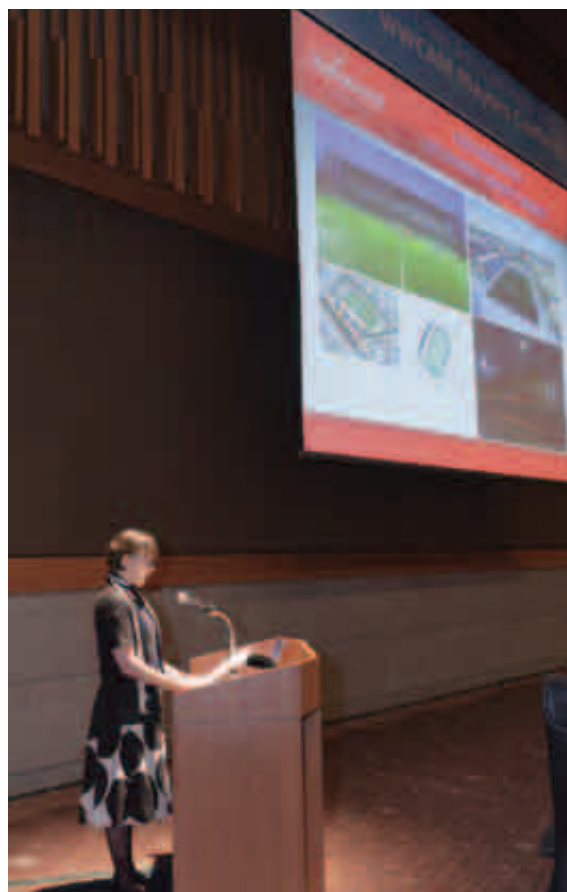
# 3日目

北極圏デザイン小委員会/ウランバートル消防技術支援事業の結果報告/  
国連開発計画駐日代表の講演/札幌開成高校生徒によるまちづくり提言/  
全体会議・閉会式/記者会見

会議3日目は、ロヴァニエミ市が事務局を務める北極圏デザイン小委員会の報告に続き、札幌からウランバートルへの消防技術支援事業の報告、国連開発計画駐日代表の講演、札幌開成高校の生徒によるまちづくり提言が行われました。全体会議では、3日間に渡る議論を総括し、「札幌宣言」を採択して会議を閉幕しました。



閉会式終了後に、記者会見が開かれました。



フィンランド・ロヴァニエミ市の建築士  
タルヤ・オウティラ氏による北極圏デザイン小委員会の発表



札幌市の消防技術支援について報告  
するウランバートル市のサンダグドル  
ジ・バヤルバートル戦略政策企画部長



ゲストスピーカーとして国連開発計画  
駐日代表の近藤哲生氏が講演

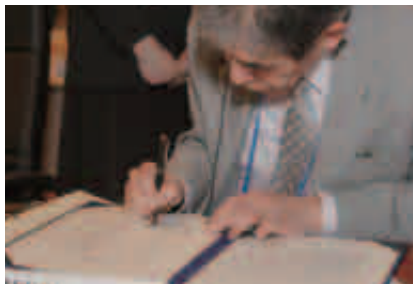
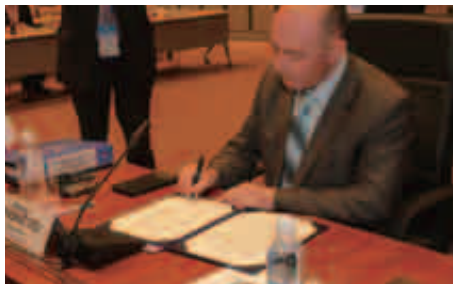


「まちづくりにおける演劇の有効性を探る」と題して、札幌開成高校の生徒からまち  
づくりの提言が発表されました。



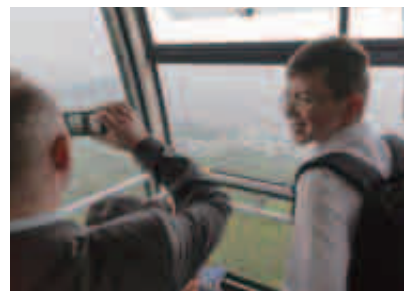
## 全体会議・閉会式

参加会員都市の満場一致で「札幌宣言」を採択し、各都市代表が署名しました。



## 視察

午後は、札幌の街を一望できる藻岩山を訪れました。



## 世界冬の都市市長会会長主催夕食会

会場：豊平館 札幌を代表する歴史的建造物のひとつである豊平館で夕食会を行いました。



2016年6月にリニューアルオープンした豊平館



国連開発計画（UNDP）親善大使で俳優の紺野美沙子さんも参加

## エキスカーシヨ

### 北海道ならではの歴史や文化、食を堪能

7月30日にはエキスカーシヨを行い、会議参加者は札幌の夏を楽しみました。北海道の自然史、アイヌ文化など北海道の歴史を紹介する北海道博物館を見学したほか、北海道の開拓当初の建物を展示保存している北海道開拓の村、札幌オリンピックのスキージャンプの舞台となった大倉山ジャンプ競技場を巡りました。夕食はサッポロビール園でジンギスカンを味わい、札幌での滞在を締めくくりました。



かつて栄えた鯨番屋（北海道開拓の村）



北海道の「食」として代表的なジンギスカンとビールを楽しむ参加者



大倉山のジャンプ台のスタート地点



明治時代に官営工場として作られたサッポロビール



ウィンタースポーツミュージアムでジャンプを疑似体験





開会式でのテープカット



ステージイベントでは、モンゴルやフィンランドの民族楽器の演奏が披露されました。



各都市の特徴ある商品を  
展示販売



## ビジネス 交流会

### 積極的なビジネス交流の場に

7月28日には、札幌プリンスホテル国際館バミールでビジネス交流会が開かれました。交流会には、環境関連分野に3か国4都市19社が、旅行関連分野に3か国4都市9社・団体が参加し、熱心な商談が繰り広げられました。





## 冬の都市フォーラム

### 多数の市民が参加したフォーラム

7月30日に共済ホールで「冬の都市フォーラム」が開催されました。世界冬の都市市長会議がきっかけとなって始まったモンゴルへの消防技術協力事業の紹介に加え、国連広報センターの根本かおる所長と国連開発計画親善大使で俳優の紺野美沙子さんをお招きして、ご自身の活動体験を交えながら、国連の活動を紹介しました。



秋元札幌市長、モンゴル・ウランバートル市のバイルバートル戦略政策企画部長、国連広報センターの根本所長、国連開発計画親善大使の紺野氏が講演しました。



紺野美沙子さんは、講演の最後に谷川俊太郎の「あい」という詩を朗読



世界冬の都市市長会と国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の活動を紹介するパネル展示





## 第17回世界冬の都市市長会議 概要

〔会 期〕 2016年7月27日（水）～30日（土）

〔会 場〕 札幌コンベンションセンター

〔主 催〕 札幌市、世界冬の都市市長会

### 〔テーマ〕

＜メインテーマ＞ 冬の都市のまちづくり ～独自性とその魅力～

＜サブテーマ＞

テーマ1 冬を活用したまちづくり

テーマ2 冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり

テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり

### 〔会議参加都市〕

会員都市：7か国・15都市・71人

|        |                               |
|--------|-------------------------------|
| カナダ    | エドモントン                        |
| 中 国    | 長春、ハルビン、ジャムス、鶏西（ジーシー）、チチハル、瀋陽 |
| フィンランド | ロヴァニエミ                        |
| 日 本    | 松本、札幌                         |
| モンゴル   | ウランバートル                       |
| 韓 国    | 華川（ファチョン）、麟蹄（インジェ）、太白（テーベク）   |
| ロシア    | ノボシビルスク                       |

オブザーバー参加都市：3か国・17都市・27人

|       |                                            |
|-------|--------------------------------------------|
| デンマーク | コペンハーゲン                                    |
| ロシア   | グブキンスキー、プーロヴスキー地区、ヤマロ・ネネツ自治管区              |
| 日本    | 弘前、金ケ崎、福岡、留萌、苫小牧、美唄、千歳、滝川、恵庭、ニセコ、倶知安、月形、下川 |

### 〔会議参加者〕

○会員都市

| 国 名    | 都 市 名   | 参 加 代 表 者       | 役 職          |
|--------|---------|-----------------|--------------|
| カナダ    | エドモントン  | スーザン・ホルドスウォース   | 冬の都市コーディネーター |
| 中国     | 長春      | 王 慧力            | 市長助理、副秘書長    |
|        | ハルビン    | 崔 玉平            | 外事弁公室副主任     |
|        | ジャムス    | 周 啓涛            | 副市長          |
|        | 鶏西      | 于 金才            | 副市長          |
|        | チチハル    | 王 徳海            | 副秘書長         |
|        | 瀋陽      | 張 景輝            | 副市長          |
| フィンランド | ロヴァニエミ  | エスコ・ロトゥヴォネン     | 市長           |
| 日本     | 松本      | 菅谷 昭            | 市長           |
|        | 札幌      | 秋元 克広           | 市長           |
| モンゴル   | ウランバートル | サンダグドルジ・バヤルバートル | 戦略政策企画部長     |
| 韓国     | 華川      | チェ・ムンスン         | 郡首           |
|        | 麟蹄      | イ・スンソン          | 郡首           |
|        | 太白      | キム・ヨンシク         | 市長           |
| ロシア    | ノボシビルスク | アレクセイ・コンドラチエフ   | 副市長          |

## ○オブザーバー参加都市

| 国 名   | 都 市 名       | 参 加 代 表 者   | 役 職                 |
|-------|-------------|-------------|---------------------|
| デンマーク | コペンハーゲン     | モーテン・カベル    | 技術・環境担当市長           |
| ロシア   | グブキンスキー     | セルゲイ・ファディギン | 市長                  |
|       | プーロヴスキー地区   | アンドレイ・ネスタルク | 地区行政府長              |
|       | ヤマロ・ネネツ自治管区 | サビーナ・カサノバ   | 国際海外経済交流部 国際連携チーム職員 |
|       |             |             |                     |
| 日本    | 弘前          | 鈴木 政孝       | 都市環境部理事兼スマートシティ推進室長 |
|       | 金ケ崎         | 高橋 由一       | 町長                  |
|       | 福岡          | 仲原 善信       | 国際連携課課長             |
|       | 留萌          | 高橋 定敏       | 市長                  |
|       | 苫小牧         | 川島 徹        | 市民自治推進課主事           |
|       | 美唄          | 村橋 広基       | 経済部産業振興課長           |
|       | 千歳          | 小田 賢一       | 観光スポーツ部長            |
|       | 滝川          | 前田 康吉       | 市長                  |
|       | 恵庭          | 原田 裕        | 市長                  |
|       | ニセコ         | 林 知己        | 副町長                 |
|       | 倶知安         | 西江 栄二       | 町長                  |
|       | 月形          | 三浦 淳        | 副町長                 |
|       | 下川          | 谷 一之        | 町長                  |

## 《夕食会》

## ■札幌市長主催歓迎夕食会

日時：7月27日（水） 18：30～20：00

会場：札幌パークホテル 1階「ザ・テラスルーム」

## ■瀋陽市政府主催夕食会

日時：7月28日（木） 19：00～20：30

会場：札幌プリンスホテル 国際館パミール 3階「大沼・洞爺・支笏」

## ■世界冬の都市市長会会長主催夕食会

日時：7月29日（金） 18：40～20：00

会場：豊平館 2階「広間」

## 《市内視察・エクスカーション》

## ■市内視察

日時：7月29日（金） 15：00～17：30 藻岩山

## ■エクスカーション

日時：7月30日（土） 9：00～20：00

コース：ホテル⇒北海道開拓の村⇒北海道博物館⇒赤れんがテラス〔昼食〕⇒大倉山ジャンプ競技場⇒ウインター  
スポーツミュージアム⇒サッポロビール博物館⇒サッポロビール園ガーデングリル〔夕食〕⇒ホテル



## 〔関連事業〕

### ＜冬の都市見本市「2016 ウィンターシティーズ・ショーケース」＞

- 〔会 期〕 7月29日（金）～31日（日）  
〔会 場〕 札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ） 北3条交差点広場（西）  
〔内 容〕 展示や物販による都市PRイベント  
〔出展数〕 5か国 12都市・団体 12ブース  
〔主 催〕 冬の都市見本市実行委員会、札幌市

### ＜冬の都市見本市「ビジネス交流会」＞

- 〔期 日〕 7月28日（木）  
〔会 場〕 札幌プリンスホテル 国際館パミール 3階「風蓮・摩周・屈斜路」  
〔内 容〕 会員都市の企業と札幌・北海道企業の個別商談会  
（環境関連分野、旅行関連分野）  
〔参加企業数〕 環境関連分野：3か国4都市19社  
旅行関連分野：3か国4都市9社・団体  
〔主 催〕 冬の都市見本市実行委員会、札幌市

### ＜冬の都市フォーラム＞

- 〔期 日〕 7月30日（土） 14：00～16：00  
〔会 場〕 共済ホール  
〔主 催〕 札幌市、世界冬の都市市長会  
〔後 援〕 国連広報センター、国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所、  
独立行政法人国際協力機構（JICA）、日本国際連合協会北海道本部  
〔内 容〕 ●世界冬の都市市長会の活動紹介（秋元克広札幌市長）  
●札幌市消防局によるモンゴル・ウランバートル市への消防技術協力報告  
（ウランバートル市戦略政策企画部長サンダグドルジ・バヤルバートル氏）  
●日本の国連加盟60周年を迎えて（国連広報センター所長 根本かおる氏）  
●親善大使として見たこと感じたこと（国連開発計画（UNDP）親善大使 紺野美沙子氏）

## 会議日程

|       | 7月27日 (水)                                                                         | 7月28日 (木)                                                        | 7月29日 (金)                                                    | 7月30日 (土)              |       |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------|-------|
| 9:00  |                                                                                   |                                                                  | 9:00-9:30<br>北極圏デザイン小委員会                                     |                        | 9:00  |
| 9:15  |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 9:15  |
| 9:30  |                                                                                   |                                                                  | 9:30-9:45 ウランバートル消防技術支援<br>事業の結果報告                           |                        | 9:30  |
| 9:45  |                                                                                   | 9:30-10:15<br>会員都市の事例紹介③<br>テーマ1: 冬を活用したまちづくり                    | 9:45-10:00 国連開発計画駐日代表<br>事務所近藤代表の講演                          |                        | 9:45  |
| 10:00 | 10:00-10:15<br>開会式                                                                |                                                                  | 10:00-10:20<br>札幌開成高校生徒によるまちづくり提言                            |                        | 10:00 |
| 10:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 10:15 |
| 10:30 | 10:15-11:00<br>総会                                                                 | 10:15-10:50<br>休憩                                                | 10:20-11:00<br>休憩                                            |                        | 10:30 |
| 10:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 10:45 |
| 11:00 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 11:00 |
| 11:15 | 11:00-12:10<br>第19回世界冬の都市市長会議<br>(2020年開催)開催都市候補による<br>プレゼンテーション                  | 10:50-12:00<br>会員都市の事例紹介④<br>テーマ3: 冬の都市における環境に<br>配慮した持続可能なまちづくり | 11:00-11:45<br>全体会議・閉会式                                      |                        | 11:15 |
| 11:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 11:30 |
| 11:45 |                                                                                   |                                                                  | 記者会見会場へ移動                                                    |                        | 11:45 |
| 12:00 | 12:10-12:15 開催都市選出投票・決定                                                           | 12:05-12:30<br>燃料電池自動車の展示試乗会                                     | 12:00-12:45<br>記者会見                                          |                        | 12:00 |
| 12:15 | 12:15-12:30 記念写真撮影                                                                |                                                                  |                                                              |                        | 12:15 |
| 12:30 |                                                                                   | 12:30-13:30<br>昼食                                                |                                                              |                        | 12:30 |
| 12:45 |                                                                                   |                                                                  | 12:45-14:00<br>昼食                                            |                        | 12:45 |
| 13:00 | 12:30-14:00<br>昼食                                                                 |                                                                  |                                                              |                        | 13:00 |
| 13:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 13:15 |
| 13:30 |                                                                                   | 13:30-14:50<br>環境保全に関する行動目標の<br>最終報告                             |                                                              |                        | 13:30 |
| 13:45 |                                                                                   |                                                                  | 冬の都市見本市会場へ移動                                                 |                        | 13:45 |
| 14:00 |                                                                                   |                                                                  |                                                              | 9:00-20:00<br>エクスカーション | 14:00 |
| 14:15 | 14:00-15:00<br>会員都市の事例紹介①<br>テーマ1: 冬を活用したまちづくり                                    | 14:50-15:20<br>コペンハーゲン市<br>技術・環境担当市長の講演                          | 14:30-15:00 冬の都市見本市<br>「2016ウインターシティーズ・ショーケース」<br>開会式参加、会場視察 |                        | 14:15 |
| 14:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 14:30 |
| 14:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 14:45 |
| 15:00 | 15:00-15:30<br>休憩                                                                 | 15:20-16:00<br>休憩                                                |                                                              |                        | 15:00 |
| 15:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 15:15 |
| 15:30 | 15:30-16:30<br>会員都市の事例紹介②<br>テーマ1: 冬を活用したまちづくり<br>テーマ2: 冬以外の季節の気候特性を<br>生かしたまちづくり | 16:00-17:00<br>市長ディスカッション                                        | 15:00-17:30<br>市内視察                                          |                        | 15:30 |
| 15:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 15:45 |
| 16:00 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 16:00 |
| 16:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 16:15 |
| 16:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 16:30 |
| 16:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 16:45 |
| 17:00 | 移動、休憩                                                                             |                                                                  |                                                              |                        | 17:00 |
| 17:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 17:15 |
| 17:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 17:30 |
| 17:45 |                                                                                   |                                                                  | ホテルへ移動                                                       |                        | 17:45 |
| 18:00 |                                                                                   | 移動、休憩                                                            |                                                              |                        | 18:00 |
| 18:15 |                                                                                   |                                                                  | 休憩、夕食会場へ移動                                                   |                        | 18:15 |
| 18:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 18:30 |
| 18:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 18:45 |
| 19:00 | 18:30-20:00<br>札幌市長主催歓迎夕食会<br>(会場: 札幌パークホテル)                                      | 19:00-20:30<br>瀋陽市政府主催夕食会<br>(会場: 札幌プリンスホテル<br>国際館バミール)          | 18:40-20:00<br>世界冬の都市市長会会長主催夕食会<br>(会場: 豊平館)                 |                        | 19:00 |
| 19:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 19:15 |
| 19:30 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 19:30 |
| 19:45 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 19:45 |
| 20:00 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 20:00 |
| 20:15 |                                                                                   |                                                                  |                                                              |                        | 20:15 |

## 〔世界冬の都市市長会の概要〕

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学び合うためのネットワークです。

1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりで、2004年に名称を「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」に変更しました。初期の市長会議では、冬の都市が雪や寒さを乗り越え、快適な冬の生活を実現するため「冬の生活課題」の解決に向けて議論を行ってきました。2000年代になり、地球環境問題が世界的にも大きな関心事となっていたこの時期に、市長会議でもこれをテーマに議論を交わし、冬の都市ならではの環境保全の取組を国際社会にアピールしてきました。2016年札幌での第17回市長会議では「冬の都市のまちづくり」をテーマとして、今後の市長会議における新たな方向性を示しました。

現在、10か国21都市が会員として参加しており、世界冬の都市市長会の会長は、設立当初から札幌市長が務め、札幌市国際部に事務局が置かれています。

### 世界冬の都市市長会 会員都市〔10か国21都市〕



### 会員都市

#### ■カナダ

エドモントン市

#### ■中華人民共和国

長春市、ハルビン市、ジャムス市、吉林市、鶏西市、チチハル市、瀋陽市

#### ■エストニア共和国

マールドゥ市、ヴィームシ市

#### ■フィンランド共和国

ロヴァニエミ市

#### ■日本

松本市、札幌市

#### ■モンゴル国

ウランバートル市

#### ■ノルウェー王国

トロムソ市

#### ■大韓民国

華川郡、麟蹄郡、太白市

#### ■ロシア連邦

マガダン市、ノボシビルスク市

#### ■アメリカ合衆国

アンカレッジ市

## 会 議



左からエドモントン、長春、ジャムス、鶏西、チチハル、瀋陽、ハルビン、札幌、華川、麟蹄、ロヴァニエミ、松本、ウランバートル、太白、ノボシビルスクの各市長または代表者

## 【開会式】

第17回世界冬の都市市長会議は、会員都市、オブザーバー合わせて32都市が参加し、7月27日に札幌コンベンションセンターで開幕しました。

## 【あいさつ】

札幌市長  
秋元克広



皆さんおはようございます。札幌市長の秋元克広でございます。ようこそ札幌へお越しくださいました。札幌市民195万人を代表して、皆様を心から歓迎申し上げます。

第1回の世界冬の都市市長会議は、1982年にここ札幌で開催いたしました。このたび、34年ぶりに、この地で市長会議を開催できますことを大変喜ばしく、そして光栄に存じております。

さて、今回の会議のテーマは、『冬の都市のまちづくり～独自性とその魅力～』ということでございます。市長会議の初期の頃は、「冬の生活課題の克服」ということを主な議題とし、近年では「冬の都市における地球環境問題」ということに力を入れてまいりました。今回の会議では、これまでの取り組みを前提としながらも、34年という年月をかけて成熟をして、この市長会議にふさわしい新たな議論の方向性として、冬の都市ならではの「まちづくり」をテーマに設定いたしました。我々、冬の都市は、雪や寒さという冬の特徴だけに留まらない多くの魅力を持っている都市であります。

本日より3日間の会議を通して、地方行政に携わる者の永遠の課題であり使命でもある「まちづくり」について、冬の都市の魅力をどのように生かしていけるのかを、皆様とともに考えていきたいというふうに考えております。

市長会議始まりのこの地札幌から、我々冬の都市が新たな一歩を踏み出していくことを大いに期待をいたしまして、私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

世界冬の都市市長会理事  
華川郡首  
チェ・ムンスン



こんにちは。大韓民国の華川郡のチェ・ムンスンでございます。今日、第1回世界冬の都市市長会議が始まった札幌市で、第17回世界冬の都市市長会議が開催されることを心よりお祝い申し上げます。また、都市経営に携わる各国の冬の都市の市長の皆様、そして会議準備にご尽力くださいました秋元克広会長、関係者の皆様に感謝申し上げたいと思います。

世界冬の都市市長会議は今年、17回目を迎えることになりました。今まで市長会は冬の魅力を生かしつつ、快適なまちづくりのため、会員都市の事例を共有しネットワークを作ってきました。華川も2008年に市長会に加入し、以来毎年1月に開催されるやまめ祭りにおいて世界冬の都市広報館を運営し、各都市の特色や魅力を観光客に伝えるために努力してまいりました。また、2014年には、華川で冬の都市市長会議が開催され、華川のクリーンな自然や温かいおもてなしの心を各都市の市長に知っていただくきっかけを作ったと思います。

近年、地球温暖化や環境問題はひとつの都市の問題にとどまらず、周辺地域や国家間の課題になっております。その解決のためには国家国際機構のみならず、各国の都市が互いに問題を共有し、協力し合いながら共通の解決策を探っていく必要があると思います。そういう意味で国や文化の違いを理解しながら問題を解決していける冬の都市市長会ネットワークは非常に重要だと言わざるを得ません。会議が開催される4日間、各都市の交流を通じて、冬の都市としての役割について考える必要があります。冬という共通の環境を持つ会員都市が、資源の開発、その活用について具体的、かつ深みのある議論を通じて、都市活性化についての協力を築いていくことを期待しています。

最後に、今回市長会に新たに入られましたフィンランド・ロヴァニエミ、エストニア・マールドゥ、カナダ・エドモントンの市長の皆様にも温かい歓迎を申し上げます。冬は資源であり資産であるという市長会のスローガンのもと、冬の都市が世界人類の幸せや、より質の高い生活のために役に立つべき多くの議論が共有できる時間になりますように期待いたします。ありがとうございます。

## 【総会】

### 【議題1】 会員都市の入退会に関する協議

2014 年華川市長会議以降の会員都市の入退会について報告しました。

(入会) ロヴァニエミ市（フィンランド） 2014 年 10 月 1 日

マールドゥ市（エストニア） 2015 年 6 月 1 日

エドモントン市（カナダ） 2016 年 3 月 1 日

(退会) マールドゥ市（エストニア） 2014 年 3 月

※ 同市は、2015 年 6 月 1 日に再入会しました。

ユジノサハリンスク市（ロシア） 2015 年 4 月

### 【議題2】 役員の改選

今回の市長会議をもって改選を迎える役員の後任を決定しました。

(改選対象役員)

副会長：ハルビン市（アジア・オセアニア地域）→ 華川郡（新任）

空席（ヨーロッパ地域）→ ロヴァニエミ市（新任）

理 事：華川郡 → 瀋陽市（次期市長会議開催都市）

### 【議題3】 新規活性化事業に関する提案

事務局の提案通り、承認されました。幹事都市を札幌市が務め、2017 年から 2019 年までの 3 年間を活動期間とします。

### 【議題4】 2014 年度及び 2015 年度事業決算並びに事業報告

2 か年の決算報告並びに事業報告を行い、認定を受けました。

### 【議題5】 2016 年度及び 2017 年度事業予算並びに事業計画案

2 か年の予算案並びに事業計画案を説明し、承認を得ました。

### 【議題6】 名誉会員の任命について

鄭甲澈（チョン・カプ Chol）前華川郡首、上田文雄前札幌市長の 2 名を名誉会員に任命しました。

### 【議題7】 第 19 回世界冬の都市市長会議開催都市について

事務局から 2020 年に開催予定の第 19 回世界冬の都市市長会議の開催立候補都市が、フィンランド・ロヴァニエミ市及び韓国・華川郡の 2 都市であることを報告しました。

その後、両市によるプレゼンテーションを行った上で、会員都市の投票により決定することとしていましたが、華川郡のチェ・ムンスン郡首から、第 19 回市長会議開催都市をロヴァニエミ市に譲歩する意向が示されました。

これを受けて、ロヴァニエミ市がプレゼンテーションを行った後、議決され、2020 年の第 19 回市長会議開催都市をロヴァニエミ市に決定しました。

### ■ロヴァニエミ市のプレゼンテーション

北極圏のデザイン首都であるロヴァニエミ市は、人口約 61,000 人で科学大学とラップランド大学の 2 つの大学を有し、ラップランドの教育の中心地でもあります。アジア各地、ヨーロッパ、アメリカ、カナダにも直行便が飛んでいるフィンランドのハブ空港であるヘルシンキとのアクセスも良好です。会議会場も多く、世界的なランキングで高い地位を占めているホテルもあります。ラップランドの食はとてもおいしく、そして有名な食文化を形成しています。トナカイは私たちにとって非常に重要なもので、市のシンボルでもあります。ロヴァニエミは正式なサンタクロースのホームタウンとしても有名で、今日ではそれが世界的にも知られるブランドとなっています。サンタクロースの郵便局があり、毎年 70 万通のサンタクロース宛ての手紙が世界からここに届きます。皆様とロヴァニエミでお会いできることを楽しみにしております。

## 【会員都市の事例紹介】

会員都市の事例紹介は、7月27日、28日の2日間に渡り、北陸先端科学技術大学院大学教授の敷田麻実氏の進行により、13都市が14事例を発表しました。テーマ1の「冬を活用したまちづくり」については9都市が、テーマ2の「冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり」については1都市が、テーマ3の「冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり」については4都市がそれぞれの取り組みを説明しました。課題や取り組みなど共通することも多く、情報を共有することで、次への展開のヒントになる点も多くありました。

### <メインテーマ>

冬の都市のまちづくり ～独自性とその魅力～

### <サブテーマ>

テーマ1 冬を活用したまちづくり

テーマ2 冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり

テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり

### ■モデレーター・プロフィール

敷田 麻実 [しきだ あさみ]

北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 教授

先端科学技術研究科知識マネジメント領域

国連大学高等研究所客員教授

研究分野：地域経営（マネジメント）およびエコツーリズムなどの地域資源戦略

石川県生まれ、高知大学卒、石川県水産課に15年間勤務後、金沢工業大学環境システム工学科助教授、同大学情報マネジメント学科教授。

2007年4月から北海道大学観光学高等研究センター教授。2016年1月から北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科教授。2012年7月から国連大学高等研究所の客員教授。



### ■モデレーターの敷田氏による総括

一つ一つの発表は、この冬の都市市長会のスローガンであります「冬は資源であり、財産である」に従った優れたものでした。各都市で取り組んだ結果が、優れた成果や知識として発表されました。その意味では、皆様のネットワークで知識が共有されたと考えることができます。特に、札幌市長会議のテーマであります、「冬の都市のまちづくり ～独自性とその魅力～」について、十分理解を深めることができたと考えております。しかしながら、このネットワークで共有された知識は、あくまで知識であります。それだけでは価値が生じません。その点では、皆様がこのネットワークを知識創造ネットワークから価値創造ネットワークへと価値を生み出す試みを続ける必要があります。今後の皆様の素晴らしい取り組みにさらに期待して、この会議のまとめとしたいと思います。さらなる成果がこのネットワークを通して増幅されて、社会的に共有できる価値が多数生み出されることを願っています。

## 会員都市の事例紹介 テーマ1 冬を活用したまちづくり



## 札幌市と冬季オリンピック・パラリンピック「つくる」から「つながる」へ

札幌市長  
秋元 克広

冬季オリンピック・パラリンピックは、冬の都市が行うことのできる世界最大のイベントであり、開催することは、冬季スポーツの振興、オリンピズムの継承やパラリンピック・ムーブメントの醸成を通じて、子どもたちに夢や希望を与え、世界平和にも貢献いたします。これらオリンピック・パラリンピック本来の意義に加え、まちづくりの観点からも効果が期待できます。

札幌市は、1972年にアジアで初めて冬季オリンピックを開催し、国際都市としての都市基盤整備、環境モデル都市、豊かな冬の暮らしを支える地下ネットワークの整備につながりました。1972年のオリンピックはまさに国際都市サッポロを「つくる」オリンピックでありました。

## 人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを！

札幌市では、現在、2026年のオリンピック招致に向けた取り組みを行っております。成熟都市として2度目のオリンピック、初めてとなるパラリンピックは、前回の大会で得た物を生かしつつ、「つながる」オリンピックを目指しています。「つながる」とは、過去と未来、すなわち前回大会からつないできたウインタースポーツの環境やライフスタイルを次世代につなぐことにとどまらず、札幌ならではの都市と自然の調和、街全体の整備・バリアフリー化、スポーツとさまざまな文化・観光・産業・教育の融合ということを意味しています。そして、札幌が世界と結びつき、世界平和に貢献していきたいと思っています。

北海道は現在、人口減少や高齢化時代を迎えていますが、北海道の魅力を世界に向けて発信し、オリンピック・パラリンピック招致をきっかけにインバウンド需要のさらなる喚起につなげていきたいと考えています。

基本理念は、「札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピックモデルの提案」で、副題が「人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを」です。この基本理念に基づき、3つの柱を掲げております。1つ目は、「大会の開催を契機としたまちづくり」です。まち全体をリニューアルして、超高齢化社会にも対応したユニバーサルなまちづくりを進めてまいります。2つ目は、「ウインタースポーツ都市としての地位の確立」です。ウインタースポーツの拠点として環境を充実させ、アジア、そして世界に誇るウインタースポーツ都市としての地位を築きます。そして3つ目は、「持続可能なオリンピック・パラリンピックモデルの提案」です。ローコストな大会運営を心がけるとともに、大会後にも多くのアスリートやゲストが集まる施設、あるいは受け入れ環境の整備を進めてまいります。

次に、オリンピック・パラリンピックによって何を遺すかという「レガシー」についてです。「ウインタースポーツを楽しむ文化を次世代へ」ということで、ウインタースポーツ人口の拡大やオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進を目指してまいります。「世界に誇るウインタースポーツ都市『さっぽろ』へ」ということで、アスリート育成のための環境整備やさまざまな国際大会や合宿の誘致に向けた取り組みを進めてまいります。そして、「北の創造都市『さっぽろ』に向けて」ということで、大会後、札幌ドーム周辺を新たなオリンピックレガシーの象徴の空間として、活用していきたいと考えています。札幌市では、今後もスポーツを通じて、冬の都市ならではの特性を生かしたまちづくりを進めてまいります。



## ■敷田モデレーターのコメント

札幌市は、2026年のオリンピック大会を目指して、オリンピックのサステナブルモデル、札幌のモデルを確立したいということで、いろいろな試みが行われる予定になっております。1972年の繰り返しではない、新たなチャレンジということで、非常に高い質の地域発展、経済発展だと思います。



## 氷が玉に、雪は金に、異彩を放つ冬の資源

長春市市長助理・副秘書長

王 慧力

長春は典型的な北方の冬の都市です。近年、「白雪を白銀に」変えようという目標を立て、冬の資源を発掘し、これを新しい資源に変えて、冬のスポーツ、観光、経済を融合した新しい発展の道を歩んできました。

1点目に冬季のスポーツがますますレベルアップしています。冬季アジア大会など重要なイベントの成功、金メダル選手の育成、2003年にはバサロペット国際クロスカントリースキーフェスティバスの開催、2014年にはワールドロペット協会に加盟しました。長春は「中国のクロスカントリースキーの都」と言われるようになりました。スキーは一般の人々にも広がっており、廟香山、淨月潭、蓮花山、新立湖などの4つのスキー場や各地のスケート場が冬のスポーツファンの人気を得ています。

2点目に、冰雪観光ツアーがブランド化されています。長春は北方の冬の観光都市となっており、観光客は毎年20%増加しています。また、東北民族ツアー、温泉ツアーなどの観光商品を開発しています。

3点目に、冰雪経済と貿易も発展しています。スキー祭りの期間中に貿易商談会も同時に開催し、今年は176の団体2,000名あまりの人が参加し、多額の契約を結びました。冬季農業博覧会も非常に人気があり、今年は50万人が来場し、最高の記録となりました。

### 資源開発の面で協力を！

長春は差別化を重視し、特色のある発展を促しています。

まず1点目に、観光産業の魅力アップです。滞在時間を長く、消費レベルも上げて、利益の最大化を図っていきます。

2点目は、点と面を結び付けて影響効果を上げていきたいということです。雪の観光地と冬季の農業博覧会の波及効果を高め、インフラも完備して、都市の環境を良くして将来の発展ニーズに合うようにしていきたいと考えています。それから「夜間楽しめる観光商品」などを増やしていき、市民にも「ナイトライフ」を楽しんでもらうことで内需を拡大させ、「夜の経済」を活性化していきたいと考えています。

3点目は、国内外を結び付けて、インバウンド市場を拡大し、受け入れと海外進出を同時に促進していくことを目指します。都市のイメージアップを図り、知名度、影響力を上げていくことに加え、ホテルやレストラン、展示会場なども整備し、多くの国際会議、展示会などを開催できるようにしていきたいと考えています。

また、長春は資源開発の面でも冬の都市の皆さんと協力していきます。

1点目に生態系の保護を重視し、低炭素経済、循環経済を発展させ、都市の開発による自然破壊へのコストを減らしてまいります。環境が改善され、冬の資源が持続的に利用できるように取組みを進めます。

2点目は、都市間の観光産業における連携を強化し相互訪問、経済交流、情報共有などを通じて、観光資源の開発、観光商品の宣伝、観光ルートの融合を推進していきます。

冰雪は大自然からの贈り物です。共に手を携えてこの財産を永遠に利用していきたいと思います。



### ■敷田モデレーターのコメント

長春が進めている積極的な氷と雪の振興策、それは春も夜も視野に入れた非常に多面的な隙のない政策であります。氷と雪を巧みに商品としてブランド化をしていくこの政策は、単に資源を売るのではなしに、それを統合して地域のブランド化、プレイス・ブランディングにつなげている素晴らしい試みだと思います。

## 会員都市事例紹介 テーマ1 冬を活用したまちづくり



## 冬を活用したまちづくり

エドモントン市冬の都市コーディネーター  
スーザン・ホルドスウォース

2012年10月にエドモントン市は「冬の都市戦略（Winter City Strategy）」を採択しました。この戦略は、エドモントンを素晴らしい冬の都市にすることを目指しています。この基盤となったものは、市民から集めた500あまりのアイデア、地元の専門家や他地域の事例でした。そして、信頼性、市政の変化、持続可能性という3原則に照らして、全ての提案を検討しました。この戦略においてはまちづくりのあらゆる側面に目を向け、冬を資産として扱っています。

冬の都市戦略は4つの柱から構成されています。それは、①屋外で気軽に遊ぶこと、②安全で快適な空間、美しく興味を引く空間を設計すること、③四季を通じたパティオ文化を創生し、冬の祭りを支援し、冬季ビジネスの先導役となること、④素晴らしい冬の物語を称賛し宣伝することです。この4つの柱、分野に基づいて64の取り組みを行っています。地域社会が主体となり、多くのパートナーと連携して取り組みを進めています。

ここで皆さんにご紹介したい5つの都市開発計画があります。「冬の設計ガイドライン」は、市のあらゆる開発計画に適用して、年間を通じた活用を可能にする設計でなければなりません。その一つが街並みです。もう一つは公園や広場などのオープンスペースです。公共スペースを改善し、屋外の暮らしに取り入れることであります。

ガイドラインには5つの項目があります。1つ目は風を遮る方法、2つ目は太陽光を捉えること、3つ目は望ましい冬の生活を支えるインフラ整備です。4つ目は色を使うということです。建物をカラフルにすることで活気ある空間になります。5つ目はクリエイティブ照明の活用です。照明は空間の魅力を高め、魔法のような楽しくて、記憶に残る空間にしてくれます。

## まちに視覚的魅力をプラスするクリエイティブ照明

「クリエイティブ照明マスタープラン」は計画段階にありますが、目指すのはまちに視覚的な魅力を加えること、人々が集う魅力的な場所を創出すること、人々を屋外に誘い出すこと、市民のコミュニティ意識を強くすること、位置を確認しやすくすることなどです。エドモントン市独自の特徴を出し、最新技術を用いた優良事例となり、クリエイティブ照明の文化を定着させることを目指します。

クリエイティブ照明の設計における柱は2つあります。一つは市民の誇りを高め、地域の結びつきを強めること、もう一つは連続性です。これは、利用者の経験を考慮し、照明を使った適切なアプローチを行うことで、地域社会とその住民とのつながりを強めるような方法で行うことを重視します。

また、歴史的建造物をライトアップする試行的なプロジェクトを立ち上げ、クリエイティブ商品の費用分担に関する運営方法、システム開発などを検討しております。

また、四季を通じたパティオ文化を支援する取り組みも行っております。毎年ウィンターパティオ・フェアウェルパーティを開催しています。いくつかのカフェを支援し、冬のパティオの快適性を高めています。さらに、冬の屋外マーケットを支援しており、活気ある冬の生活を支える重要な役割を果たしています。

本日お話ししたことは、この4年間エドモントン市が行ってきたことのほんの一部に過ぎません。このような取り組みは市長と市議会が主導し、地域社会もさまざまな形で主導権を発揮しています。そのため、短期間で大きな成果をあげることができました。



## ■敷田モデレーターのコメント

総合的で包括的なアプローチを採用しているエドモントンは非常に魅力的な冬の都市であると思います。新しい概念として、冬のデザインということをご提案いただきました。プランでもビルドでもないデザインであるというところに特徴があると思います。こうしたデザイン志向は、他の都市でも非常に学ぶべきところが多いと思います。



## 冰雪資源を活用し都市を発展させる

ジャムス市副市長

周 啓濤

ジャムスは黒竜江省の東側の政治、経済、科学技術、文化、教育、医療、貿易、交通などの中心です。モンゴル、ロシア、日本、韓国、北朝鮮、東南アジア諸国にもつながっています。温帯大陸性のモンスーン気候で、「生態」と「冰雪」2つの資源の強みがあります。夏は涼しくレジャー避暑地としても知られており、冬は氷と雪の王国です。

現在、観光産業が新たな経済の成長ポイントとなっています。習近平国家主席は「緑の山、青い山、これは金と銀の山である」、そして「黒竜江の氷と雪もこのように宝の山である」と表現しました。氷と雪の資源の開発利用は、経済発展を促す上で重要です。ジャムスは、いろいろな試みをしています。

その一つが氷や雪のイベントです。2003年、第1回三江国際雪かけ祭を開催しました。この雪かけ祭によって、ジャムスの雪や氷の文化、雪かけ合戦や寒中水泳、氷上運動会や雪中サッカー、アルペンスキー、氷上ウエディングなどさまざまなイベントを開催して、「氷の楽園、雪の海原」のイメージを高めました。

2005年にはギネスに挑戦して、1万人の雪かけ祭を行い登録されました。2006年にはロシア観光客向けのツアーを開発し、雪かけ祭の期間中には、1万人を超えるロシアの観光客が訪れました。

近年は政府主導の運営が進み、都市のイメージアップにもつながり、昨年雪かけ祭には国内外から20万人が訪れました。今後は雪かけ祭を中心に特徴的な観光資源の開発に力を入れていきたいと思っています。

### 観光商品の開発などに取り組む

冰雪観光の推進策として、政府主導による企業参加を原則に、冰雪観光発展計画を作りました。企業を誘致して観光産業への投資を奨励するなど、観光産業の規模の拡大にも努めています。

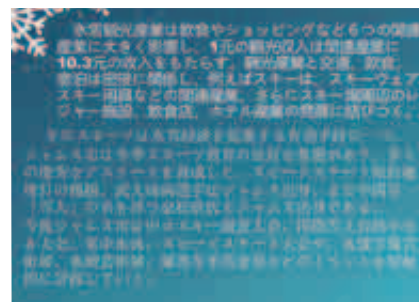
1つ目は、冰雪アーティストを招聘し、観光建設プロジェクトを実施しています。2016年には雪の村プロジェクトを展開し、民族文化、アート、生活体験イベントなどを一体化して、市民や観光客に好評を得ています。

2つ目は、冰雪レジャー施設の建設です。公的資金や民間の資本も投入してインフラの整備を行います。また、市としては「百万の青少年を氷上に」というプロジェクトを行っており、学校の施設内に氷や雪のフィールドを作り、「冰雪像作り」のコンテストなどを開催しています。

3つ目は冬の観光資源の開発、4つ目はツアー商品など観光商品の開発です。

冰雪産業チェーンの拡大も大切です。1中国元の観光収入で、関連する産業に10.3中国元の収入をもたらすことを目指します。観光は、交通や外食産業、宿泊などと密接な関係があります。観光関連産業の発展にも力を入れています。

冬のスポーツは冰雪経済を促進する有効手段の一つです。ジャムスは、ウィンタースポーツ教育をはじめ中露スキー親善大会、国際雪上自動車ラリー、寒中水泳、またスピードスケートなどのスポーツイベントや、氷像、雪像の芸術展や氷祭りなどのイベントを積極的に行っていききたいと思います。



### ■敷田モデレーターのコメント

ジャムスは水力、風力、エネルギーに恵まれた都市、地域でもあります。雪かけ祭は、20万人を集める大きなイベントに成長しておりますし、観光産業の経済波及効果は支出の10倍というふうにご発表にありました。新たな観光産業の育成を進める非常に特徴のあるジャムスの冰雪政策であったと思います。

## 会員都市事例紹介 テーマ1 冬を活用したまちづくり



## 厳しい気象条件における開発の実践

ノボシビルスク市副市長  
アレクセイ・コンドラチエフ

現在、ノボシビルスクの人口はロシアで第3位です。1893年に創建され、その後70年足らずで百万人都市になり、世界で最も早く成長した都市としてギネスブックにも登録されています。道路、鉄道、空港が完備され、市内の交通インフラも整備されています。

市内には学術都市アカデムゴロドクがあり、ロシア科学アカデミーシベリア支部、農業科学アカデミー、医療科学アカデミーの3つの研究施設があります。アカデムゴロドク出身の研究者が、有名な「エアロゲル」という素材を開発しました。エアロゲルは国際宇宙ステーションでも使用されていますが、今後は日常生活での利用にも大きな可能性をもっています。例えば、全面ガラス張りの家や、酷寒でも暖かくて薄い防寒着なども作ることができます。2013年には、アカデムゴロドクに総合テクノパークが設立され、科学研究の成果が先端産業技術に生まれ変わっています。また、ノボシビルスクには34の大学があります。中でも最大の大学はノボシビルスク国立工科大学です。

また、ノボシビルスクはシベリアの文化の中心であり、国立オペラ・バレエ劇場は歴史的にも建築的にも象徴的な建物です。シベリア最大の展示会場「ノボシビルスク・エキスポセンター」もあります。1990年に札幌市と姉妹都市協定を結び、1996年には「シベリア・北海道文化センター」がオープンしました。

## 新しい素材や技術開発を駆使して、通年型の施設整備へ

ノボシビルスクの特徴は、冬が長く寒く、エネルギーコストが高いこと、また、都市インフラの建設コスト、運用コストが高いことです。そのため、私たちは新しい素材、構造、機械、技術の開発に努めています。さらにノボシビルスクの建築家は、空間を効率的に使うことに特に注目しています。通年型のスポーツ観光複合施設「イネイ」プロジェクトや住宅複合施設「ビトラジュ」は、シベリアの厳しい気候を踏まえて開発されたものであります。また、自転車パーク「ベロシティ」プロジェクトは、屋内で1年中いつでも散歩したり、自転車に乗ったりして余暇を快適に過ごすことができるものです。

ノボシビルスクは「雪」の街です。そんな街にとって、冬でも夏の遊びができるようにすることは重要です。アクアパーク「水の世界」は冬でも利用できるユニークな吊り屋根構造の建物で、最先端の技術が使われています。

海洋学センター「ドルフィニヤ」はイルカ館、海と淡水の生物を扱う水族館からなり、200種類以上の魚などが展示されています。今後、イルカと一緒に泳げる施設も建設する予定で、社会プログラムもここで展開される予定です。

2011年に開設されたトレーニングやスポーツイベントを通年行える屋内サッカー場は、市内の建築家が設計した固定アーチからなる鉄骨構造です。技術的に難易度がとても高く、柱のないトラス構造は市内の工場で製造されました。

現在、通年で遊ぶことができる面積3,000ヘクタールのプロジェクトを検討中です。将来的に屋内型の遊園地、子ども農園、アクアパーク、プラネタリウム、オペラ・バレエの劇場を含む観光ルートを作ることを目指しています。



## ■敷田モデレーターのコメント

厳しい気象条件における開発の実践としてご発表いただきました。インフラの整備や新たな屋内空間の創造ということで、通年型の活動の場を屋内に作っていらっしゃる。一方、こうした建設や活動は地元にありますテクノパークや国立の大学によって支えられています。産学、科学との連携や科学や技術との連動というのは、重要なテーマになると思います。



## 冬の資源を財産に変える

鶏西市副市長

于 金才

鶏西市は中国黒竜江省の南東部に位置し、181万人の人口を有する総合的な工業都市です。7千年前にすでに鶏西に隣接するハンカ湖の周辺に人が住み始めており、満州族の祖先である粛慎の発祥の地でもあります。さまざまな鉱物資源を持ち、生態環境も素晴らしいものがあり、グリーンフードを発展させる理想的な街です。また、高速鉄道や鉄道、航空便などがあり、便利な交通網がすでにでき上がっています。

鶏西の冬は5か月に渡ります。冬の資源をどのように科学的に利用していくかは、未来に関わってくる重要な戦略の一つです。冬が長く、寒いため生活コストも高くなりますが、雪と氷は重要な資源で、観光資源になり、多くの観光客が鶏西を訪れており、季節の移り変わりにも人々は大きな関心を寄せています。

雪と氷というのは、独特な土壌資源をもたらし、寒い土地の黒土は栄養が豊かで、森の保全や海の幸に影響を及ぼします。また、雪と氷は天然の冷蔵庫であり、穀物や野菜、肉や果物などの冷蔵にも活用されています。さらに雪や氷は、青い空、緑の山、清らかな水を冬の都市にもたらすエコシステムとしても重要な存在であります。

### 環境に配慮した低炭素型都市の発展

文化面では、多様な民族や宗教が共存し、豊かな民族文化を作り上げてきました。また、このような資源を活用するためには、山や川、湖などの自然環境、温泉、文化、歴史、民族、そして都市や農村の状況、交通などをうまく融合させていかなければならないと思います。それによって冬の観光や冬の農業、さらに休日を活用して生み出す経済、リゾート地への会議の招致、温泉、文化、レジャーなどが一体となった冬の産業システムを構築していくことが大切です。

観光振興策として、ハンカ湖やウスリー川を利用し、多様化した冬の観光を作り上げています。例えば、自動車のラリーやスキーイベントに関連した観光商品によって、多くの観光客を惹きつけています。これによって、レストランやホテルの稼働率がアップしました。

次に冬の農業については、冬のビニールハウスの栽培を行っています。果物などはロシアにも輸出しています。

私たちは、冬のフェスティバル産業を発展させています。クリスマス、春節、元宵月などの休暇期間中の消費の拡大を図っています。雪や氷の魅力をアピールして、ロシアと中国からの新年ツアーを積極的に誘致しています。

雪と氷は自然のものであり、さらに冬の都市が今後どのように発展をしていくかということに関わる重要な資源です。どのように保護していくか、利用するかということを学ばなければなりません。中国には「天と人の融合」を大切にする文化があり、自然を尊重してきました。これからも、私たちは科学技術や制度の刷新を行うなどして、環境に配慮した低炭素型都市の発展を目指していきます。



#### ■敷田モデレーターのコメント

鶏西市の発表にあった、氷と雪についてはまだまだ未利用なものが多いという点で、それを今後利用するための知識や技術の必要性は、ここで皆様をご確認になった通りだと思います。また、文化というものをこの開発や利用に生かしていこうという積極的な姿勢は鶏西市の独自性をさらに強調していくと思われます。

## 会員都市事例紹介 テーマ2 冬以外の季節の気候特性を生かしたまちづくり



## エネルギー安全生活(LIFE)特区

麟蹄郡企画監査室長

イム・デシク

麟蹄郡は、持続可能な地域の開発と代替エネルギー政策こそが、私たちの世代と未来の世代を見据えたまちづくりであると考えています。人口は約3万4千人で、面積は韓国の基礎自治体の中で2番目に広く、人口密度が最も低い街です。経済事情が厳しい中でも選択と集中、そして財政の効率化などを通じて、事業を重点的に進めています。選挙公約として掲げた「安全なまち麟蹄」を実現するために私たちが見つけた答えは、エネルギーにおいて安全な街でした。

そこで、再生可能エネルギーや新エネルギーの生産拡大、エネルギーの効率化、省エネに向けた市民文化を作り上げることを進め、麟蹄が必要とするエネルギーを100%再生可能エネルギーに切り替えることを考え、エネルギー面での自立を目標として掲げたのです。住民諮問委員会と専門家、そして自治体の職員が共に住民参加型の計画を立て、韓国の自治体としては初めて、エネルギーの自立を宣言し、そのアクションプランを作成しました。このプロジェクトは住民と企業が主導し、役所や議会はこれをサポートします。このようなガバナンス体制を構築して、体系的にプロジェクトを進めます。

## 2045年までにエネルギー自立度100%に

重点事業として、新エネルギー及び再生可能エネルギーのコンバージェンス事業を実施し、2015年以降、827か所を対象として太陽光、太陽熱、地熱、風力、小水力発電などの開発を進め、その結果、昨年342か所が完成しました。そして、今年は10月までに485か所が竣工する予定です。2つ目は地域への支援で、公共施設に5か所ソーラーパネルを設置し、小水力発電プロジェクト工事に先月着手しました。3つ目は公共施設以外の建造物や住宅をサポートする事業で、去年は住宅4棟、建造物4棟が完成し、今年も10億ウォンの予算を割り当てました。4つ目は民間の投資による発電事業です。BOT方式で、韓国水力原子力株式会社とハンファS&Cという会社が投資と施工を行い、完成後30年間、彼らが運営管理を行います。その後、麟蹄郡に所有権を移転します。5つ目は麟蹄郡直営の風力発電所1か所、小水力発電所2か所を稼働させ、1日平均150万ウォン、累積で28億ウォンの電力販売収益を上げ、その収益を再生可能エネルギー普及事業に割り当てています。6つ目の取り組みは、省エネリーダーの育成です。住民が直接参加し、省エネ運動を広げています。7つ目は、住民間のコミュニケーションを図り、官民の協力により事業を進めていることです。

これまでの成果は、第1にプロジェクトを推進できる基盤が構築できたこと、第2に発電設備の拡充です。2015年までに年間25,231MWhの発電設備を確保したことにより、エネルギーの自立度を2%高めることができ、年間664toeの化石燃料代替効果を上げ、温室効果ガス削減の効果がありません。さらに電気料金の削減効果もありました。2014年には再生可能エネルギー分野で大統領表彰を受け、エネルギー安全都市事業への参加認証を受け、昨年から2年間コンバージェンス支援自治体に選ばれ、125億ウォンの財源も確保できました。

麟蹄郡は2045年のゴールに向けて、今第一歩を踏み出しました。エネルギー自立度100%を達成するまで、郡民とともに最善を尽くします。



## ■敷田モデレーターのコメント

2045年までにエネルギー自給率を100%に到達させるという非常に高い目標を掲げられたことは、とても印象に残った内容です。5つ目の取り組みの中で、得られた利益を再投資するという一方で、経済的な持続可能性、政策的な持続可能性を保証するという新しいメッセージであったと思います。もう一つ印象に残りましたのは、住民参加を積極的に取り入れている点です。



## 冬祭りの成長と危機、再跳躍

華川郡観光課長

チョン・グァンギョ

韓国の代表的な祭りであります「やまめ祭」が危機を克服し、祭りの再飛躍によって都市経済を発展させています。華川郡は朝鮮戦争によって街並みと建物は全て破壊されましたが、休戦後60年が過ぎた今、活力と活気に溢れる都市に生まれ変わっています。華川郡全体の面積は909km<sup>2</sup>で、総面積の86%が山林、湖が6%、そして山と川が92%を占める典型的な山間の都市で、国境に接した軍事地域です。冬はマイナス15℃以下になり、他の地域より氷が早く凍結し、氷の厚さも毎年30cm以上となり、住民は幼い頃から氷の上でのソリや氷に穴を空けて釣りを楽しんでいました。

### 経済波及効果は初年度の45倍の992億ウォンへ

私たちは、華川郡の冬の遊びの文化をモチーフとした観光産業を通じて地域の経済発展を目指そうと、祭りを構想し始めたのです。きれいな山と澄んだ水は、昔から華川が誇る資源です。このクリーンなイメージを代表する魚が、冷たくきれいな水に生息する魚種「やまめ」でした。このように氷の国華川やまめ祭りが誕生したのです。やまめ祭りは、その企画段階から体験と参加誘導プログラムの開発を行い、体系的な運営を通じて祭りのノウハウを積み上げていきました。地域住民が中心となって祭りの組織を構成し、軍と行政が緊密な協力体制を構築しています。「凍らない人情、溶けない思い出」というスローガンの下、温かくもてなし、訪問者の不便を改善するために努力しました。2003年に始まったやまめ祭りは、初年度、22万人の観光客が訪れましたが、2006年以降、毎年100万人以上の観光客が訪問する韓国ナンバーワンの冬の祭りに成長しました。祭りの成長とともに都市経済も成長し、飲食業、宿泊業などの利用や農産物の販売など売上が増加しました。地域経済規模も祭り初年度の22億ウォンから今年は992億ウォンへと45倍も増加しました。

やまめ祭りでは、地域商品券を活用して地域経済に活力を与え、祭りの経済波及効果を地域に還元しています。また、ランタンのライトアップ、ハート型トンネルや歩行者天国にした中で夜間のパフォーマンスを行うなど、さまざまな努力を重ねてきました。その結果、地域住民の所得の増大にも大きく貢献しました。

2011年、韓国で発生した口蹄疫の影響により祭りを中止しましたが、このことがSNSを通じて全国に知られ、国民から声援が寄せられました。危機を克服して開催された2012年のやまめ祭りは、20か国以上の海外メディアで報道され、世界四大冬祭りへと発展するきっかけとなり、2010年を更に上回る680億ウォンの経済効果をもたらしました。2009年のタイムズ誌や2011年、CNNの世界冬の七不思議に選定され、2013年には世界祝祭都市協会 (IFEA) により「人口5万以下の世界祝祭都市」にも選定され、グローバルな祭りとなりました。

2016年は、スーパーエルニーニョ現象によって大変困難な状況に直面しましたが、気候の変化に対応した祭りの準備を行っていく計画です。同時に、全てのプログラムをさらに充実させ、新たなプログラムも持続的に開発していくつもりです。例えば、夜釣りプログラムなど観光客がもっと長く滞在して楽しむことができる祭りを作っていく計画です。冬を活用した都市開発は、持っている資源を効率的に活用することであると考えています。今後も、華川郡は、冬の都市が持つ魅力を最大限に活用していきます。



■敷田モデレーターのコメント  
フェスティバルの経済波及効果で華川の場合は700億ウォン以上ということで、具体的な数字で表されていることが非常に重要だったと思います。やまめは自然資源でありますけども、やまめ祭りはサービスや商品であります。このように、サービスに変換をしていく、サービス・ドミナント・ロジックという方向性を明確に示されたのが華川のご発表だったと思います。

## 会員都市事例紹介テーマ1 冬を活用したまちづくり



## 冬の資源をいかに活用し都市建設を行うか

チチハル市副秘書長

王 徳海

チチハル市は、嫩江のほとりのロシアとの国境に近い黒竜江省の西部にあり、古くから交通の要衝で、政治経済の中心地でもある歴史ある産業都市です。現在の人口は約 560 万人で、地域文化の近代化や、教育、医療、商業が発展し、特に重工業では中国の代表的な都市となっています。歴史的な文化遺産も数多く残っています。

自然環境も素晴らしく、鶴の故郷と呼ばれていますが、世界的に有名なジャロン湿地は面積が 21 万㎡で、アジアでは最大、世界で 4 番目のアシの湿地となっています。また湖や火山、草原などもあり、エコツアーなどが行われています。2006 年には、チチハルの黒土をテーマにした観光ルートが作られました。これは中国のテレビ局 CCTV の中で、中国の 10 の素晴らしい観光ルートの一つにも選ばれて、多くの観光客が訪れています。

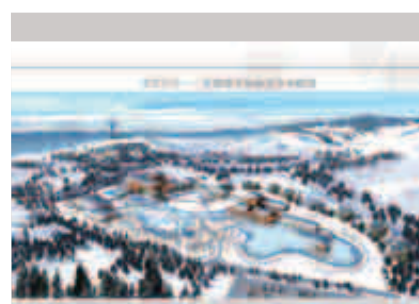
四季がはっきりしており、1 月の平均気温はマイナス 25.7℃、7 月は 22.8℃です。これまで冬というのはマイナスのイメージでしたが、これをいかに住みやすく変えるかを研究テーマに、風を防ぐ対策や街並みの色を考える取り組み、冬の都市の街並みに彩りを添えるライトアップなど、暮らす人々が温かい気持ちになれるような取り組みを行っています。また、省エネ削減効果となる取り組みも行い、地熱を利用したヒートポンプの採用や汚水処理の際に発生する熱を利用した技術、風力発電など、冬の資源を生かす取り組みによって、目に見える形で街の活性化が図られています。

## 総合的な山岳リゾートを建設中し、スポーツと観光振興へ

スケートやアイスホッケー、スキー、カーリングといった冬のスポーツを振興しています。スケートやアイスホッケーの非常に強いチームがあり、ナショナルチームのメンバーを輩出してきました。現在進めている大型施設の建設は、この中でスケートやスキーを行える素晴らしいプロジェクトです。また、付近にはビジネスセンターなども建設し、地区全体のビジネスレベルを上げる取り組みも行っています。碾子山スキー場が完成すれば、黒竜江省の西部における最大規模のスキー場となり、総合的な山岳リゾート地にもなると考えています。

雪と氷に関連する観光は、チチハル市の観光において重要な位置を占めています。ブランド力も高まり、国内外から毎年 10 万人の観光客が訪れ、レストランやホテル、交通機関などが整備されています。龍沙という所にある室内スキー場には、ウォータープークがあります、これはとても斬新なアイデアで作られたもので、四季を通じて利用できる施設です。

教育では、冬の資源を取り入れた小中学校の授業も行われています。例えば、子どもたちが氷の上での活動を体験するといったようなことを毎年行っています。また、雪や氷を使って、街並みを飾るライトアップや、ビジネス地区や広場で雪と氷の展示会を開催しています。



■敷田モデレーターのコメント  
 前回の華川市長会議でのご発表では農業中心のテーマでありましたが、今回はそれをさらに発展させて、さまざまな施策を実際に実現していくためのインフラの整備も含めたご発表をいただきました。観光ブランド力をアップさせたいというのは皆様の都市、共通の願いであろうと思いますが、単品の資源の開発ではなしに、同じテーマを持って連続して資源を開発していくことに大きなポイントがあると感じました。



## オウナスヴァーラ:ロヴァニエミ・レクリエーションセンター

ロヴァニエミ市国際課長

トゥーラ・リントラガルディン

本日はレクリエーションやスポーツ関係施設が密集する地域「オウナスヴァーラ」について、お話をさせていただきます。

オウナスヴァーラセンターは、市街地と川を隔てて向かい側にあるオウナスヴァーラの丘にあります。オウナスヴァーラでは、非常に美しい景観を楽しむことができます。ここでは秋から冬にかけてオーロラを楽しむことができるので、この地域を開発するには注意が必要です。

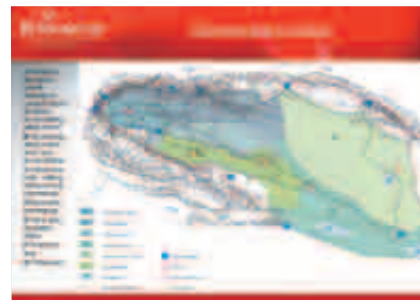
オウナスヴァーラは7つのゾーンに分かれており、ロヴァニエミの市民によって、冬と夏でいろいろな方法で利用されています。

レクリエーションゾーンには、ウェルネス・スポーツセンターやラップランド・スポーツアカデミーがあります。ここには水上スポーツ用のアリーナやサッカー場がありますが、アイスホッケーはフィンランドで最も人気のあるスポーツでありますし、サッカーチームは全国で2番目のチームでした。ウェルネス・スポーツセンターには、ボーリング場、スイミングプール、ジム、子どもの公園などもあります。また、ラップランド・スポーツアカデミーもあり、中学・高校・大学があります。若い学生に勉強とスポーツ教育を組み合わせ提供することが可能です。スポーツに集中して、授業の時間を確保できなかった学生は、ここで教育を受けることができます。ラップランド・スポーツアカデミーは、オリンピックトレーニングセンターにもなっており、ナショナル選手がここで研修やトレーニングを受けております。ラップランド・アリーナではアイスホッケーのトレーニングができますが、スケートの練習も可能です。

オウナスヴァーラにはスキーセンターもあり、国内に4つある国立スキーセンターの一つとなっており、いろいろな競技の会場にもなっています。4.5kmのスキークースに、週末になるとさまざまな国の選手が集まり、新雪の上で練習をします。スキージャンプ台は6つあり、最大で90メートル級です。そしてダウンヒルスキーに関しては12コース、リフトが5台設置されています。

オウナスヴァーラにはさまざまな道があり、冬季はクロスカントリー用に使用され、夏季にはトレッキングに利用されています。100kmのクロスカントリースキークースは冬になると暗くなりますので、コースの半分には照明設備を完備しています。コースはクラシカル走法や新しいスケーティング走法にも適しており、維持管理にも配慮しています。オウナスヴァーラの中で広い面積を占める保護区も整備しています。川に隣接しておりますので、冬は泳ぐことも可能です。

フィンランドにはユニークな「自然享有権」というものがあります。国籍を問わず、フィンランドの田園環境を自由に楽しむ権利を誰でも持っているということです。自然享有権は、自然や他の人々、他人の所有物に対する配慮と責任とともに与えられる権利です。



### ■敷田モデレーターのコメント

ロヴァニエミは、年間200日以上オーロラを見ることができる自然環境、また自然資源に大変恵まれた場所です。しかしながら、それにとどまらずに新たな施設整備や、その施設を使ったいろいろなアクティビティを展開し、それを地域の魅力としていくという方策は素晴らしいと思います。一方こうしたことがフィンランドの「自然享有権」によって保障されているという、政策も注目ができると思いました。

## 会員都市事例紹介 テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり



## 松本市における食品ロス削減の取り組み

松本市長

菅谷 昭

松本市は、美しい自然に囲まれた都市です。また、国宝松本城などの史跡も有しています。松本市では、「健康」を「より良い状態を保つこと」と捉え、人の健康を基礎に生活、地域、環境、経済、教育・文化という6つの健康の実現に向け、さまざまな分野が連携して、将来の都市像「健康寿命延伸都市・松本」を目指しています。

松本市では、“もったいない”をキーワードに、さまざまな3Rの施策を講じています。食品ロス削減事業や、幼稚園や保育園の園児を対象とした参加型の環境教育のほかにも、昨年使わなくなった子ども服やベビーカーなどを回収して、必要な人に配布する松本キッズ・リユースひろば事業や環境に配慮した事業所を認定するecoオフィス松本認定事業なども行っています。

今年のG7環境大臣会合において、各国が食品ロスの削減に取り組んでいく共同声明が出されました。まさに食品ロス削減は、世界的な課題です。松本市では、2010年から先進的に食品ロス削減事業を実施して、飲食店と家庭のそれぞれにおいて取り組んでいます。

## 飲食店や家庭で「残さず食べよう！30・10運動」を展開

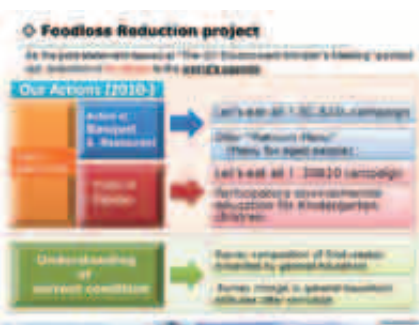
飲食店における取り組みは、おそとで「残さず食べよう！30・10運動」です。宴会の開始後に料理を楽しむ時間を設けることで、最初の30分は料理を食べる。そしてお開き前の10分間もしっかり料理を食べようということで、30・10運動と名付けて周知しています。はじめに、ポケットティッシュ、コースター、ポスターを作成して、協力飲食店やイベントで配布しています。家庭版の30・10運動は、毎月30日は冷蔵庫クリーンアップデーとして冷蔵庫を整理する日、毎月10日はもったいないクッキングデーとして野菜の茎や皮を使った料理をする日として推進しています。松本大学との連携で、野菜をまるごと使ったレシピや余った料理を作り変える「サンクスレシピ集」も作成しました。

市内の公立保育園・幼稚園、全46園の年長児を対象に参加型の環境教育も行っています。捨てたものはどうなるか、食べ残したものはどうなるかをテーマにパワーポイントを使って、市の職員が話します。事業の評価のために、子どもや保護者への意識等変化調査を行いました。その結果、約6割の園児、約5割の保護者に意識変化が見られました。

一方で、変化した意識をいかに継続させるかが課題です。そこで、ペットボトルからリサイクルしたエコバッグや園児向け紙芝居を作成し、環境教育の効果の継続を図っています。昨年度は、環境省のモデル事業として、モデル校3校において、学校給食の食べ残し量の調査を行い、うち2校で環境教育と意識変化等調査をしました。食べ残し量調査の結果は、環境教育を実施したA校、B校においては、給食の食べ残し量が減り、環境教育を実施していないC校においては、食べ残し量が若干増えた結果でした。給食のメニューは、3校とも同じです。

今後も引き続き、食品ロスを削減するために飲食店と家庭それぞれの取り組みが進むように施策を講じます。また、食品ロス調査も実施する予定です。

環境に配慮した持続可能なまちづくりのために、小さな取り組みを積み重ね、大きな成果につながるよう、一層の取り組みを進めていきます。



## ■敷田モデレーターのコメント

非常に身近な食品ロスや食べ残しの問題は、先進各国に共通した食料供給上の大きな問題点でもあります。市の政策としてこれを取り上げられましたご英断は評価できると思います。私からのお願いでありますけれども、松本市のこのご提案に従いまして、本日以降のレセプションでは、ぜひ食べ残しを出さないようにご協力をお願いしたいと思います。



## 水源地の環境管理を強化し、都市の持続的発展を促進する

ハルビン市外事弁公室副主任

崔 玉平

ハルビンは黒竜江省の省都であり、面積は 53,100km<sup>2</sup>、人口 1,064 万人という大都市です。我々は水源地の環境管理を強化し、都市の持続可能な発展を重視しています。

現在、ハルビン市中心部の飲料水は磨盤山ダムを水源としています。貯水量は 5 億 2,300 万 m<sup>3</sup>で、黒竜江省の 36 カ所の水源のうち、最大規模の地表水水源地です。ダムは飲料水の確保以外に、洪水対策、灌漑、生態用水の供給にも使われています。計画給水能力は 1 日 90 万トンの設定ですが、実際は毎日 83 万トンほどが供給されています。水源地の上流の面積は 1,150km<sup>2</sup>で、森林のカバー率は 95%以上です。保護区の面積はおよそ 750km<sup>2</sup>で流域面積の約 4 分の 3 を占めています。この保護区内に住んでいる人は農業・林業に従事しており、人口は約 1 万 5 千人です。

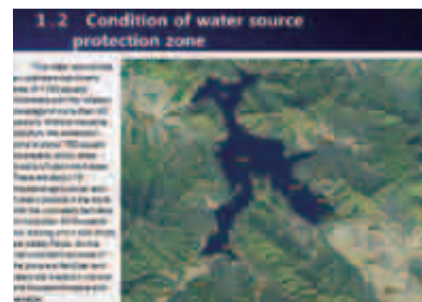
水源の保全と管理にあたっては、実践を通してその特徴を把握し、的確な体制を構築することが大切です。そのために我々は水源環境管理のための専門機関を作りました。この機関の主な任務は、水源の貯水を保ち、その水質の安全を守ることです。ハルビン市は省の林業局と協議をした上で、2012 年に『磨盤山水源地保全区上流伐採停止補償協議書』を締結しました。林業局は 2012 年から水源地流域内の樹木の伐採を停止しましたが、ハルビン市は毎年 3,900 万元を拠出し、伐採の停止に伴う林業局の経済的損失の補償に充てました。造林にも力を入れた結果、森林の被覆率が増え、鳥の種類や数も増えました。

### 水源の立体的コントロールシステムの構築へ

水源環境保全に関する法規として、ハルビン市の磨盤山ダム飲用水水源保全条例が 2012 年に正式に公布され、区内の関連部門の役割や責任が明確化され、保全区の管理の難題が根本的に解決しました。現地の政府、林業局、水務局など複数の部門による共同で水源の管理体制を立ち上げ、合理的な手法で水源保全の範囲を定め、水質の安全を保証し管理の質を高めました。一級保全区においては住民を移転させ、生活污水をなくし、この区内の農地を森林に戻した結果、周辺の生態環境は回復しました。

水源保全プロジェクトを公共施設管理の一部として扱い、2012 年、松花江流域の「十一五」国家事業に基づき、プロジェクトを追加し、生活ゴミによる水源への影響を解決したのです。またハルビン市の計画により、ダム周囲の一級保全区の 3 本の河川兩岸の生態環境が大きく改善しました。ダム建設の初期段階から作られた「磨盤山水源地環境保全計画」は 2011 年に制定され、今は計画の改訂を行っており、これからも改善されていく予定です。

今後の管理は、国の政策と連携し重点的に保護区内の農家や林業関係者の住環境の改善に取り組み、新しく生まれた土地で生態の回復事業を実施します。また、保全区外の上流にある鳳凰山は観光景勝区です。観光産業の発展を目指し森林区の人々の生活を向上させながら、汚染を抑えます。もう一つは、水源の立体的なコントロールシステムを作り、安全で確実に先進的な水源管理体制を構築し管理の水準を高めて、各都市の持続的発展につながればと願っています。



■敷田モデレーターのコメント  
水源の管理、流域の統合的管理は先進各国が現在取り組んでいます重要テーマです。その中で総合的に考えるシステム工学は各都市が学ぶべきアプローチではないでしょうか。特に最適化が必要だという主張は素晴らしいと思いました。また保全をした地域を観光産業やレクリエーションによって価値を創出していく、こういう政策が最終的に地域を持続可能にしていくというふうに考えられます。観光地の背後でこうした地道な努力が進んでいることを、私たちは評価すべきだと思います。

## 会員都市事例紹介 テーマ3 冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり



## 瀋陽市における都市建設に係る報告

瀋陽市都市建設局現代建築産業弁公室主任

居 理宏

瀋陽は、北緯 41 度、東経 123 度に位置する温帯地域で、最低気温はマイナス 35℃にもなります。このような気候条件の中、建築の施工ができる期間をどのように使うか、模索してきました。

現在、瀋陽は発展の真っ只中にある都市で、省エネ建築物や再生可能エネルギーを利用した建築物、産業構造の転換に力を入れています。建築産業の近代化を経済の構造改革と結びつけて行っており、建築物のレベルアップを図っています。また、瀋陽の建設業界に関連するさまざまな産業の発展を促しています。瀋陽は 2011 年に現代建築物の近代化都市として認められ、環境保全モデル都市になりました。現在、建築産業は中央政府のさまざまな政策の中にも組み入れられており、日本からも鹿島建設、積水ハウスなどの技術を導入し、プレハブ、モジュール方式などの技術を導入しています。さらに、鉄構造や木材構造など、カナダの企業とも協力して進めるなど、さまざまなプロジェクトを推進しています。

保証型住宅は、政府が助成した住宅ですが、近代化技術を採用し施工しました。すでに 300 万㎡に達しています。2015 年には、新しいプロジェクトにより政府助成の住宅は約 7 万㎡になり、現在建築中のものを含めると建設事業における総面積は 1,000 万㎡に達します。2015 年は 400 万㎡が新しく着工し、この数字は新規事業の 20%を占めており、中国国内平均の 1%をはるかに上回っています。2012 年からこのような建設の近代化を進めており、第二環状道路から第三環状道路まで拡大していますが、去年はそれを全市に拡大し、その建設率の割合を 30%にしようとしています。

## 省エネグリーンハウスへの改修も促進

建築の近代化に伴い、関連産業の近代化も進めています。建築資材、金属、電気、セラミック関係など 6つの関連主要産業の発展に力を入れるとともに、瀋陽大学、瀋陽建築大学と連携して多くの人材を育成しています。

次に、環境配慮型建築物の促進です。省エネは瀋陽でも非常に浸透しており、省エネ建築物が 65%を占めています。省エネ建築物には、シングルフレーム三層ガラス窓、二層ガラス窓、垂直スチールウールなどさまざまな省エネ技術が採用されています。また、再生可能エネルギーを利用した建築物では、地中熱源ヒートポンプ、下水熱源ヒートポンプ、太陽熱を利用したものがあります。一方で、瀋陽には省エネ対策が進んでいない建築物がまだたくさん残っています。既存の建物に省エネ技術を利用した改修を行っており、住人は居心地のよい住宅での生活が可能になりました。

冬の資源を利用ながら、私どもの子孫、そして地球に持続可能な発展を引き継いでいくことが求められます。



■敷田モデレーターのコメント  
省エネルギーは各都市共通の課題だと思います。それを解決するために総合的な政策で対応している瀋陽市の例は非常に印象的だったと思います。



## 札幌都心部における環境に配慮した持続可能なまちづくり

札幌市長  
秋元 克広

1960年代後半の札幌中心部は、石炭の燃焼で発生するばい煙により大気汚染が深刻な状況でした。1966年に、1972年の冬季オリンピックの札幌開催が決定され、オリンピックの開催までにこの状況を改善しようと地域熱供給を導入しました。石炭ボイラーと煙突を1か所に集約して、そこで高度な燃焼管理とばい煙処理を行い、これによって大気汚染物質を大幅に削減することができました。この経験からまちの発展と環境保全は両立できることを実感し、札幌が環境首都を目指すきっかけとなりました。その後も地域熱供給プラントの設置や熱導管ネットワークの拡張を進め、現在は128haの供給エリアにおいて、100棟に対して総延長45kmの熱導管を介して熱供給を行っています。

近年では、地域熱供給は地球温暖化対策として低炭素なエネルギーの導入や、都市の防災性の向上に向けたエネルギーの自立分散化、多様化を図る役割、さらにはヒートアイランドを抑制し、冬の都市として冷涼な気候や都市環境を保全する役割など、積雪寒冷な気候や環境と共生しながら、都市の持続的な発展を支える重要な役割を果たしています。札幌の都心部では北国らしい豊かな自然環境と高次な都市機能が調和した魅力的なまちづくりを進める一方で、今後札幌は社会経済情勢の変化に対応しながら、国内外からヒト・モノ・情報などを集め、世界都市としての魅力を高めていくということが強く求められています。都心部においては、老朽化した建物の更新時期に合わせて新たなまちづくりと環境エネルギー政策を一体的に展開していきたいと考えています。

### SMILEs と名付けたまちづくりの概念を具現化する取り組み

今年の5月に策定した都心部の新たなまちづくりの計画では、まちづくりの目標を国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立と、魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現と設定しました。これらの目標の実現に向けて、「SMILEs」（スマイルズ）と名付けたまちづくりの概念を具現化する取り組みを進めます。それにより、都心部が札幌の新たな活力を創造し、経済的な成長を持続的に促進するとともに、札幌特有の資源、環境を生かした世界に誇る環境性を備えたまちづくりを象徴的に実現していきたいと考えています。

このようなまちづくりを下支えするために、現在検討を進めているのが都心部のエネルギー政策です。2050年に向けて、世界の共通目標に準じた大幅な低炭素化を目指し、大きな地震や異常気象などの非常時においても都市機能を安定して維持できるように、熱や電力の供給を継続できる体制の構築を目指します。それに向けて、熱や電力を効率的に供給するエネルギーネットワークの構築、環境負荷を低減するグリーンビルへの建て替え、建物ごとや地域全体でのエネルギーマネジメントなどの取り組みを推進します。具体的には、都心を大きく3つのエリアに分けて実施する考えです。1つ目は「都心強化先導エリア」で、ここでは環境に優しく災害に強い高次なビジネス環境を整備し、国内外からの企業立地の促進や投資を誘発します。2つ目は「熱供給ネットワークエリア」で、ここでは多様なエネルギー源を活用した地域熱供給を展開し、効率的なエネルギー利用を進めていきます。3つ目の「低炭素化エリア」では、街全体として低炭素化に向けた先進的な取り組みを行い、環境首都札幌を象徴するモデルエリアを形成して、国内外に積極的にプロモーションしていきたいと考えています。

これから2050年に向けて、街の姿や価値観を札幌都心ブランドとして世界に向けて発信していきたいと考えています。



#### ■敷田モデレーターのコメント

札幌の都心部についての政策の発表でした。この素晴らしい都市の背後で優れたエネルギー政策が進められていることを、会議参加者の皆様もぜひご滞在中にお感じになってください。2050年に向けて、新たな挑戦をする札幌の都心ブランドについて、会議のサブテーマである「冬の都市における環境に配慮した持続可能なまちづくり」に最もふさわしい発表であったと思います。

# 環境保全に関する行動目標の最終報告

2014年1月に韓国・華川郡で開催された第16回世界冬の都市市長会議では、「エネルギーの転換と削減に関する取り組み」と「大気汚染などに関する環境保全の取り組み」の2つのテーマについて、各都市が可能な範囲で数値目標を設定し、今回の市長会議でそれぞれの取組結果を報告することを決議しました。これに基づき、長春、ジャムス、鷄西、瀋陽、ロヴァニエミ、松本、札幌、華川、麟蹄、太白の10都市が行動目標を設定しました。今回の会議では、この時間、会議に参加していた太白を除く9都市が最終報告を行った後、行動目標を設定していなかった都市もそれぞれ環境保全の取り組みについての現状を紹介しました。



## ■長春市の最終報告

### 【行動目標】

- 2017年までに2012年のPM10濃度から15%削減。
- 大気の質が優良な年間日数の年々増加。PM2.5の指標を年ごとに低く設定。全体的な大気環境指数をグレードIIに。
- 石炭利用に関する長期計画を作成。2017年における石炭総消費量を2012年より減らし、2017年までに総エネルギー消費量に占める石炭消費量を65%未満に削減。
- 天然ガス、液化石油ガス（LPG）、合成天然ガス（SNG）の供給増加と風力、太陽光発電、バイオマス・エネルギーなどのクリーンエネルギーの利用増。ガス供給のインフラへの投資を促進。
- 2017年までに個人のボイラー使用を制限。都心部における1時間あたり10トン以下の個人の石炭ボイラーを全撤廃。

大気汚染の改善では、エネルギー構成の調整や小型石炭ボイラーと排ガス汚染物質の排出基準を満たさない自動車を削減したことにより、大気の質が良くなり、2015年には空気の状況が良かった日は237日でした。PM10の濃度は、 $107 \mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、昨年比  $11 \mu\text{g}$  の削減となっています。2013年比では  $22 \mu\text{g}$  の減少で、割合にして17.1%の減少となりました。次に、PM2.5の平均濃度は  $66 \mu\text{g}/\text{m}^3$  となりました。これは前年に比べて、 $2 \mu\text{g}$  の削減です。2013年比は  $7 \mu\text{g}$  の削減ということになり、削減率は9.6%となりました。中国の74ある重点都市の中で空気の質は54位で、北にある副省級都市の中では第2位の位置です。

現在、石炭の消費量を可能な限り抑え、空気の質を改善させています。また、エネルギー構成の調整も急いでいます。石炭が一次エネルギー総消費量に占める割合は82%、78%、73%とこの3年間で減少しています。大気汚染を改善するために、「代替、合併、制御、管理」を行い、長春市ではエネルギー構造の調整に関する計画も打ち立てました。クリーンエネルギーの代替も進めており、パ

イプラインやガスタンクの建設、CNG/LNGステーションを造り、天然ガスの利用を増やしています。2017年には長春市全体において、このガス管の敷設がほぼ終わることになっています。

長春市の「大気汚染処理・防止行動計画実施方案」の規程によって、長春市において10トン以下の石炭ボイラーを廃棄していきます。2014年には328台、2015年には1,205台の廃棄を実現し、2016年には1,235台を廃棄する予定で、2017年末までには、石炭ボイラーの完全廃棄を予定しています。長春では2017年に向けた行動目標を発表しましたが、行動目標を完全に達成できるという自信を持っています。

## ■ジャムス市の最終報告

### 【行動目標】

- 2017年末までに建設完成地域における集中暖房普及率73%を実現させる。
- 2017年末までに都市部の緑地率41%を実現させる。

環境保護というのは、非常に大きな永遠のテーマであり、重要な事業です。発展、モデルチェンジ、環境保護の3つを一元的に計画し、節約型の産業体制を作り、環境の負荷を低減しています。また、責任制度を明確にし、汚染物質の排出権取引や法律の適用も厳しく行い、民間の人々が環境保護に参加できる制度づくりも行っています。

大気汚染計画では、2017年までにPM10については、2012年比5%削減することとしています。さらに、工業地域においては、熱の供給や蒸気の供給を集中的に行えるシステムの構築も進め、石炭焚きのボイラーには除塵施設の建設を進め、汚染を改善していくために小型ボ

イラーを熱供給システムと結びつけていきます。さらに、交通についても公共交通機関を発達させて、緑地化も進めていきます。レストランなどから出る油煙処理も進めていきます。

この環境保護の問題解決は科学的に行い、汚染問題や飲料水の水源保護にも力を入れ、人々が安心して水が飲めるようにしていきます。重点地域においては地域が連携して行えるシステムを作り、エネルギー調整や産業構造の改革を行っています。都市部と農村部の環境対策を一元的に行います。農村部で起こっている環境汚染は、都市に暮らす人々の食事に直接影響します。農村部においてはしっかりと環境保護対策を行い、汚染が発生する可能性があるリスクを断ち切っていかなければなりません。緊急的な事象が発生した場合の準備、さらに化学関連会社の設置などについても合理的に進めていきます。

## ■鶏西市の最終報告

### 【行動目標】

- 生態系保護目標率 100%を実現。
- 都市部の飲料水水源の水質目標率 100%を実現。
- 都市地域の環境騒音レベルを国の一次基準に適合させる。
- COD（化学的酸素要求量）750 トン、NH<sub>3</sub>-N（アンモニア性窒素）60 トン、SO<sub>2</sub>（二酸化硫黄）1,500 トン、NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）2,800 トンを削減。
- PM<sub>10</sub> 濃度を 65  $\mu\text{g}/\text{m}^3$  以下に維持。
- SO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>、CO およびオゾンの年間環境大気濃度について、国の基準レベルⅡ以上を常時クリア。
- 地域を流れる水の水質を地域に入手する水の水質より高くする。その境界における水質は、機能区分のクラスⅢの 80% を達成。
- 興凱（ハンカ）湖の水質を大幅に改善するよう努める。

鶏西市は目標を達成するために重点的に取り組み、追跡調査も強化しています。全力を挙げて生態保護を推進し、2015 年、生態保護の目標達成率は 100%となりました。生活用水の水源地の水質も 100%を達成しました。騒音は国の基準に達し、川や湖の水質も改善され、空気も良いレベルに達した日数が 326 日でありました。

川の汚染管理については、ハンカ湖の環境保護計画を作成し、生態環境の保護について計画的に実施しています。水質については、三段階の警戒レベルを設定し、管理を行っています。大気汚染の防止については、排出される粉塵や自動車の排気ガス、油の回収、小規模な石炭ボイラーの撤廃などを重点的に促進しています。2015 年、鶏西の大気監視日数は 349 日で、質の良い日は 175 日、良好な日は 151 日、目標達成率は 93.4%でした。

農村の汚染防止にも力を入れています。廃棄物の減少、水道流出の防止、農村環境の総合的な管理の強化を図っています。次に、グリーン理念を確立し、全体的な排出量の削減計画を作り、排出削減プロジェクトを実施しています。大気汚染の排出削減、水汚染物の排出削減などを行っています。年ごとに各県や重点企業はアンモニア

窒素、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub> の削減目標を作っており、それを達成しています。環境管理も強化しています。投資プロジェクトについての省エネ評価や審査を行い、産業政策に合わないものは許可しません。すべての企業、業界に対して定員や職責、任務、賞歴、処罰などを決めて管理を行い、厳しいモニタリングを行って観測データなどを公表するようにしています。違法行為があった場合は厳しく取り締まっています。

多くの人に参加してもらうため広報を強化し、人々の意識を高めていきます。テレビや放送、新聞、インターネットなどメディアを利用し、人々の意識を高めて、市民の環境保護運動を展開しています。若者のボランティアの部隊も作っています。

次に、グリーン活動を展開するということであります。環境に優しい企業やコミュニティ、学校、農村を作り、環境保護の理念が浸透して、多くの人が積極的に参加できるようにしています。

## ■瀋陽市の最終報告

### 【行動目標】

- 1つの規制：一般的エネルギー消費の規制  
①バイオ発電や熱供給の活用の促進、②天然ガスの導入および活用の拡大、③下水から出る熱の活用促進によりクリーンエネルギーや再生可能エネルギーの活用量を毎年 3%以上増加させる。クリーンエネルギー、新エネルギーのバスを増やし、段階的に古い車両を減らす。汚染物質を排出する企業名を公開することを予定している。実施計画を策定し、その計画のスケジュールに沿って閉鎖、移転を促す。
- 2つの撤去の側面：ボイラー式暖房システムおよび貧民街の撤去  
2017 年末までに、①高汚染燃料燃焼の削減、②熱供給量 20 トン以下の石炭燃料式ボイラーの撤去、③大規模の熱源建設及び熱・発電併用プロジェクトの加速に関する政策を実施予定としている。2017 年までに貧民街の再開発に最大限努力する。
- 4つの管理の側面：ボイラー、車両、埃及びわらの焼却の管理  
2015 年に大型石炭燃料式ボイラー 100 台の立て直しを完了し、排出基準に適合させることを計画している。まだ稼働している黄色ラベル車両（排気ガスに関する国家基準を満たしていない車両に黄色のナンバープレートが付けられる）の廃止を行う予定である。さらに、都市の砂埃汚染に関する予防管理対策を実施予定である。道路を水で清掃する比率と清掃頻度を高めるとともに、緑化の促進を行う。わらの総合的活用のアクションプランを仕上げ、2017 年までに活用比率を 15%までに増加させる予定である。

空気の質を改善するために、瀋陽市は青空プロジェクトを推進し、2016 年、瀋陽市のスモッグ防止の実施法案を制定しました。市政府各部署も責任目標を立て、「一つの規制、二つの撤去、四つの管理」というスローガンで大気汚染を防止し、管理しています。「一つのコントロール」とは、エネルギー消費の総量を全面的にコントロールする計画を作り、石炭を燃料とする設備や石炭の消耗の高いプロジェクトを厳しくコントロールし、天然ガスや電気などのクリーンエネルギーの供給能力を上げてい

ます。石炭をガスに変えることに対して、優遇政策を実施しています。電気のネットワークを普及させ、送電能力を強めていきます。新エネルギー自動車やガス燃料自動車の普及を進め、バスもクリーンエネルギーを使用し、古い車や公害を出す車を削減するようにしています。

「二つの撤去」とは、小型ボイラーと老朽化した建物を撤去することです。10 トン以下の小型ボイラーの撤去と改良作業を早めて、2016 年には 10 トン以下の石炭ボイラーをすべて撤去し、全部電気にします。また、古い建物を撤去し、改造する作業も早めています。

「四つの管理」というのは、ボイラーの管理、車の管理、粉塵の管理、麦わらなどの焼却についての管理です。石炭ボイラーについては、現在、改造の作業が進められています。公害を出す車は、2016 年に第四環状道路内までにその範囲を広げて、この地域をグリーンエリアにして公害を出す車を全部排除することにしています。また、オイルの品質の管理・監督も強化しています。粉塵の汚染については、防止方法を瀋陽市が発表し、建築現場、建物の施工など厳しく管理しています。そして、環境法に違反したものに対しては処罰を与えます。また、道路の清掃も毎日 4 回程度行っています。また、麦わらなどの综合利用については、農作物の麦わらの資源管理と综合利用に関する奨励政策を打ち出し、総合管理などを行っています。

## ■ロヴァニエミ市の最終報告

### 【行動目標】

- エネルギー効率アクション・プラン  
2006 年のエネルギー消費量と比較して、2008 年から 2016 年の各年のエネルギー使用量 9%削減を目指す。エネルギー削減目標の総量は、8,479GWh.
- ナバピーリ・エネルギー&ウォーター社  
技術開発や新技術導入、バイオ燃料への投資により、CO<sub>2</sub>、NO<sub>2</sub>、SO<sub>2</sub> および微粒子の削減に努めている。また、灰や廃水、汚泥などの残留物を再利用し、肥料、土壌、建設材料に加工される。
- 都市活用および公共交通計画における都市区域計画指針を採用。環境の質の向上及びエネルギー消費削減を図る。

エネルギーの効率や再生可能エネルギーに関しても、消費モニタリングを実施しエネルギーの節約を目指しています。水泳プール施設の屋根に設置したソーラーパネルにより、16 m W のエネルギーを生産しています。また、食料サービスに関しては、2015 年に新しい多機能集中調理施設を建設しました。設置当初から継続して水消費量のモニタリングを行い、電気器具の調理や作業プロセスにおけるエネルギー効率に特に留意しています。清掃に関しては、スチーマーとマイクロファイバークリーニングを主に使用し、必要な水量、洗剤量がそれにより削減されました。土地利用、交通、建設では、水銀灯約 13,000 灯を LED ランプに交換し、これにより 1 灯あた

り 89W の節電となりました。エネルギー効率は、土地利用と交通計画の重要な要素です。エネルギー効率率は、ビル設計や建設プロセスにおいて実施されています。輸送に関しては、輸送や物流にエコドライブを導入しています。輸送サービスを調達する際、エネルギー効率の詳細が提示された入札を優先するようにしています。

2 番目の削減目標としましては、北極圏の厳寒環境における給水とエネルギー供給の復元力で、これはアークティックサークル・エナジー・アンド・ウォーター社と協力して行っています。この会社は、地域暖房、給水、電力を担っており、2016 年までの目標は、煙道ガスコンデンサーにより窒素、硫黄、微細粉塵の排出を徹底的に減少させ、4 年で二酸化硫黄は 84%減となりました。これは 2012 年度比の数字で、二酸化窒素は 49%減、粉塵は 50%減になりました。同社は、年間 33 万 m<sup>3</sup>の水を販売しており、41 万 m<sup>3</sup>の地下水をポンプでくみ上げています。残留物については、2012 年からフライアッシュを全く生産していません。灰生産総量は 2012 年比 37%減で、2015 年までに灰は副産物商品として地盤工事や客土に使用されています。また、この会社はジオデザインにも関わっており、参加型デザインとジオポリマー技術を使用して、オウル大学、ラップランド大学と技術協力しています。

3 つ目の目標の都市計画・交通計画についてです。現在、都市部は歩行者ゾーン、自転車ゾーン、公共交通ゾーン、自家用車ゾーンなど定められたゾーンから成っています。今後はアパートの階数が増え多目的ビルが建設される予定で、2017 年の都市計画では新たな駐車用ツールと柔軟性のある設計ガイドラインに基づき実施される予定です。交通に関しては、ロヴァニエミ市は 2015 年に新規バス路線を計画しました。都市部の制限速度評価を行い、新たな制限速度を設定しました。自転車と歩行者向け推進計画の策定が完了して、政治家によるこれらの新しい計画指針の評価が 2016 年に行われます。

## ■松本市の最終報告

### 【行動目標】

- エネルギーの転換と削減に関する取り組み
  - ①太陽光発電システム設置住宅数の一般世帯に占める割合を、2015 年度末に 6%とする
  - ②太陽光発電システムを設置した市立小中学校の割合を、2015 年度末に 100%とする。
  - ③太陽光発電システムを設置した市立保育園数を、2015 年度末に 5 園とする。
- 大気汚染などに関する環境保全の取り組み
  - ①二酸化炭素排出量の削減に向けて、市広報誌を活用し啓発

松本市では 3 つの行動目標を設定し、これまでエネルギーの転換と削減に取り組んできました。まず太陽光発電システム普及率は、2015 年度末で 5.51%でした。6%の目標が達成できなかった原因は、2013 年度をもっ

て国の補助金制度が終了したことや、固定価格買取制度の買取価格の下落などが挙げられます。太陽光発電は、市内に存在する未利用の再生可能エネルギー量の55%を占めています。地球温暖化対策を進めるにあたり、太陽光発電システムのさらなる普及が重要ですが、松本市は糸魚川―静岡構造線活断層上にあり、大規模地震の発生確率が高いことから、防災の観点からも住宅への太陽光発電システムの設置を促す施策を今後も引き続き積極的に進めます。

市立小・中学校への太陽光発電システムの普及率は、市内にある45の小・中学校の内、補助金の関係で設置できなかった3校を除くすべての小・中学校に設置が完了しました。残る3校についても、今年度中に設置する計画となっています。今後は、すべての小・中学校が指定避難所に指定されていることから、災害時にも最大限活用できるよう蓄電池の設置について検討を進めます。

市立の保育園5園に太陽光発電システムの設置を達成しました。今後、指定避難所に指定されている保育園を中心に、太陽光発電システムのさらなる設置を検討しています。

大気汚染に関する環境保全の取り組みについて報告します。松本市では、市民の安心安全を考え、福島第一原子力発電所の事故を受けて、平成23年3月17日から「空間放射線量等の測定」を開始しました。同年4月からは、市内11カ所での測定体制としましたが、現在は、週1回、市内5カ所及び市内小学校4カ所での測定と、週2回、職員による市役所での測定を継続実施しています。なお、これまでに異常値は測定されておりません。土壌と地下水の放射性物質濃度の測定を松本市立の全28小学校と地下水等5カ所において、年1回実施していますが、こちらも異常値は測定されておりません。測定の結果につきましては、広報まつもと、テレビ、新聞などマスコミ各社の協力を得ながら、情報提供に努めています。

## ■札幌市の最終報告

### 【行動目標】

- 省エネ型ライフスタイル  
環境配慮活動の実践率 2012年61%、目標値2030年90%
- 事業所への分散電源導入や都心部におけるエネルギーネットワーク強化  
事業用分散型電源システムによる発電量 2012年1.7億kWh、目標値2030年4.3億kWh
- 次世代自動車導入の普及拡大  
次世代自動車導入の台数 2012年4万台、目標値2030年31万台
- 太陽光発電設備の普及拡大  
太陽光発電設備による発電量 2012年0.2億kWh、目標値6.5億kWh

「札幌市温暖化対策推進計画」は、持続可能な低炭素社会の実現に向けた具体的な温暖化対策を推進するた

め、2015年3月に策定しました。この計画では、長期目標として2050年に温室効果ガスを1990年比で80%削減、中期目標として2030年に25%削減することとしています。また、目指すべき将来の札幌の姿として、6つの社会像を定義しており、その中から4つの行動目標について報告します。

指標1の環境配慮活動の実践率については、家庭における再生可能エネルギー機器の導入や、節電・節水などの環境配慮行動を日常的に実践する市民の割合ですが、2015年には環境配慮活動の実践率は61.2%でした。また、2015年からは、無駄なく、賢く、省エネ・節電を楽しむ暮らし方を家庭・事業者へ呼びかける普及啓発活動「さっぽろスマートシティプロジェクト」を開始しています。

次に、指標2の事業用分散型電源システムによる発電量は、2014年には、市内中心部に大型のコジェネレーション設備が導入され、2015年現在、1億8千3百kWhとなりました。大型の分散型電源システムは、導入費用が高額であることや設置に適した施設に限られることが課題となっています。

次に、指標3の次世代自動車の導入台数ですが、燃料電池自動車や電気自動車、ハイブリッド自動車などの次世代自動車導入は、2014年現在、市内では6万9千台普及しています。また、今年度は、水素を燃料とした燃料電池自動車の普及を目指し、普及促進計画を策定します。

最後に、指標4の太陽光発電設備による発電量について説明します。市内の太陽光発電設備による発電量は、2015年現在、事業者による太陽光発電の設置が大幅に伸びたことなどにより、家庭および事業者が設置した太陽光発電の電力量は4千8百万kWhとなっています。

## ■華川郡の最終報告

### 【行動目標】

- 再生エネルギーの補給事業の推進
- 都心のヒートアイランド現象の低減に向けた事業の推進

2000年代に入ると、都市の発展に向けた各種の施策が支援され、華川郡はクリーンな環境を活用した観光に焦点を当てて開発を推進しました。環境に配慮したエネルギー事業や環境保護政策を推進しました。華川郡では、まず公共機関のエネルギー削減のために、エネルギー消費量の20%程度をクリーンエネルギーや再生可能エネルギーとして構築しようと努力しています。華川郡庁では、冬には地熱を利用した暖房システムを使い、太陽光発電により電力の一部を賄っています。また、新たに建設された公共機関では、設計段階から太陽光発電設備の設置を義務付けています。民間部門においても、太陽光発電事業は太陽光によって生産された電力を韓国電力に売電するといった形で進めています。現在7つの村で

10 億ウォンほどの利益が上がっています。

2 点目は、環境汚染物質を減らすため、植物を植えるという事業です。この植物はヤマブキショウマという薬用植物ですが、河川に流入する土砂を防ぐ目的があります。ある研究機関によりますと、傾斜面にこのヤマブキショウマを植栽したことで、70%の汚染の低減効果があったという発表があります。華川郡は 10 万㎡に植栽を行い、この事業を通じて植栽や管理に必要な雇用の創出により地域経済の活性化にも一部貢献しています。また、収穫した作物を加工販売して、さらなる収益を期待できる事業でもあります。

このようなクリーンな自然管理の成果を基盤に、華川郡では毎年 1 月にやまめ祭りを行い、グローバルな都市として成長しています。環境保護対策はやまめ祭りの成功とも関係があり、これにより地域発展にもプラスになりますので、環境管理の重要性を強調しているところがあります。

## ■麟蹄郡の最終報告

### 【行動目標】

#### ●エネルギーと熱の効率的な利用の取り組み

- ①風力発電設備容量：5,500,000kWh
- ②水力発電設備容量：2,500,000kWh
- ③住宅での太陽光発電システムの設置：640 カ所、1,700kW

#### ●環境保護に関する取り組み

- ①河川水質を保護するための下水処理施設の設置：3 カ所
- ②大気質を保護するためのごみ焼却場の設置：1 カ所（2017 年まで）

環境保護では、河川の水質を保護するために下水処理施設の増設が必要になってきました。増設を予定しているのは、3 カ所です。これが完成しますと、処理能力は 1 日平均 5,800 トンから 7,200 トンに増えます。現在、進捗率は 30%です。2018 年の完成を目標にしています。大気汚染防止のための取り組みでは、ごみ焼却施設を 1 カ所新たに建設する予定で、これに加えて、既存のごみ焼却場のリニューアルにも着工し、2018 年の完成を目指しています。これによって、異臭の発生を抑え、排水の発生や有害ガスの排出を最小化することができます。これは環境汚染の防止につながります。また、焼却場から出る廃熱を利用し、住民所得の向上につなげる方策も検討し、実行しています。

次に、太陽光発電システムは 2013 年までに 640 カ所に設置が完了しました。2018 年までにさらに 827 カ所設置し、合計 1,467 カ所となり、目標を 122%達成することになります。次に風力発電ですが、2013 年の発電量は 274 万 kWh でした。2015 年には 412 万 kWh となり約 50%増となりました。2018 年までに目標の 550 万 kWh は達成可能であると思っています。

**進行：部事務局長 ■**ありがとうございました。ただ今の各都市からのご報告について、何かご質問などがありましたらご発言をお願いします。

**松本市 菅谷 昭 ■**実はかつて日本では、企業によるところの公害、例えば川崎市などで、その住民が喘息などを起こしたという健康障害が出ました。長春市とか、あるいはジャムス市など、大気汚染によって住民の皆さんに呼吸器疾患、喘息とかそういうものが発生していることはないのか。あるいはそういう人に対しての行政としての対応を何かやっているのか教えていただければと思っています。

**進行：部事務局長 ■**各都市の皆さん、いかがでしょうか。すぐには出てこないようですので、もしそういった例がありましたら、後日事務局に参考になる資料をお寄せいただければ、各都市にまたお配りをしたいと思います。

**松本市 菅谷 昭 ■**ありがとうございました。特に日本の場合には、気管支喘息とか慢性気管支肺炎とか気管支炎ということがあり、PM2.5 などは日本の方では大変問題になっているものですから、お聞きしました。

**進行：部事務局長 ■**ここまで、行動目標を設定した各都市から発表をいただけてまいりました。行動目標を設定されていない都市におきましても、こういった問題にどういった取り組みをされているのか、どんな効果を上げていらっしゃるのか、参考までお伺いできればと思います。カナダのエドモントン市さん、環境への取り組みについて教えてください。

## 廃棄物管理と水管理部門では世界の最先端

**エドモントン市 スーザン・ホルドスウォース ■**エドモントンは、「私たちの環境保全の方法」という高次の環境戦略計画を 2011 年に設定し、現在取り組んでいるところです。3 つの問題があります。一つはエネルギーの削減、二つ目は食物について、三つ目は固形物廃棄物についてです。4 つの目標を設定して、組織的な取り組みを行い、2040 年までに達成できと思っています。

エドモントン市のエネルギー移転戦略は、2015 年 8 月に発表されました。この戦略には、エドモントン市の温室効果ガス排出量を減らし、全部門でエネルギー効率を高め、省エネルギーを促進します。それから、市のエネルギー配給システムを気候変動による衝撃と混乱に耐えられるようにしていきます。

エドモントン市は、ほぼ年間を通して日照時間に恵まれているため、「エネルギー移転戦略」では太陽エネル

ギーの利用を特に重視しています。毎年「環境報告書」を作成して市民に提供しています。その中で市の環境戦略計画「The Way We Green」に照らして各部門のプログラムを検証し、その現状と課題を評価しています。日々の活動が環境に及ぼす影響を測定・評価し、その結果を報告することで、この影響を効果的に管理できるようにしています。喜ばしいことに、著しく人口が増加したにも関わらず、当市の空気と水は以前よりもきれいになり、ごみの廃棄量も減っています。今後はエドモントン市のエコロジカルフットプリントの縮小に向け、新たな取り組みを進めていきます。

エドモントン市は、廃棄物管理と水管理部門では世界の最先端にあります。これからさまざまなプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

**進行：部事務局長 ■**戦略的に環境対策についても進めておられる様子がうかがえました。ではハルビン市さん、いかがでしょうか。

## 農村の環境総合対策では、国の実験都市に

**ハルビン市 崔 玉平 ■**環境保全について目標は定めていませんが、さまざま取り組んでいます。特に、水汚染、大気汚染、農村での環境の総合的な対処です。水汚染については、「三つの溝、一つの川」という言い方をしているのですが、松花江という大きな川以外に、3つの支流があります。2012年以降、60億元を投じて、重点的に河川の川床を清掃したり、緑化を図ったりしています。そして108kmにわたり、污水関係のパイプラインを作り、川の水をきれいに改善しました。この川の環境対策は2013年、中国の人間環境のモデル事業として賞を取りました。さらに重点的な汚染対処のプロジェクトも推進しています。資金としては10億元以上を投入し、52の重点的な流域で事業を行っています。これまでに我々は污水处理場を22カ所作り、一日の污水处理の能力は155.6万トンに達しています。特に、市街区においては、一日の污水の処理能力は140万トンに達しております。都市の污水集中処理率は今では90%になっています。また、重点的な支流でも環境対策を行って、定期的に状況を報告するという制度を実施しています。12の一級支流の水質は75%が基準を達成しています。水の主な指標についても大きく改善をしています。都市の下水処理場や家畜などのし尿の無害化といったことに重点におき、CODで13%、アンモニア窒素16%の削減が見られます。

大気汚染の対処については、国内の法律法規を基に、市内の全区域が協力しながら対策を行っています。特に、ばい煙汚染です。東北というのは冬の暖房で石炭を大量に焚くことになります。熱源に関して集中的にボイラーを焚いています。また、全市で熱供給のネットワークを

87%にわたって敷き詰めています。10トン以下の小規模な石炭ボイラー2,360台分を改造しました。自動車の排気ガスにも対処し、路線バスでは50%以上が天然ガス車となっています。第12五か年計画の間では、産業排ガスなどの対処もしています。例えば、脱硫装置、脱硝装置などを導入しておりまして、二酸化硫黄や窒素酸化物も、それぞれ第11五か年計画の末よりも2.8%、4.87%排出量が削減されています。

農村の環境総合対策については国の実験都市に指定されており、農村の環境保護に関する全般的なプランを出しています。そして165の農村関連の事業を立ち上げ、農村の広範囲な汚染の効果的な対処を行っています。そして、自然保護区を37カ所指定しました。その中に国家レベルの自然保護区が1つ、省レベルのものが11、市レベルのものが4つ、県レベルのものが20あります。総面積は56万haほどになります。そして、8ha以上の天然の湿地の面積は、全体で29万haとなっています。天然の草原の面積は26万ha、国の一・二類重点保護野生動物が50種ほどあります。また、一・二類重点保護植物が7種あるというような形であります。

**進行：部事務局長 ■**モンゴルのウランバートル市では、厳しい冬に暖房需要が増えて、大気汚染の一因になっているという議論が2012年の市長会議の中でも出されていました。現在、ウランバートル市さんではこういった対策を進められていらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。

## 2020年までに7万世帯に中央ヒーティングシステムの暖房を

**ウランバートル市 サンダグドルジ・バヤルバートル ■**ウランバートルでは、大気汚染というものが一番大きな問題になっており、ウランバートルに住んでいる住民の6割が熱インフラの整備されていない地区に住んでいます。その大気汚染対策として、短期的にウランバートル市が取り組んでいるものが、インフラが整備されていないゲル地区に住んでいる各家庭の9割のストーブを改良型ストーブに変えたという政策です。我々は、長期的にゲル地区を再開発し、すべて中央ヒーティングシステムに接続することに取り組んでいます。現在24カ所でゲル地区の再開発の事業を実施しています。目標としては、2020年までに7万世帯に中央ヒーティングシステムを導入したアパート化という事業を計画しています。

また、ウランバートル市内の8カ所で、ばい煙のモニタリングを定期的に行い、現状の把握に取り組んでいます。大気汚染の二番目の大きな原因というのは、車からの排煙です。それに対しては、公共交通の充実を図るためにバスラインを特設し、第一車線をバスラインにして自動車の利用を減少させるための政策も取っております。

**進行：部事務局長** ■この暖房の問題については、寒さが厳しければそれだけ深刻な問題になります。ロシアのノボシビルスク市では、こういった取り組みをされています。どう思いますでしょうか。

## 省エネ暖房と燃料を石炭中心からガス化へ

**ノボシビルスク市 アレクセイ・コンドラチエフ** ■ノボシビルスクの冬は非常に厳しく、マイナス 40℃まで下がりますので、そういった意味ではエネルギーを節約していくということと、エネルギーを安定供給していくということが非常に重要な課題になっています。熱源としては最小限のエネルギー消費にとどめて省エネの暖房というものをしていきたいと思ひますし、石炭中心の暖房から、今後はガス化していかなければいけないと考えています。ノボシビルスクでは、その点に関しても措置を取っているわけですが、発表の準備をしていませんでしたので、数字を挙げることはできません。

エネルギー問題の対策は、専門の機関が 10 年間の計画を立てています。また、環境問題の改善に関して、ノボシビルスクでは、企業・工場を市街から出すという方向性になっています。これは 2 つの問題を解決することができます。環境問題の改善と、特に 30 年代、40 年代、50 年代に開発した街を再開発するということで、現在企業が進めています。また、住居に関してもこの 10 年間、非常に快適な住宅を作っているということもあります。魅力的なまちづくりにも貢献しているところです。他の地域と比べ人口が増加しているわけです。特に魅力的な街にするということで、住環境に関しても改善をしています。

**進行：部事務局長** ■突然の指名で申し訳ありません。大変幅広い説明をしていただきました。それぞれエネルギー問題や環境保全に関してはいろいろと取り組みをされているということが大変よくわかりました。もう一度、この都市からのこの部分についてもう少し詳しく聞いてみたい、というところはありますか。

**麟蹄郡 イ・スンソン** ■各都市の今の議論を聞いておまして、燃料というところに皆さん関心をお持ちのようなので、麟蹄の例を少し話させていただきたいと思ひます。

韓国も各家庭でかつては練炭を使っていました。しかし、それが電気ボイラーに変わり、そして今ではほとんどの家庭で電気ボイラーを使っています。ただ麟蹄郡の場合は、今後政策的にソーラーパネル、太陽光を用いたボイラーに切り換えようという方向で動いております。練炭のボイラーから電気ボイラーに切り替わったことで、大気汚染の問題は解決しましたが、電気料金が経済的な負担となりました。3kW のソーラーパネル

を設置しますと、かつての電気代の 5% くらいの負担で電気を使えるようになりました。もちろん、ソーラーパネル 3kW の設置には、韓国のお金で 900 万ウォン、日本円で 90 万円くらいかかります。韓国は、国あるいは自治体がこういったソーラーパネルの設置の 70% を補助していますので、3 年くらいで各家庭が投資をした分は回収できます。太陽光発電パネルの場合、耐久年数が 15 年くらいですから、10 年間くらいはプラスになります。一般住民の立場から見ますと、経済面でのメリットというところでも生まれてきたということで、こちらの方で積極的に進めているわけです。

**進行：部事務局長** ■地球環境問題への対応が国際的に大きな議論となっている中、この市長会では 2006 年の長春会議以降、市長会議として地球環境問題を取り上げてきています。これはまさに全会員都市が地球市民として一丸となって取り組むべき課題であります。長春会議以降の市長会議では、地球環境問題を冬の都市が抱える共通の課題と捉え、会議の締めくくりで決議する宣言文の中にも地球環境問題に関する文言を盛り込み、その解決に向けた取り組みを進めていくことの重要性を会員都市の総意として認識を共有してきたところです。今回の環境行動目標に関する取り組みにつきましても、まさにこうした共通の認識の下、各都市が様々な取り組みを重ねてきた結果であり、多くの成果が得られているというふうに思ひます。

しかし、エネルギーをはじめとする地球環境問題への取り組みにはゴールというものはないと言っても過言ではありません。前回の華川会議で採択されました華川宣言におきましても、将来にわたっても解決に向けた取り組みの継続が求められる普遍的な課題である、という文言が盛り込まれたところです。地球環境の変化を敏感に、そして身近なものとして感じる事ができる我々冬の都市だからこそ、この問題を自分たちの問題としてとらえ、引き続き共に考え、一緒に行動していきたいと思ひます。

以上をもちまして、環境保全に関する行動目標の最終報告を終了いたします。ご協力ありがとうございました。



# コペンハーゲンの 環境エネルギーに関する 取り組み事例

コペンハーゲン市技術・環境担当市長  
モーテン・カベル

デンマーク・コペンハーゲン市のモーテン・カベル技術・環境担当市長から、風力やバイオマスを中心としたクリーンエネルギーの積極的な活用をはじめとする環境エネルギー施策において、世界的にもトップクラスの先進都市として知られているコペンハーゲン市の取組事例をご紹介します。



## コンパクトシティだからできたサスティナブルな取り組みを推進し、経済危機を脱出

サスティナブルな解決というのは、街がコンパクトであることが非常に大切であります。コペンハーゲンは、多くの人たちが都市地域に集中して住んでいて、仕事をするにもショッピングをするにも、公園に行くにもジムに行くのも、学校に子どもたちを送り届けるにしても便利です。これは経済的でもあり、移動時間も少なく済みます。ヒューストンなどでは移動のコストに14%かけていますが、コペンハーゲンでは移動コストは4%です。ヨーロッパ西部の都市は7%ですから、都市のコンパクト化は燃料の削減につながっています。このように経済とサスティナビリティは、密接に関係しています。

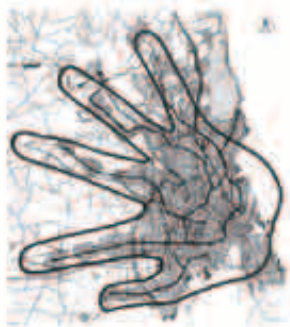
1940年代後半に、コペンハーゲンは「ファイブフィンガープラン」（5つの指の計画）を進め、「Sトレイングリッド」と呼ばれている鉄道網を整備していきました。この計画に基づいて過去50年間に渡り、投資が進められてきました。2002年には、最初のメトロラインを設

定しましたが、メトロシステムの発展で安くて速い公共交通が確立しました。

コンパクトな都市には、さまざまな人々が住みます。市内にある住宅の20%がソーシャルハウスです。これは、警察官や学校の教師、看護師など働く人たちが仕事に行きやすくすることを目的として整備しています。現在、コペンハーゲンの地域暖房のサービスは、市の98%以上のビルに供給されています。これは世界一の数字となります。このことにより、市民が暖房を手に入れやすくなるだけではなく、石炭と灯油からサスティナブルな暖房資源への移行を促します。コンパクトシティであるからこそ、多くのサスティナブルな取り組みができています。その結果、生活の質も高まり、財政的にも削減できるということになります。

環境に配慮することは、経費のかかるものではありません。1994年から2010年まで、この地域において経済活動が25%上昇した一方で、温室効果ガスを40%削減することができました。2013年にロンドンスクール・オブ・エコノミクスが発行したレポートの中で、「経

FIVE FINGER PLAN



SOCIAL HOUSING IN COPENHAGEN



済的な、合理的な、そしてアクションというものはあるのだろうか。気候変動に何か行動が起こせるものだろうか」と投げかけ、「コペンハーゲンの強い経済というものは、実際にこのような環境に良い変革を行ったおかげである」との結論に達しました。このことにより、コペンハーゲンは経済危機から脱することができたのです。

## 2025 年までに自転車利用目標を 50%に

コペンハーゲンを「自転車都市」として発展させたいと考えており、自転車の利用目標を設定しています。自転車通勤は現在 40%で、これは 1989 年以来最高ですが、2025 年には 50%にしたいと考えています。そのためにインフラ整備を進めますが、これにより安全性を高めるだけでなく、移動の時間を縮めることができます。コペンハーゲンでは A 地点 から B 地点 へ移動するために自転車が便利で、市内のあらゆる所に自転車で行くことができます。では、人々はなぜ自転車を多く使うのか。それは健康に良い運動ができるということに加え、移動時間が早く、不便がなく、快適で乗り心地がよい乗り物で、環境にやさしいからです。

人口は毎年 2%増加しており、空間的なストレスが増え、コンパクトシティに問題が生じてきています。個人で所有する車の駐車空間がないのです。駐車している 1 台の車は、8 台から 10 台の自転車の駐輪スペースを占めてしまいます。コペンハーゲンでは 4 万人が自転車で走行しています。そのような人々がどのようにして車道に入り、そして街を移動するのか、混雑した環境というのは人々を幸せにはしません。人々が人生を楽しむ空間というものがが必要です。そして、子どもたちが楽しめる空間、高齢者も夏の木陰で楽しむという空間、そして友達と会ってコーヒー、ビールを飲みながら楽しむという時間、このような生活に自転車は貢献しているのです。

しかし、車は必要です。救急車、消防車、宅配車、貨物車などは必要ですが、このような必要性のある車両は

他の車両と共生することができます。インテリジェント・トラフィック・システムを利用して、混雑の削減を図っています。例えば、持続可能なエコドライブを開発しています。貨物車やトラックは GPS を使い、どの交差点を通ったらよいのかという情報を得ることができます。交差点ごとに毎回トラックが停車して発進するということになれば、1 リットルのディーゼルが必要になります。サステナブルな交通手段の情報を提供することは、経済にとっても、環境問題にとっても有益です。

## 2025 年には世界最初の炭素中立都市へ

コンパクトな街を作るために、私たちは炭素の排出量を大量に削減しなければなりません。そして、2025 年までに世界最初の炭素中立都市となることを目標としています。持続可能で割安な暖房、快適に市内を移動できる自転車文化を維持していくことが必要です。コペンハーゲンは雪の降る街でありますけれども、市民は雪を問題視しません。道路が除雪されていて、自転車で走ることができればそれで満足なのです。ですから、車を運転するドライバーは優先順位が自転車よりも低いというわけです。そして、非常によい生活を送れるように、私たちは努力しております。そのような枠組みを作っているわけです。これは多くの街から学んだことであります。そして、人々によって作られるものでもあります。機能性が高くコンパクトな街、シンプルでオーガニックな街での都市生活を実現したいと考えております。

DEDICATED INFRASTRUCTURE WORKS



URBAN LIFE IN ANY WEATHER



## ■市長ディスカッション

# まちに経済的な活力を創出するための方策は？



世界冬の都市市長会の前身である「北方都市会議」創設の時から特徴としている、都市が抱える課題について市長同士が率直に語り合い、お互いに学び合っていく時間として「市長ディスカッション」を実施しました。

各都市が発表した事例の経済面に焦点を当て、「まちに経済的な活力を創出するための方策」について、各都市の課題解決に向けた取り組みや資源を生かしたアイデアなどが紹介されました。

**進行:札幌市 秋元 克広**■ディスカッションのテーマは、「まちに経済的な活力を創出するための方策について」ということで、率直な意見交換をさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。はじめに、華川郡のお話をお聞きしたいと思います。

## 祭りによる地域活性化で負債ゼロの自治体へ 危機対応に備える新たな戦略《華川郡》

**華川郡 チェ・ムンスン**■華川郡は小さな山間の農村でしたが、2003年のやまめ祭り開催以降、世界が注目する国際的な祭り都市へと成長いたしました。祭りを通じた地域発展と広報活動の手本になっています。特に冬の農家の所得を生み出し、地域経済を活性化させるという戦略は大きいものがあります。やまめ体験プログラムの利用客には、農産物の引換券を提供し、華川だけで通用する地域通貨を導入しています。こうした資金が外部に流出せずにこの地域内で消費されるようにする仕組みが重要だと考えています。このような努力が2016年、992億ウォンの直接的な経済効果を生み出しました。そして、1,248億ウォンの生産誘発効果を生み出しています。

次に負債のない自治体づくりです。借金の目的としては、都市インフラの拡充や公共サービスの改善といった理由がありますが、私は今年2月、華川郡は地方負債

60億ウォン全額を早期に返済いたしました。そして、負債のない都市になりました。これにより多くの資金を確保できましたが、常に危機は存在しています。地球温暖化による影響や北朝鮮との緊張の高まり、景気低迷による消費の冷え込みなど、このような危機に対応するために華川郡では新たな戦略を準備しています。

1点目は、地域内の隠れた魅力発掘です。画一化された観光消費から脱し、さまざまな暮らしと文化を体験し、現地の人との触れ合いを楽しもうとする旅行ニーズへの対応や、団体旅行から個人旅行へと移っている現状への対応です。2点目は、ゆとりと幸せを追求するスロートラベルで、滞在型観光商品の継続的な開発です。3点目は、観光の新たな消費層として浮上している中高年層の顧客を確保することです。韓国は徴兵制度があり、毎年1万5千人以上が華川郡の軍隊で過ごしています。青年時代、華川郡で暮らした彼らが潜在的な観光客となっているわけです。華川に駐屯する部隊と協力して、昔の趣が感じられるように整備を進めています。

**進行:札幌市 秋元 克広**■次に毎年1月に冬のイベント「バサロペット国際クロスカントリースキーフェスティバル」を開催されております長春市の発表をお願い申し上げます。

## スポーツ関連の博覧会やサミットフォーラム、国際的スキー大会で活性化を《長春市》

**長春市 王 慧力**■2022 年冬季オリンピックの開催地は北京に決まりましたが、長春は冬のスポーツが最も普及している都市の一つです。経済・貿易、観光、スポーツなどの分野でレベルの高いイベントを多く開催し、冬季オリンピックを応援しています。冬の都市の皆様には是非長春に来ていただき、各都市が交流し、そして協力する機会とし、お互いの関係を深めていきたいと考えております。

今年の 12 月中旬には、「冰雪観光産業博覧会」と「サミットフォーラム」を開催予定です。これは、国家観光局と吉林省、それから長春が連合で運営し、冬のスポーツ設備やアウトドア用品などを展示します。また同時にサミットフォーラムを開催し、世界各地から影響力と知名度の高い冬のスポーツ組織や冰雪設備メーカー、観光都市、専門家、マスコミの代表をお招きして、各分野の交流を深めていきます。冬の都市の皆様にもぜひ長春にお越しいただき、楽しんでいただきたいと思います。

もうひとつは、2003 年から毎年開催している「バサロペット国際クロスカントリースキーフェスティバル」です。2017 年の総会は、長春で行うことになっています。これを機会に同フェスティバルの組織運営、イベントの運営、商品の開発などについてもレベルアップを図ります。

**進行: 札幌市 秋元 克弘**■大きな博覧会やスキー大会の開催を中心としながら、ネットワークを作り、それをまちづくりの柱の一つにされているというお話でありました。ありがとうございます。それでは鶏西市にもお話を伺いたいと思います。

## 環境に優しいブランド型農業への転換と石炭、グラファイト、グリーンフード、製菓業の 4 大産業の育成《鶏西市》

**鶏西市 于 金才**■鶏西は資源型の都市で、中国の北東において観光でも大変有名な都市です。さらに、中国では「黒鉛の都」と言われ、グラファイトの品質、生産量ではアジアの上位に入るといいます。最近、韓国の LG などの一部の企業グループがグラファイト産業に投資するという決まっています。

近年、鶏西は新しい転換の道を模索しています。農業においては 2 つの転換を図ろうとしています。1 つは、伝統的な従来型農業からより環境に優しいブランド型の農業への転換です。積極的にグリーンなブランドを作り、主要企業の誘致や加工品の製造など付加価値を高めていきたいと思っています。もう一つは、畑作などの栽培農

業に加え、畜産業にも広げていきたいと考えています。畜産業に適した条件も備えており、肉牛、乳牛、豚、家禽にも重点を置いていく考えです。

また、工業面では、石炭、グラファイト、グリーンフード、製菓業の 4 大産業を育てていく方針です。石炭産業に関しては、現在、鶏西では 2 千万トンの石炭が生産されており、石炭化学工業の基地を鶏西に作るのが私たちの目標です。グラファイトを蓄熱の材料やシール材、耐火材などに加工することも目指しています。世界でも鶏西のグラファイトは有名になりつつあり、世界の大きな企業の中でも、注目を集めています。

次はグリーンフードです。有機農業、高品質の乳製品、肉製品、特色のある農産物などの加工産業チェーンを形成していきたいと思っています。もう一つは、バイオ医薬産業の育成です。漢方薬の製品開発を重点的にを行い、バイオ医薬製造基地を作りたいと思います。さらに、産業や技術の高度化を図り、生産量の拡大などを通じて、企業の底上げを図っていききたいと思っています。

観光のブランド化に加え、貿易を産業として育成し、特にロシアとの輸出入を活性化させ、輸出入品の加工基地として育てていききたいと思っています。

**進行: 札幌市 秋元 克広**■恵まれた資源を有効に活用し、新しい時代に対応させていくというお話でした。一方で日本の場合は、人口減少の問題もあり、それぞれの地域がそれぞれの資源の魅力をどのように高め、有効に使っていくのか、日本の社会の中では大きな課題となっています。松本市のお話をお伺いしたいと思います。

## 札幌、松本、鹿児島が連携した新・訪日観光ルート「超広域観光ビジット 3」を展開《松本市》

**松本市 菅谷 昭**■日本では少子高齢型の人口減少社会の進行により、国内の交流人口が減少する中、地域経済の一翼を担う観光業において、外国人旅行者の誘客が重要なテーマの一つとなっています。日本を訪れる外国人旅行者は、2015 年に 1,974 万人に達し、東京、大阪以外の地方都市にも多くの外国人旅行者が訪れるようになりました。松本市も昨年 1 年間の外国人宿泊者数が 10 万人を超え、前年比 6 割増の大幅な伸びとなっており、今後も増加が見込まれています。

従来の訪日旅行誘客は市単独や、また近隣地域と連携した誘客活動に留まっておりました。松本市では昨年から新たな取り組みとして、地元の「信州まつもと空港」の国内空路を生かし、日本縦断型訪日旅行を目的とした、札幌市、鹿児島市、松本市が連携し、これら 3 都市をつなぐ新たなインバウンド事業「超広域観光ビジット 3」に取り組んでいます。このルートを東京、富士山、京都、大阪を結ぶ「ゴールデンルート」と呼ばれる定番の訪日

旅行ルートをしのご新たなルートとして定着を図りたいと考えています。

今年の3月には、札幌、鹿児島、および松本の3市が連携し、台湾、香港、タイ、フランスの4地域から訪日旅行商品造成担当者を各3名ずつ、合計12名を招聘し、札幌、松本、鹿児島の各都市の観光素材を、実際に空路を利用し旅行商品のモデルコースとして視察体験をする事業を展開しました。島国でありながら南北に長い日本列島ですので、参加者も多岐にわたる日本の魅力を一度に味わえる旅行に高い関心を示していました。また、3市を紹介した映像素材も新たに作成し、海外TVでの放映やインターネット上の動画投稿サイトへ掲出し、周遊ルートの周知を図ったところ、さっそく海外メディアからの反響もあり、注目度が高まっています。今後は3都市連携体制のさらなる強化を図るとともに、日本国内の旅行会社や航空会社を加えた連絡会議を立ち上げ、官民協力体制のもと、実際の送客につながる効果的な事業を展開してまいります。

札幌と松本の観光資源を比べてみますと、札幌では北海道の雄大な自然、新鮮で美味しい海産物などの食や都市型観光としてのショッピング、また松本では築城420年の国宝松本城に代表される歴史伝統文化、国内有数の景勝地、上高地などの山岳観光資源などを有しております。各都市の異なる魅力を組み合わせることで、高品質で満足度の高い訪日旅行ルートを提案することができます。このように従来とは異なる型にとらわれない新たな旅行形態を地方都市から提案し、誘客を強化することで今後も増加が認められる訪日外国人旅行者の取り込みをはかり、地域の経済的協力の創出へつなげていきたいと考えています。

**進行：札幌市 秋元 克広**■多様化する価値観、ニーズに対応していくために地方都市同士が連携して取り組んでいます。観光振興は大きな関心、テーマになっているんだろうと思います。では、麟蹄郡の発表をお願いいたします。



## 自転車や自動車などを用いたスポーツに注目 囲碁祭りの開催による集客促進《麟蹄郡》

**麟蹄郡 イ・スンソン**■麟蹄は今、スポーツマーケティングを通じた地域経済活性化に取り組んでいます。麟蹄は観光資源を活用するためにこの20年間、観光産業の発展のために力を注いできました。わかさぎ祭りもその一環でしたが、近年の異常気象によって影響を受けて、観光事業に支障をきたしています。そこで、安定的に地域経済を活性化するためには、今まで作ってきた体育・スポーツ施設のインフラを活用して、スポーツを成長事業の一つとして推進しようと思っています。

行政側にもスポーツマーケティングを担当する部署を新設し、スポーツに関する事業を積極的に推進し、組織体制をサポートするための条例を制定しようと思っています。大規模なスポーツフェスティバスを開催したり、オフシーズンにトレーニングに訪れるチームを支援する体制を整備しようと思っています。スポーツフェスティバルとして囲碁祭りを開催し、麟蹄を囲碁の街、囲碁の故郷、囲碁の聖地にしようと考えております。

最後に、自転車や自動車のような車輪のある乗り物を用いたスポーツに力を注いでいこうと思っています。2013年、民間が1,600億ウォンの資本を投資した自動車パークを開設しました。その競技場を利用して、2014年から車輪のある乗り物を利用したフェスティバルを開催しています。自転車のための道路も整備するつもりです。このような事業を進めるにあたって何より大切なのは地元住民と一緒に参加し、その事業を進めていくことです。スポーツ団体などと連携しながら、地域住民とともに大会を運営し、地域の振興やおもてなしの充実を図っていくつもりです。

**進行：札幌市 秋元 克広**■新たな集客のための資源づくりというお話だったと思います。それでは、ロヴァニエミ市のお話を伺いしたいと思います。

## 現在、1千万ユーロの収益をもたらすスポーツツーリズム、今後のさらなる成長に期待《ロヴァニエミ市》

**ロヴァニエミ市 エスコ・ロトゥヴォネン**■北極圏に位置するロヴァニエミは、自然の実験室として寒冷地の研究活動が盛んです。例えば、ヨーロッパ唯一のスノーモービルの工場があります。所有しているのは、カナダのボンバルディア・レクリエーションプロダクツという会社ですが、スノーモービルをロシア、カナダ、アメリカなどに輸出しています。

また、寒冷地用の4つの試験場があり、国際的な自動車メーカー、タイヤメーカーがいろいろなテストを

行っています。オウナスバーラの北極圏スポーツ施設は有名なスポーツ拠点でありまして、現在私たちはこの開発を進めているところで、スポーツ観光の地ともなっております。

ロヴァニエミは、首都ヘルシンキからのアクセスも良く、国際的な選手のトレーニング地として最適です。もちろんトレーニングだけではなくて、さまざまな競技の世界選手権なども開催されています。過去10年ぐらいこうした動きが盛んになっており、特に近年はフィンランド国内で最大級のものを開催しています。

スポーツツーリズムは非常に成長しており、現在、年間約1千万ユーロの収益が上がっています。観光ビジネスの中心としてサンタクロース関係の施設があり、毎年約50万人の観光客がここを訪れます。ほとんどの観光客は外国人で、全体の60%を占めています。

経済的な面を見てまいりますと、収益は夏に比べて冬が上がります。夏のロヴァニエミは、ヨーロッパ北部地域を旅行する際の休息地にすぎません。アジアからの観光客の伸びは年間30%で、ロシアからの観光客もこの2、3年増加しています。観光収入は直接収入として約2億ユーロ、間接的な収入が7,500万ユーロと試算されています。そして、さまざまなビジネスセクターがこの恩恵を受けています。直接雇用と間接雇用の合計は、1,700人を超えます。ロヴァニエミは、フィンランドで首都ヘルシンキに次ぐ第2位の国際的な観光客の目的地となっています。

観光客は住民にとっても、プラスの効果をもたらします。例えば、観光がなければ現在のように毎日利用できる飛行機の定期便はなかったと思います。自然を楽しむハイキングトレイル、文化サービス、スポーツ施設なども観光がなければずっと少なかったと思います。観光は、このようなサービスの財源としても非常に重要な役割を果たしています。観光サービスがもたらす税収入は市の予算に大きく貢献しており、年間約1千万ユーロであります。こうした肯定的なプラス面の影響を大変喜んでいます。

**進行：札幌市 秋元 克広**■ここで冬の資源というものを積極的に捉えて、街全体の活力に変えていく、そういう総合的な戦略ということを実践されていますエドモントン市の取り組みについてお話をお伺いしたいと思います。

### すべての投資を冬というレンズで捉えて 経済を飛躍的に伸ばす《エドモントン市》

**エドモントン市 スーザン・ホルドスウォース**■生活の質というのが大変重要なものだということを理解しています。エドモントンでは冬を肯定的に見ています。そして、冬がもたらしてくれる経済的な効果を活用しています。

エドモントンでは、3つの目標を掲げています。1つ目は冬の祭りの潜在能力と持続可能性を高めること、2つ目は四季を通じたパティオ文化を推進すること、3つ目は革新的な冬季関連ビジネスと産業の世界的リーダーになることです。

冬の祭りとしては、60を超える地域レベルの祭りで大規模な8つの祭りが開催されており、この数年、来場者数の記録を更新しています。このような祭りやイベント全体が、エドモントン市に極めて大きな経済効果をもたらしています。エドモントン市は活気ある観光シーズンの長期化、観光客の増加、文化と教育の機会の増加、そしてシビックプライドの醸成という恩恵を受けています。そのメリットは地元のホテルやレストランだけではなく、地元企業にも及んでおり、大きな経済効果を生んでいます。

四季を通じたパティオ文化は、エドモントン独自の文化として発展しつつあります。コペンハーゲンと同様にエドモントンの屋外空間に活気が戻り、ビジネスが目に見えるものになり、またカラフルなブランケットが備えられたパティオ空間は常に多くの市民が集まります。まちをあげてパティオパーティを開催することで、参加するカフェやレストランの収益が上がっています。

そして、革新的な冬季ビジネスと産業について言及すると、エドモントンは寒冷地気候型の建設で有名であります。新たな技術の活用で多くのプロジェクトの建設期間を6か月間短縮することが可能になり、多くの時間と費用が節約できました。また、当市の「冬の都市戦略」



における投資事業の事例には、その実行計画の背景に年間を通じて高い経済的、社会的成果を上げているという事実があります。私たちの文化は、短期間で大きく変化しました。今後、より一層の経済的な飛躍を遂げたいと考えています。そして、エドモントン市が成し遂げたことを誇りに思い、経済的恩恵につながることを期待しています。

**進行：札幌市 秋元 克広**■四季を通じての取り組み、そしてそれを産業とうまくつなげていくということを戦

略的に行われているというお話を大変興味深く伺いました。次に、瀋陽市さんにもお話を伺いたと思います。

## 企業連盟、サービス会社、シンクタンクの 「企業サービスプラットフォーム」が発足 《瀋陽市》

**瀋陽市 居 理宏**■現在、中国の経済成長のスピードは鈍化しています。中国は今、モデルチェンジを行わなければならない時期にあります。瀋陽市は昨年からさまざまな改革を進めており、政府の管理体制についても改革を行っています。これまで中国経済は政府主導型でしたが、より効果的な社会サービスを行うためには、企業にもっと頑張ってもらわなければならないと考えています。

2016年5月27日に「企業サービスプラットフォーム」というものが立ち上がりました。これは中国東北部で初めて設立され、企業向けにインテリジェンスサービスを提供するものです。このプラットフォームは企業連盟、サービス会社、そしてシンクタンクの3つから成り立っています。企業連盟には、多数の地元企業のリーダーが集まり、5,000社を超えるあらゆる分野の産業や商工会議所、事業者団体が参加する連盟になる予定です。この連盟の活動を通して、企業同士の結び付きができていくと思います。次は、サービス会社についてです。この組織は有益なリソースを統合して作られており、融資や人材、イノベーションなどの分野においてプラットフォームを構築しています。メンバー企業にさまざまなサービスを提供していますが、一例として物や技術の提供、コンサルティングなどを行っています。さらに、政府調達に関わるサービスも行っています。最後に、シンクタンクについてです。これは瀋陽市共産党委員会のメンバーや市政府、各メディアの関係者などが構築しているものです。瀋陽のさらなる発展に貢献していくことを任務としています。



**秋元**■産業振興への大きな取り組みに関心を持って伺いをさせていただきました。それでは、同じ中国にありますが黒竜江省の省都ハルビン市にも経済発展についてのお話をお伺いしたいと思います。

## 競争力のある産業体系の構築と伝統産業の刷新 《ハルビン市》

**ハルビン市 崔 玉平**■現在、中国では一帯一路構想を進めており、黒竜江省も同じようにシルクロード構想を進めております。ハルビンは重要な都市であり、総合的な競争力を高めていきたいと考えています。

はじめに、経済特区の新設を国に許可してもらい、さまざまな優遇政策を与えられております。ハルビンは、中国のロシアに対する協力の特区の一つです。2つ目は競争力のある産業体系を構築し、同時に伝統産業の刷新を進めるとともに、イノベーションを行い、レベルアップを促進していきます。3つ目は、活力に満ちたイノベーション型の都市を建設することです。地方政府も同じようにイノベーションを活性化しています。科学技術の発展の成果を製造業に波及させていきます。4つ目は、全方位に目を向けた対外開放と連携・協力の新たな形態を構築することです。ロシアを経由してドイツのハンブルクへの鉄道が開通し、毎週1便運航しています。5つ目は、重点分野の改革をさらに推進することです。先ほどの瀋陽市のお話もありましたが、政府の機能転換を加速していき、さまざまな難題を解決していきたいと考えております。

ハルビンでは、毎年2回大きなイベントが行われています。6月に経済貿易商談会があり、毎回約12万人が参加しています。1月には氷祭り行われ、それと同時に経済貿易商談会なども開催しています。

**進行：札幌市 秋元 克広**■科学技術を産業の高度化につなげていこうという試みは興味深い内容でした。ノボシビルスクにはテクノパークを含む大きな学術都市がございいますが、そういったお話を含めましてお願いをしたいと思います。

## テクノパークの創設と企業支援の方策 《ノボシビルスク市》

**ノボシビルスク市 アレクセイ・コンドラチエフ**■ハルビン市の発表でシルクロードのお話をされましたけれども、これはノボシビルスクを通り、モスクワへ続いているシルクロードであります。経済安定性を確保するために非常に大事な道であります。ノボシビルスクは、広大な隣接地域を含む一帯の経済活動の中核にあります。情報技術センターというものが、ここにロシア科学

アカデミーシベリア支部が入っております。そして、市の安定的な発展に寄与しております軍需産業、IT 産業、そしてビジネス金融活動センターのほか、ノボシビルスクには鉱物資源がたくさんありますけれども、それに依存することなくさまざまな分野を安定的に発展させていきます。

そして、重要な役割を担っているのが企業活動です。ビジネスインキュベーターが市内に2か所開設されており、生産設備やオフィスの立ち上げなど、起業家に対して支援しています。イベントの開催支援にも力を入れており、起業家を対象に成功している大企業の経営者とのビジネスミーティングを行っています。

情報支援では、インターネットポータルサイト「ノボシビルスクの中小企業活動」を開設し、地元製品の情報、生産者の製品プロモーションを発信しています。工業団地、クラスター、テクノパークの推進も行っており、ハイク産業などの工場を誘致するために産業用地を拡大しています。2015年には、ノボシビルスク市とロシア科学アカデミーシベリア支部幹部会の間で協定を結びました。これはノボシビルスクにテクノパークを創設するための組織的、経済的、技術的な協力に関するものです。また、工業地帯が過密状態になりつつあり、企業の休眠中の土地を活用した工業団地の造成が検討されています。2016年6月、医療工業団地が動き始めました。これは官と民の効率的な協力の事例です。また、ノボシビルスクの学術都市アカデムゴロドクに核物理学研究所をベースにしたロシア・中国科学センターを作ることが決まりました。ノボシビルスク市の課題は同市の経済に新しいテクノロジーを導入し、経済の各分野、企業間の関係構築を助けることです。

開かれた行政はノボシビルスク市行政府の基本原則です。市の運営に経済会、市民団体、住民が参加できるさまざまなメカニズムや手段を講じています。そして、私たちが特に注目しているのが観光です。ノボシビルスクを訪れるお客さん達がより快適に過ごしてくださるような環境づくり、さまざまな観光名所までのアクセスをよくすること、文化・スポーツ施設の充実を図ります。非常に厳しい気候条件にあるノボシビルスク市ですが、全天候型の年間を通じて使える施設を増やしていきたいと思っています。このような施策を一体となって進め、街を安定的に発展させていく所存であります。

**進行：札幌市 秋元 克広**■最後に、モンゴル・ウランバートル市からご発言をお願いします。

## 都市型観光の推進と MICE 誘致に取り組む 《ウランバートル市》

**ウランバートル市 サンダグドルジ・バヤルバートル**

■ウランバートル市はモンゴル国の首都で、観光客の9割がウランバートルを経由しますが、滞在する日数はこれまで非常に少なく、1日半程度でした。現在、ウランバートル市では都市型観光を推進しようという動きがあります。2013年からホスピタリティのあるウランバートルにするためにさまざまなプログラムを実施しており、2020年までにウランバートルを訪れる外国人数を200万人にするという目標を掲げています。

しかし、モンゴルの場合、観光シーズンは夏に限られてしまいますので、来客数をもっと増やすためには、冬や秋といった夏以外の季節の来客者を増やす必要があります。国際的イベントや国際会議などの開催を増やすために努力しているところです。そのひとつの成果として今年の7月にアジア欧州会合（ASEM）を開きましたが、これからもこのような国際的な大規模な会議をウランバートル市で開いていくことを目標としています。

**進行：札幌市 秋元 克広**■少ない時間でありましたが、それぞれ各都市が自分たちの魅力を高めながら、さらに経済発展につなげていこうという取り組みは参考になったのではないかなというふうに思っております。昨日、今日とまちづくりに関すること、あるいは環境への取り組み、こういったテーマでお話をさせていただきました。この会議は冬の都市をつなぐ国際的なネットワークではありますが、このような会議の場だけに限らず、これを機会に興味のあった事柄についてそれぞれの都市を訪問したり、情報交換をしたりということで、この市長会議を契機にそれぞれのネットワークをつなげていただければと思っています。そして、有効な情報共有ということができていければと思っています。

# 北極圏デザイン小委員会

ロヴァニエミ市建築士  
タルヤ・オウティラ

2015年2月に設置された「北極圏デザイン小委員会」。同小委員会では、北極圏デザインを切り口とした課題解決を試みるため、事前に行ったアンケート調査により、各都市の取組事例をまとめています。事務局を務めるロヴァニエミ市の建築士タルヤ・オウティラ氏が、その調査結果を報告しました。



北極圏デザイン小委員会は、デザインによる問題解決、新たなチャンスの創出を試みるということで発足しました。問題を明確化、数値化し、解決策を立案してテストを行い、未来に応用していきたいと考えています。小委員会のメンバーは、長春、エドモントン、ハルビン、華川郡、ノボシビルスク、ロヴァニエミ、札幌です。4つの分野で行った調査は、すべての街が回答してくれました。

## 4つの分野について調査

調査のテーマ1は都市計画です。

長春は2014年以降、市営公園・庭園の建設と維持管理に20億元を投資。現在、108の公園と庭園が市民に開放され、人気のスポットとなり、街のイメージアップにつながっています。エドモントンのビクトリアパークパビリオンは、アウトドア活動、コミュニティやスポーツ団体が使用するスペースです。エドモントンは、ウィンターデザイン・ガイドラインがまだ承認されていない

ものの、道路、公園など公共部門で用いられており、防風対策、それから色彩感覚、デザインなどのインフラ整備に使われています。華川郡のSEONDEUNGストリートでは、「氷の国 華川やまめ祭り」の期間中、LED照明によるイルミネーションを設置しています。(ノボシビルスクにある)380mのアーチのバグリンスキー橋は、巨大な赤い弓のようなデザインです。ノボシビルスクの幼稚園は、FIABCI世界大会で2011年にロシア最優秀幼稚園賞を受賞しました。またノボシビルスク天文学センターは、2015年にロシア建設省主催の第1回都市計画コンテストで、ロシア最優秀社会資産建設プロジェクトとして表彰されています。ザリア屋内サッカーアリーナは、シベリア最大の屋内サッカー複合施設で、夏季は屋外ゲーム用に人工芝のサッカー場が5つあります。札幌のモエレ沼公園は、札幌の市街地を公園や緑地で囲む「環状グリーンベルト構想」に基づき設計されたもので、冬にはクロスカントリースキー、モエレ山でのそり滑りやスキーができ、冬のスポーツを楽しむ場と



なっています。

ロヴァニエミの多目的スポーツ場は冬にはスケート場、スキーコース、フェスティバル会場として、夏にはサッカー競技場、フェスティバル会場として使用されており、2016年にはArchitizerのA+ Popular Choice賞を受賞しました。ロヴァニエミ市に本社があるLappset社はプレイランド施設や遊具の設計に、色やデザインなど遊びを楽しくする製品づくりを行っています。市は、地域基本計画に都市ゾーニング指針を導入しています。環境保護を推進し、増える市街地への住民流入を可能にすることを目的に調査し、計画策定を進めています。

テーマ2は冬季条件によるデザインと専門知識の調査です。エドモントンは、昨年ビクトリアパークの森林の中の400mのスケート・トレイル「ザ・フリーズウェイ」を開催しました。このトレイルはスケート競技場へとつながり、アーティストのデザインした光のインスタレーションがトレイルを照らし、幻想的な雰囲気を作り出しています。華川は、化石燃料よりも持続可能なエネルギーシステムを利用することにより、冬季の大気汚染やエネルギー使用のレベルの低下を期待しています。ロヴァニエミは道路スキャナーを採用してインフラを完全に画像化するソフトウエア、ハードウエアを使用しています。また、北極圏のドライビングセンターでは、技術支援の提供を行い、国内および国外の情報拠点である北極圏センターは、主に3つのテーマで研究が行われています。環境およびマイノリティ法のための北部機関、持続可能な発展研究グループです。

テーマ3は、日常生活と観光に関するデザインです。

長春は、スポーツやエクササイズに参加することを市民に奨励する計画とデザインを整備しています。長春市はバサロペット国際クロスカントリースキーフェスティバルを開催しており、冬の都市の日常生活や観光に影響

を与える地方自治体によるデザインとなっています。エドモントンはアイスキャスルです。氷と雪のみで造られた氷の城は、その内部を歩いて見て回ることができます。幻想的な冬の体験を提供しています。華川では、フェスティバルの期間中に地元生産物販売への協力体制を整備しました。ノボシビルスクのフラミンゴ複合競技場では市民を対象とした各種スポーツイベントを開催しています。暖かい冬のツアーも実施しています。ロヴァニエミは、毎年2月に「北極圏デザインウィーク」を実施しています。世界中のデザインの専門家、北欧のデザイナー、その他企業学生、デザイン愛好家たちが集まり、雪で作られた北極圏スノーホテルで一夜を過ごすことができます。

テーマ4は、解決すべき問題です。

それぞれの市に都市デザインを制限する課題を挙げてもらいました。長春では、人口の増加、そして廃棄物の適切処理、エネルギーや資源の賢い利用法、交通渋滞などでした。エドモントンは、冬をデザインすることの意味と適切な活用が課題で、冬の道路の活気を高めることを重視する方向に移行しています。華川郡は渋滞を緩和し、訪問者を市街地エリアに誘い込む方策として、祭りエリアと市街地エリア間にハート型トンネルを作って訪問客を誘導する解決策の提案がありました。札幌からは、2つの問題がありました。都市の魅力と活気を促進することと、人口統計や年齢分布の推移によるニーズに対応するため、適切な維持管理と保存の必要性が挙げられました。

## デザインへの理解を深める必要性がある

冬季におけるデザインおよび専門性に関して、都市で革新的なデザインを阻む冬の状態に関する問題をお聞き





しました。長春からは、融雪剤の使用、冬の大気汚染、寒冷地気候により緑色植物の大部分が死滅してしまうということが挙げられました。エドモントンでは冬の自転車レーンの管理についてです。除雪などパイロット事業をいくつか実施し、冬のサイクリストは年々増加していますが、冬のサイクリングが一般化するのはまだまだ先の話だということでもあります。華川は、太陽光発電システム設置の支援事業により地元住民に投資費用を提供していることと、美しい景観が損なわれないような祭りのコンセプトに合った太陽電池の新しいデザインを考えることです。札幌は、冬の高いエネルギー消費量の問題に関して、さらなる次世代エネルギーシステムの使用を促進することで、問題を克服すると回答しています。

次の質問は、日常生活と観光において、新しい革新的なデザインを制約する課題をお尋ねしました。長春は、バスロケットに海外から特にスカンジナビアから多くの参加者が来ることに期待しています。エドモントンは、リスク回避には多くの事業で時間とコストがかかる点を指摘しました。華川からは、包装デザイン費用が膨大に

なるということ、そしてその解決策としては、華川郡独自のデザインコンペを開設し、費用を削減したいということです。次に低品質の農産物を卸す悪質業者に対して、消費者報告システムを導入することにより、消費者関連の被害を回避するというのが解決策でありました。札幌からは閑散期 11 月から 4 月に日本国外からの観光客を増やすため、多言語サービスの強化や Wi-Fi サービスエリアの拡大、観光客、外国人観光客に快適な訪問環境を作る努力を行うと回答しています。

次に質問したのは、最も優れている点、そうではない点ということでした。これは非常に難しい問題で、回答が難しかったので、デザインへの理解を深める必要があると考えます。まず、メンバー都市における都市デザインに影響を与える課題、問題は何かということです。2つ目は、新しいイノベーションのデザインを制限する冬季状態の課題、問題です。そして、私が指摘したいのは、都市デザイン、そして製品デザイン、サービスデザインの点でさらに考えなければいけないこと、そして私たちはこういったコンセプトをさらに深めて



検討していく必要があると考えました。こういった点に関してのディスカッションを今行いたいと考えております。よろしくお願いいたします。



**進行：札幌市 市 市長室長** ■ただいま、北極圏のデザインについての各都市から具体的な非常に興味深い実例が多数紹介されました。質問をお受けしたいと思います。ロヴァニエミ市長どうぞ。

**ロヴァニエミ市 エスコ・ロトゥヴォネン** ■この小委員会が始まった時点で非常にいい結果が出たと思います。私たちは共通の冬の環境を持っており、いろいろな問題を共有し合って、解決策なども出し合いたいと思います。各都市の意見を参考にして都市デザインを構築していくこと、またビジネスや日常生活にも寄与していくことができると思います。今後議論を重ねていき、コンセプトを明確化して、いくつかのカテゴリに分けてこのデザインを考えていく必要があります。特に目立った点としてエドモントンの回答にあった安全性の問題で、これはデザインを考える際に考慮する必要があると私たちも考えるからです。これが一つの側面で今後さらに深めていくべき面かもしれません。

**進行：札幌市 市 市長室長** ■ありがとうございました。ただいま、この北極圏デザイン小委員会の今後の議論の進め方について示唆に富むご意見をいただきました。具体的にエドモントン市さんいなかでしょうか。

**エドモントン市 スーザン・ホルドスウォース** ■素晴らしいと思いました。フォーカスは同じでも、内容がすごく違っていると思いました。私たちのフォーカスとはとにかくアウトドアの共有スペースを心地よいものにしよう

ということでありました。私が是非学びたいのは、このマイクロクライメイトについてです。高層ビルなどをデザインするときに風の問題にどういうふうに対応しているのかということ、私たちの市としましては、高層建築物などにも興味がありますので、そういったことがあれば教えていただければと思います。

**進行：札幌市 市 市長室長** ■ただいまのデザインにおける安全性、あるいは快適性の視点からのさらなる検討といった提案もなされたところです。高層ビルにおける風の問題につきましては、より専門的な知識も必要かと思いますが、今この場で議論をするのはちょっと難しいのかなと思います。提案ですが、この後のこの北極圏デザイン小委員会の進め方につきましては、事務局でありますロヴァニエミ市とこの市長会の事務局であります札幌市との間で具体的に相談をさせていただくということによろしいでしょうか。異議がなければ、来年また実務者会議で、それに向けてこの小委員会で今後どのような議論をするかについて、ロヴァニエミ市と札幌市との間で相談をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。



# ウランバートル 消防技術支援事業の結果報告

ウランバートル市戦略政策企画部長  
サンダグドルジ・バヤルバートル

2012年に世界冬の都市市長会議がウランバートル市で開催されたのをきっかけに、翌年から3年間にわたり、札幌市がJICAの枠組みを活用したウランバートル市への消防技術協力を行いました。世界冬の都市市長会の国際ネットワークを活用した事例の一つとして、ウランバートル市からその内容について報告がありました。

プレゼンする内容は3つです。ウランバートル市というのはどういう街かを簡単に説明します。次にウランバートル市と札幌市の国際交流について説明し、次にウランバートル市への消防技術支援事業について発表します。

ウランバートル市は冬の都市で、一番寒い時にマイナス49℃まで気温が下がることがあり、夏は38℃まで気温が上がる場合があります。平均するとウランバートル市の気温は年間平均1℃です。世界の首都の中でも一番寒いのではないかと思います。特徴としては、晴れの日が非常に多く、年間のうち246日が晴れの日で、年間の雨量は約300mmです。

モンゴルの人口、経済が集中しているのがウランバートルです。モンゴルの人口は約300万人と言われていますが、そのうち130万人がウランバートル市に住んでいます。これはモンゴルの人口の約44%にあたります。特に1990年以降に人口が急増しており、1995年と比較すると、約2.3倍に人口が増えています。しかも市の労働人口は、総人口の65%を占め、0歳から14歳の人の割合が26%で、若くて活力のある都市だと言えると思います。

ウランバートル市がモンゴルの経済、政治の中心で、モンゴルのGDPの62%が生産されています。また、金融の中心都市でもあり、銀行の貸し出し、銀行貯蓄の8割以上がウランバートル市に集中しています。また、モ



ンゴルにある95%の大学がウランバートルに集中しています。これもウランバートル市に若い人口が多い理由です。

ウランバートル市は、インフラが整備されているところと、されていないところの2つに分けることができます。ここでいうインフラとは、上下水道と熱インフラのことです。人口の約40%以上がインフラの整備されているアパート、マンションに住んでいて、残りの6割近くの人が上下水道、熱のインフラが整備されていないところに住んでいます。インフラが整備されているところと整備されていないところで、上水の使用を比較すると、インフラが整備されているところだと1日で150リットル以上の水を使えるのに対して、インフラが整備されていないところでは10リットルぐらいの水しか使っていません。また、ゴミの量と比較してみると、インフラが整備されていないところでは、ゴミの量も多くなっています。

現在、ウランバートル市は世界の13の都市と姉妹都市関係にあり、20の都市とも友好都市関係を結んでいるほか、13の都市とも交流関係を持っています。

2014年から札幌市の協力を得て、ウランバートル市職員の能力向上のための研修を行っています。これは2つの都市間の直接交流で研修を実施しています。世界冬の都市市長会を通じて都市間の交流を結んでいます。



政府レベルでは、ウランバートル市が2013年にマスタープランを策定し、そのマスタープランを実施するためのアクションプランを作成することを、JICAを経由して日本政府に要請いたしました。日本の都市の中で実際に働いている方を専門家として派遣してほしい、という要望をウランバートル市から出したところ、札幌市の現役職員がこの実施計画のコンサルタントとして派遣されました。これも札幌市とウランバートル市の交流の一環として挙げるができます。

また、日本政府には草の根技術協力という制度があり、日本の地方自治体、大学、非営利団体が制度を使用して大学での人材育成、技術移転の事業を実施しています。ウランバートル市消防技術支援事業もこの制度を利用し、札幌市の協力を得て2013年から2016年の3年間実施しました。全く同じ制度を使って、ウランバートル市は上下水道能力向上事業に2016年から取り組んでいます。ウランバートル市の上下水道局と札幌市水道局が一緒になって始めています。

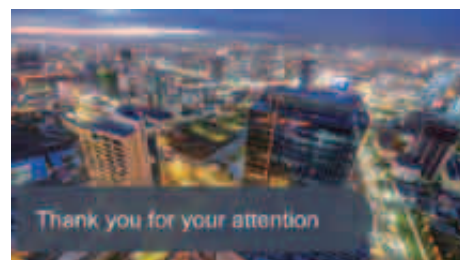
ウランバートル市消防技術支援事業が実施された経緯は、冬の都市市長会議が2012年にウランバートル市で開催され、同年、アジア消防長会議が札幌市で開催されました。同じ年にモンゴルでもアジア国際消防防災フォーラムが開催されたのです。この3つのフォーラム会議のときに、ウランバートル市消防局と札幌市消防局の職員同士がモンゴルでどういう問題があるか、あるいは札幌市の消防局にどういう能力があるかということ話し合い、その中でウランバートル市消防局の能力を向上するために札幌市が協力できるという話になったのです。そこで制度について検討した結果、草の根制度の利用となりました。

ウランバートル市はこの20年間で人口が急増し、都市化が急速に進んだため高層ビルの建設が多くなり、火災の発生が多くなっています。大規模の災害があったときにそれに対応するような設備、資材の運用、あるいは技術を身に付ける必要性がありました。2013年からJICAの3つの案件で技術支援ということで、日本で使われている消防機材、消防車をモンゴル側に提供されたこともありました。札幌市ではモンゴルの消防局との共

同訓練した経験もあり、また高層ビルでの消防活動の技術もあり、寒冷地での消防活動、技術能力もあることから事業が成立しました。これにより2013年からこの事業が動きだしました。

目的は大きく2つあると思います。消防車両機材の的確な活用のために消防活動技術の習得と、指導を行うための指導者育成です。この事業は2013年の8月から2016年の3月まで3年間で、この支援活動によって4つの成果をあげるができますと思います。これは高層ビル火災に対する消火・救助活動。2番目に大規模災害時における救助支援。3番目が教育担当者の育成。4番目が積雪寒冷地における消防活動対策というこの4つのことを達成するためにこのプロジェクトが動いたと思います。このプロジェクトは人材育成のためでもあります。札幌市消防局の専門家がモンゴルの消防局職員に対して4度の研修を実施しました。また、モンゴルの消防局職員が2度にわたり延べ30人以上が札幌市を訪れ、日本での実践訓練を行いました。

プロジェクトの成果としては3つのことを挙げるができます。まず第1には火災現場の到着時間の短縮です。このJICAの機材導入、あるいは札幌市との共同プロジェクトによって、実際に火災現場の到着時間が2～3分は短縮したと思います。2～3分という短いように見えますが、実際にはモンゴルの遊牧民が住んでいるゲルが火災になると4～5分で全焼するというケースもありますので、2～3分というのはものすごく短縮したということになると思います。次に、職員の消防技術能力向上です。2015年に起きた火災事故の71.3%を、30分以内で消火したという実際の数字があります。次に、モンゴルの今の職員が次の職員を育成するための能力が蓄積されたということを挙げるができます。このような3年間のプロジェクトの中で、この3つの成果を上げることができたと思います。これからもウランバートル市と札幌市の交流がますます続いていくと思いますので、この場を借りて、これまでの札幌市の支援、国際交流に感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 国連開発計画の取り組み

国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所駐日代表  
近藤 哲生

世界冬の都市市長会は国連広報局と国連経済社会理事会の登録 NGO として、環境保全に関する行動目標の設定など、まちづくりを通じた持続可能な社会づくりにも会員都市が一丸となって取り組んでいます。そこで、国連の持続可能な開発目標の推進などに取り組んでいる国連開発計画駐日代表事務所の近藤哲生代表から、国連開発計画の取り組みについて紹介していただきました。



## 国連創設 70 周年を機に「持続可能な開発目標」を採択

世界冬の都市市長会のご努力に国連として改めて敬意を表します。2014 年 1 月に UNDP の駐日代表に就任いたしましたから、積極的に日本各地の地方都市の講演、イベントなどに参加をさせていただいております。札幌市は昨年に続きまして 2 回目の訪問です。地方自治体には技術、人材など世界が求める数多くの資源があることを実感しております。今回の札幌訪問では、実は昨日滝川市にもお邪魔し、講演、視察をさせていただきました。滝川市は長年に渡ってアフリカやアジアから研修員を農業技術研修のためにお招きになっています。そのネットワークは非常に大きくなっており、昨日も 10 名以上のアフリカの研修員の方々、政府の高官の方々がいらしていました。

国連は、第二次世界大戦が終わり、「国際の平和と安全を維持すること」を一つの目的として設立され、昨年創設 70 周年を迎えました。昨年の 10 月 24 日、国連デー、国連の創設記念日には「Turn the World UN Blue」と称しまして、世界の名所を青い色に染めるという、とても斬新なイベントを行いました。ニューヨークの国連ビルを始め、世界中 150 か国で名所・旧跡を国連のシンボルカラーの青色に染めました。東京のスカイツリー、横浜のマリンタワー、京都の二条城なども参加し、また札幌からも札幌テレビ塔、札幌時計台がこのキャンペーンに参加して、平和と人権と開発を祈念して青く染めていただきました。



昨年は国連にとって 70 年の節目でありますと同時に、2016 年から 2030 年にかけての実現を目指す 17 の目標、169 のターゲット、『持続可能な開発目標 (SDGs)』Global Goals を採択いたしました。この新たな目標は貧困や飢餓の解消、安全な水や清潔なトイレ、また気候変動の対応、海洋資源の保全や持続可能な利用、また再生可能なエネルギーの確保など、住民 1 人ひとりの生活から世界全体の平和と安定に至るまで、開発途上国だけではなく、先進国も自国での取り組みを求められるものとなっています。SDGs の採択のきっかけは、世界が気候変動による自然災害の増加や生態系の破壊、国境を超える感染症の脅威、格差の拡大、貧困に起因する暴力的過激主義、国際的なテロリズム、そして難民問題といった数多くの新しい課題に直面していることにあります。互いに絡み合い、解決を複雑化するこうした問題に人類が協力して取り組むために、この SDGs は採択されました。この目標は「地球上の誰をも置き去りにしない」、「Leave no one behind」という理念が軸にあります。

紛争や災害によって平和、開発、人権が損なわれた社会では、特に女性や子どもが悲惨な生活を強いられ、恐怖や欠乏の中で人間の尊厳が失われてしまいます。SDGs の底流にある考え方は、持続可能な開発を進める上で前提となる平和です。どれだけ開発資源に投資しても、社会が不安定化し、紛争や戦争が発生することで、それまで取り組んできた成果は大きく損なわれ、回復にも時間がかかります。また、地震や台風といった自然災害も開発を後退させてしまいます。

今後この SDGs の達成に向けて、私たちを取り巻く「環境」、また生活を育む「社会」、暮らしの糧となる「経済」という 3 つの側面を見ながら、人間を中心とした開発を進めてまいります。人類が協力して取り組み、数値に表れる成果をあげることが重要です。

それは、国連や政府に達成責任が問われるばかりではなく、住民の生活に直結した行政サービスを提供される地方自治体、地域住民にも深い関わりがあります。

## 地球規模の課題を「自分ごと」として考える

ここで地方自治体と開発途上国の開発の関係について簡単にご説明させていただきます。私が所属しております国連開発計画（UNDP）は、各国の国づくりや地方行政を支援するため、1966年に国連総会で設立された機関です。世界129か国に事務所があります。約170か国で活動を展開しておりますが、教育の普及やHIVの対策といった、草の根レベルの活動から、民主的ガバナンスの推進、司法制度支援、政府自治体の職員の能力強化など、国や地方行政の基盤づくりにも関わっております。

私自身、現在のUNDP駐日代表就任の前は、2007年から2013年にかけて、旧ユーゴスラビアのコソボの副代表、またアフリカのチャドといった国で所長として勤務をしてまいりました。こういった国では、国の発展に向けて、「地方分権を進める」という政策が共通して推進されております。地域住民の意思を十分に反映させて地方議会の民主化プロセス、また戸籍や住民登録、土地の登記など、こういった市民サービス、ゴミの処理、公共交通網の整備、治安の維持まで「地方自治体」の行政を応援する数々のプロジェクトを実施してまいりました。地方行政は、地元の産業や人口規模、気候条件など土地特有の問題、これに地域ごとに取り組む上で重要です。開発において途上国が自らの経験を別の開発途上国のために役立てるといふ、いわゆるサウス・サウス・コーポレーション「南南協力」という考え方がございますが、こういった自治体間協力、札幌市とウランバートル市、北極圏の各都市、こういった自治体間協力ということが今後も広く普及されていくものと考えます。

先ほどもJICAの指導による消防技術支援のお話でしたが、UNDPも国際的な自治体間協力を通じて、紛争から立ち上がろうとしていたコソボ、1999年の紛争によって多くの命が失われた地域ですが、ヨーロッパ諸国の各国の都市の間で助け合うという縁を取り持たせていただいて、体系立てた支援を募るプロジェクトを行ってまいりました。これはUNDPが2005年から世界で展開する「地域開発ガバナンスのための自治体間ネットワーク（ART Global Initiative）」プログラムの一環で、地方行政のノウハウ提供、自治体職員の指導者派遣などの国際協力を推進してまいりました。例えば、酪農など地元住民の生計手段を確保して、国立公園の生態系保護を必要とするコソボ南部のドラガシュという山岳地域がありますが、ここには似たような地理条件を持つスイスやフィンランドなどの地方自治体が知見や技術を提供していただきました。本日も先ほど、フィンランドのロヴァニエミ市のご経験を伺いました。また、コソボ南部のプリズレンとジャコバという街を結ぶバス輸送の公共交通網の整備においては、ドイツやオランダなどの地方都市がバスの運行管理や停留場の設置、公平性や都市機能の拡充の観点も組み込みながら、自らの経験を

共有していただきました。また、2010年にはUNDPと、紛争に見舞われていた世界の都市、例えば北アイルランド、キプロス、コソボのミトロヴィツァという街があります。こういった激戦地となった都市の民族の融和を目指すためのフォーラムを行い、世界各国から自治体に協力をしていただきました。



このように地方自治体発の知見や人材、そして資源が世界で広く求められ、またそれが交換されることによって多くの成果を挙げております。『持続可能な開発目標（SDGs）』、この達成に向けて取り組むのは国連や政府だけではありません。地球上で暮らす私たち全員です。気候変動への対応、環境、平和な社会づくりなど地球規模の課題は1人ひとりが「自分ごと」として取り組まなければ解決は致しません。本日、第17回世界冬の都市市長会議にお集まりの各国主要都市の市長の皆様、関係者の皆様も日々の市政を通じて、17の開発目標、SDGs達成のために何ができるかを一緒に考え、取り組んでいただければ幸いです。

最後になりますが、本日のこの札幌会議のレセプションには、私どもUNDPの親善大使を務めております俳優の紺野美沙子さんが出席させていただきます。紺野親善大使は1998年に親善大使に就任後、これまでにアフリカやアジアなど、9か国地域を訪問して、数々のUNDPの活動現場を報告してきております。明日30日も午後2時から札幌市共済ホールで世界冬の都市市長会議開催の市民イベント「冬の都市フォーラム」でお話をさせていただく予定です。よろしければ皆様もどうぞお越しください。

また、紺野親善大使は、8月27日、28日両日にアフリカのケニアで開催される「第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）」を前に、8月3日から1週間、ケニアへ視察・出張に参ります。私も同行いたします。次に札幌を訪問させていただくときには、ケニア、TICADの会議の様子もご報告できればと思っております。今回この札幌の冬の都市市長会議に参加させていただいたことを大変に光栄に思います。ご清聴ありがとうございました。

# 札幌開成高校生徒によるまちづくり提言

## まちづくりに演劇の3つの力を！

札幌開成高校は、将来、国際社会で活躍できるグローバルリーダーを育成するスーパー・グローバル・ハイスクールとして、日本の文部科学省から指定を受けています。札幌の教育の中核をなす3つのテーマである「雪、環境、読書」ということを切り口に、地域と世界を意識した研究活動を行っています。今回まちづくりに関する提言は、その集大成でもあります。

### 観客である市民がつくるアート

私たちが3年間、SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）の活動を通して学んできたことをもとに、札幌のまちづくりのアイデアを発表します。

私たちが考える札幌のまちづくり、テーマは演劇です。今まで私たちは数々の研修に参加してきました。特に印象に残っているのは、ニセコ、函館蔦屋書店、ベトナム・ホーチミン、植松電機、カナダ・バンクーバーの5カ所です。例えば、エコ・フレンドリーであること、気候を生かし冬のスポーツの名所となること、市民ひとりひとりが活躍できることなど、まちづくりにおいて重要なアイデアを学び、どれも忘れられない経験になりました。こういった研修を通して私たちが考える理想の札幌は、札幌が「世界中が愛するまち」になることです。

では、そんな理想の札幌に近づくために、何を用いればよいでしょう。さまざまな研修先で学んだことは「市民ひとりひとりが活躍する」ことが重要だということです。そこで、札幌のまちづくりにあたって、2つの要素を考えました。ひとつは、市民一人一人が「好きなこと」に関わっていくこと。もう一つは誰かのためになる行動をしていくことです。「好きなこと」が「誰かのため」になれば、生きがい生まれ、誇りが生まれ、札幌がより豊かになると考えます。これら2つの要素を満たすものは、何か。その1つが演劇です。

演劇は3つの強みを持っています。1つ目は、「コミュニケーションのアート」であるということ、2つ目は、「生きているアート」であるということです。2009年9月11日に開催された「創造都市交流シンポジウム」の基調講演において、上田前札幌市長は、「芸術文化の役割は、感動を共有することによって、モチベーションを引き出し、コミュニケーションを図ること」と述べました。それはまさに、演劇が最も得意とする仕事です。優れた演劇が与える喜びと深みは、グローバル化した世界で、文化・価値観・宗教の違いすら乗り越え、「違いを分かり合う」ことのきっかけになります。生身の表現者と生身の観客が記録媒体を通さずに対峙し、五感と創造力をすべて働かせることによって成立する「コミュニケーションのアート」なのです。カナダの大学生に演劇について調査したところ、先進国で国立の大学に演劇学科がないのは日本くらいだそうです。高校でもドラマティーチャーが配置されており、当たり前のように学校で演劇を学んでいます。日本人が苦手とされている自己表現や対話は、こうし

た演劇の学校教育で養われています。また、舞台芸術は映画や絵画など、いつでも同じものが観られる「記録されている芸術」と違って、やるたびに違うものが生まれる「生きている芸術」でもあります。これら2つの力は演劇にしかない、特別な要素です。

さて、演劇を作るのは役者だけでしょうか。もちろん違います。舞台スタッフをはじめ、劇作家や演出家など、多くの人が演劇に関わります。しかし、こういった「演劇を専門に働く人」だけが演劇を作っているわけではありません。舞台音楽を作る音楽家、演劇には欠かせない広告業、そして劇場近隣の飲食業や交通機関まで、演劇の環境が発展していくに伴い、多くの役割や雇用が生まれます。言い換えれば、演劇人が仕事として継続的に演劇創造ができる街に多彩な技術と才能が集まり、まちづくりが形成されていきます。そして、演劇になくしてはならないのは、観客、すなわち私たち市民です。演劇とはまさに「市民がつくるアート」なのです。これが3つ目の演劇の力です。

### 2つの検証から見えた演劇の有効性

では、札幌で演劇を生かすことは可能なのでしょうか。私は自信をもって「イエス！」と答えます。札幌演劇は今、目まぐるしく成長しており、グローバル化の最先端ということが出来ます。海外で上演をする札幌の劇団や札幌で上演する海外劇団との交流もあり、舞台芸術を通して、グローバルなコミュニケーションの環が札幌の地で作られています。2012年から開催されている「札幌演劇シーズン」では、毎年2回、質の高い演劇を1か月間のロングランで講演するというシーズン制をとっており、大成功を収めています。札幌以外の地域からも注目を浴びており、毎年多くの視察団が札幌を訪れているほどです。

私たちは、以上のことからこのような仮説を立てました。それは「札幌のまちづくりにおいて演劇は有効である」ということです。

この仮説が正しいのかを確かめるため、私たちは2つの検証を行いました。1つは中高生が「地域の課題を演劇にする」という取り組みです。プロの演出家を学校に招き、有志で集った札幌開成中等教育学校の生徒10人で、現在日本で問題視されている「特殊詐欺」をテーマに演劇を作り、それを地域のお年寄りに実際に発表しました。参加者は演劇の経験がほとんどないばかりでしたが、表現することの喜びや難しさ、多様さを体感する経験とな

りました。この取り組みは（地元メディアの）北海道新聞やHTB（北海道テレビ）にも取り上げていただきました。

＊ニュースのVTRを上映

実際に観ていただいた地域のお年寄りからは、「演劇は印象に残りやすく、また世代間の交流にもつながる」という声をいただき、予想を上回る成果をあげました。このことから確かに演劇はコミュニケーションの力、そして課題提起の力があることがわかりました。

2つ目の検証です。琴似で毎年行われている住民劇「温故知新音楽劇」の方々に、アンケートに協力していただき、演劇がまちづくりにおいてどれだけの効果があるかを調べました。温故知新音楽劇は今年で第10回目を迎え、参加者は40人を超えるほどです。琴似の地域の歴史や魅力を琴似住民が演劇で表現するこの取り組みは、地域の活性化につながっているのでしょうか。

アンケートの結果では、参加者・観劇者ともに「住民劇は地域のことを改めて考えるきっかけとなる」という回答が多く、とても充実したものだったようです。他にも「多様な年代の人々と交流できる」という声もあり、この取り組みは好きなことで琴似に役立つという点で、琴似のまちづくりに大きく貢献していると言えるでしょう。

結論です。演劇の3つの力とは、コミュニケーションのアートであること、生きているアートであること、そして市民がつくるアートであるということです。そこに札幌演劇のグローバル化や演劇シーズンの開催などにより、他地域からも一目置かれる札幌、多くの市民が生きがいを持ち、かつ札幌の魅力・課題を深く知ることができる演劇は、まちづくりを進めるにあたって効果的です。さらにこの2つの検証のように演劇を取り入れることでコミュニケーション能力向上にもつながり、若者がまちづくりに関わり、活躍する街になります。ゆえに、私たちはまちづくりに演劇を用いることを強く推奨します。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



**進行：札幌市 秋元 克広**：札幌開成高校の皆さん、ありがとうございました。今、まちづくりの中で一つのコミュニケーションのツールとして、そして市民参加、自ら市民の人たちが自らの街の課題に向き合っていく、問題提起をしていく、そういったコミュニケーションツールとして、そして社会貢献をしていくツールとして、演劇ということを提案いただきました。まちづくりにこの演劇というものが有効なのではないかということで提言をいただきました。日本人特有のなかなか自己表現が難しいというような背景もあるかもしれませんが、共通の、今日お集まりの都市の皆様の中にも共有していただける部分といいますか、共感していただける部分があるのではないかと思います。何か今のせつかくの機会でございます。若者の提言に対して何かご意見・

ご質問があればお願いをいたします。

**エドモントン市 スーザン・ホルドスウォース**■一言コメントをしたいんですけども、プレゼンテーションありがとうございました。この何日間で色々な情報を得ました。エドモントンのこと、そしてお互いのことを学びました。そして、ストーリーの力というものを信じています。ですから、情報をこういった感情的なインパクトを含めて、ドラマや物語にすると非常に効果があると思いましたので、プレゼンテーションを大変素晴らしいと思いました。ありがとうございます。

**ロヴァニエミ市 エスコ・ロトゥヴォネン**■若者の皆様、素晴らしいプレゼンテーションだったと思います。いつもこの若い人たちがこういったことに参加して、積極的に意見を言うってくださるということ、そしてまちづくりに関わってくれるということは、大変素晴らしいと思っています。いろいろな違った観点から物を見たり、そして優先事項を考えたりできるというところが、若者の強みだと思います。もちろんドラマ、そして劇場ドラマというのは、非常に素晴らしい手法だと思います。それによってこのアイディアを他の人と分かち合う、そして活動を広げていろいろな関係者に伝えていくという効果があります。私たち皆がこういったプレゼンから学んで活動を取り入れるべきではないかと思います。ありがとうございました。

**華川郡 チェ・ムンスン**■札幌の高校生の皆さんのこのような発言に対して、市長はいかがお考えでしょうか。学生は未来の主人公です。彼らの意見に対して、札幌市長はどのように受け止められましたか。

**進行：札幌市 秋元 克広**■非常に頼もしく思っています。彼らはいろいろな国の人たちと話をしていく中で、グローバルなコミュニケーションというものをどうとっていくのか、そして、街の課題に取り組んでいく市民のコミュニケーションをとっていく手段として演劇というものを捉えて、今回提案をしてきました。皆さん方のこれまでの熱心ないろいろな研究の中から、積極的な提案をしていただいたことに改めて感謝を申し上げたいと思います。これからは自分たちの街のことを自ら考えていく、そして自ら行動をしていくということを、こういったいろいろな取り組みの中で、そして自分よりではなくて、いろいろな人たちと議論をしながら物事を解決していくこと、これからはしっかりと取り組んでいただければと思います。皆さん方の提言を我々、冬の都市市長会議のメンバーはしっかりと受け止めて、それぞれのまちづくりの中にこのアイディアというものを何らかの形で生かしていきたいというふうに思っています。どうもありがとうございました。

# 全体会議・閉会式



秋元克広札幌市長から、3日間の会議の総括が行われた後、今回の市長会議における議論の成果を取りまとめた「札幌宣言」と「第17回世界冬の都市市長会議決議」の採択が行われました。

事務局より札幌宣言案について説明した後、秋元市長が宣言案を読み上げました。

## 札幌宣言

34年間の歴史を有する「世界冬の都市市長会」は、1982年に「北方都市会議」として、ここ札幌で始まった。

これまで我々は、積雪寒冷地の都市が抱える多様な課題と向き合い、数多くの仲間たちと共に学び合うことで冬の都市の発展に努め、その絆を強固なものにしてきた。

冬の都市には雪や寒さという冬の特徴に加え、四季の変化や際立つ夏の輝きという他の地域にはない魅力がある。これらを生かして、「このまちに住んで良かった」と思ってもらえるようなまちづくりを行うことが我々の使命である。

我々は世界冬の都市市長会のネットワークを最大限に活用し、国や立場を超えて互いの文化の違いを理解し、つながり、切磋琢磨し合いながら協力し、こうした「まちづくり」を一層推進していく。

また、冬の都市市長会を通じた我々の活動は、各都市の課題解決のみならず、未来の国や世界を形作る欠かせない要素であり、環境問題など地球規模の課題解決にも寄与していることをここに確認する。

さらに、30年を超える継続的な活動を通じ、国境を越えて信頼関係・協力関係を築いてきた冬の都市のネットワークが、異なる文化や利害が複雑に絡み合ったさまざまな国際的課題の解決の一助になることも期待したい。

よって、我々冬の都市は、さらなる連携を深めるとともに、世界冬の都市市長会が積雪寒冷地の都市を主導する存在となることを目指し、始まりの地であるここ札幌から、共に未来に向かって新たな一歩を踏み出していくことを宣言する。

引き続き、市長会議の決議事項をまとめ、秋元市長より読み上げられました。

## 第17回世界冬の都市市長会議決議事項

- 1 今会議で採択された「札幌宣言」に基づき、各都市は次の事項について引き続き最大限努力するとともに、可能な範囲で数値目標を設定し、次回市長会議においてその取組を報告する。
  - (1) エネルギーの転換と削減に関する取り組み
  - (2) 大気汚染などに関する環境保全の取り組み
- 2 今会議で決定された新たな活性化事業をひとつの手段として、本会の会員都市のさらなる増加を目指し、世界の積雪寒冷地の都市間連携を一層深めていく。
- 3 2020年の第19回世界冬の都市市長会議の開催都市をロヴァニエミ市とする。
- 4 世界冬の都市市長会の発展に対して貢献された 鄭甲澈 前華川郡首と 上田 文雄 前札幌市長を名誉会員とする。
- 5 今会議の運営を支援した札幌市民を讃える。

事務局より提案された「札幌宣言案」及び「市長会議決議案」について各都市の賛同を得て、「札幌宣言」への署名が行われました。

3日間にわたって開かれた市長会議は、全日程を無事終了し、閉会しました。

## ■各都市参加者のコメント

**エドモントン市 スーザン・ホルドスウォース** ■私から申し上げたいのは、会議の開催をいただきましてありがとうございます。皆様の温かい歓迎、そしてご親切、そして我々の都市間の類似性、そしてまちの相違性、違いというものを学びました。そして今後も専門性を共有し、特に冬のデザインに関しての知識などを共有できたらと思います。

**長春市 王 慧力** ■3日間、大変短い会議でしたけれども、多くのことを感じました。都市を管理したり、建設する上での素晴らしい経験を伺うことができました。冬の都市市長会議が閉幕するにあたり、多くの交流や多くの協力のチャンスがあるということを感じました。これからも市長会議がさらに広がっていくことを願います。この長春側の参加者を代表しまして、秋元市長を始め、札幌市の皆様、スタッフの皆様に感謝を申し上げます。

**ロヴァニエミ市 エスコ・ロトゥヴォネン**■ロヴァニエミ市は新しい会員として参加させていただきました。新しい友好関係を築き、そしてネットワークもできました。我々は、今後も世界を舞台にまちを発展させていきたいと思えます。寒さ、雪、氷は魅力的な資源です。今後も共通するまちづくりを共有していけると思えます。さまざまな文化が集まるこの市長会議で大切なのは、世界的な問題、エネルギー資源の問題、サーキュラーエコノミー（CE）を活用して考えることです。3日間の滞在中にご親切にいただきましたことに感謝申し上げます。



**松本市 菅谷 昭**■この度の会議が多彩な企画のもとに大成功に終了したことに對しまして、札幌市の秋元会長をはじめとしまして、関係の皆様方に対して、心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。本会の創立以来30年以上経過しているわけでございまして、これまで大きな発展を遂げている会員都市の皆様方に改めて敬意を表する次第でございます。時代が急速に変化している現状に即しまして、本会議が今後いろいろな課題を共有し、そして連携を深めながら、さらに飛躍することを願う次第でございます。ありがとうございました。

**ウランバートル市 サンダグドルジ・バイルバートル**■この会議の開催にあたった秋元市長、札幌市民の皆さん、事務局、通訳の皆様方に感謝をしたいと思います。今回の会議を通じて、我々冬の都市の皆が共通問題を再認識し、また、皆様各都市がその問題に対して取り組んでいる経験などからいろいろ勉強することも多かったと思えます。これからもウランバートル市の発展のために皆様の経験を生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

**華川郡 チェ・ムンスン**■お互いの相互協力を通じ、冬の都市の住民が幸せに、そして世界の全ての人類の幸福のために、国境、利害を超えて協力できるように拡大することを期待したいと思います。これまで3日間、今回の会議の準備をしてくださいました、秋元札幌市長、関係者の皆様、そして札幌市民の皆様方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

**ノボシビルスク市 アレクセイ・コンドラチエフ**■どのようにすれば市民の生活が厳しい気候条件の中でよくなるのかを思い、会議参加者がさまざまなプロジェクトや経験、知識、情報交換に大きな興味をもってくださっていることに感銘を受けました。34年前に札幌市がこのような意見交換の場を冬の都市のために作ってくださっていることに感謝申し上げます。冬の都市間のビジネスマンや研究者、行政の関係者で協力し合って、共同のプロジェクトを進めていきたいと思います。そして、より快適な生活を市民に作っていききたいと思います。今回の会議の参加者に対して、大変なお気遣いをいただきました。素晴らしい快適な会議の環境の中で、具体的な問題を討議することができました。心より感謝申し上げます。

**札幌市 秋元 克広**■皆様改めまして、3日間本当にありがとうございました。今回の会議は、第1回市長会議の開催から34年ぶりにスタートをいたしましたここ札幌で開催をさせていただくことができました。これを契機に市長会の新たな方向性、展開ということができればという思いで、準備を進めてまいりました。皆様の感想をお聞きしながら改めてこの3日間を振り返りますと、これまでとはまた新たな視点で、この市長会での議論、討議というものが進められたのではないかとこのように思っております。環境を含めて、あるいはそれぞれのまちの持っている資源を生かしながら、地域を、経済を活性化させていく、それをまちづくりの中に生かしていくという大きな視点の中で、いろいろなご意見、討論ができたのではないかとこのように思っているところであります。これはひとえにご参加をいただきました会員都市の皆様、会場にお越しの参加をいただいた都市の皆さん、そして、この会議の運営に携わっていただきました多くの皆様方のご協力に改めて感謝を申し上げたいというふうに思います。

34年前に、札幌から提唱させていただきました、冬の生活、積雪寒冷地という気候の中で暮らす私たちにとって、それぞれの寒さ、雪を克服していくという知恵を共有しようというところから、地球環境問題を含めた大きな視点でそれぞれの都市の連携を進めていくという新たな思いを共有できたのではないかとこのように思います。

次回2年後の第18回市長会議は、中国の瀋陽市で開催されます。私ども札幌市の友好都市でもあります瀋陽市にさらにこの市長会が高度な議論、そして、強い連携のもとにこの市長会議のバトンをお渡しすることができる、そのことを大変嬉しく思っているところでございます。冬の都市の一層の発展ということに次の18回の瀋陽での開催、そのことをお願い申し上げまして、第17回の世界冬の都市市長会議の閉会のご挨拶とさせていただきます。皆様どうもありがとうございました。

# 記者会見



3日間にわたり札幌コンベンションセンターで開催された市長会議の終了後、記者会見を行いました。

会見では、冒頭に秋元市長が「34年前に札幌で始まった会議のテーマは『冬をどのように克服するか』でありましたが、今は冬を利用してまちづくりを進める段階に進んだという印象を受けました。」と語り、3日間の会議を振り返りました。そして、会議閉会にあたり採択された「札幌宣言」および「第17回世界冬の都市市長会議決議事項」を秋元市長が読み上げました。

最後に、秋元市長は「気候風土が似通った世界中の都市の代表の皆さんと意見交換し、またリラックスした雰囲気の中で談笑する機会を得られましたことは、私自身、大変有意義であり、かつ刺激的でありました。そして多くのことを学ぶことができたというふうに思っております。」と感想を述べ、別会場で開催されていた関連事業の「ビジネス交流会」や「2016 ウインターシティーズ・ショーケース」を紹介し、今後の新たなビジネス展開などの可能性に期待を寄せました。

また、新たに会員都市となり今回が初の市長会議参加となったロヴァニエミ市のロトゥヴォネン市長は、「さまざまな専門性、そして有力な情報を共有することができました」と語りました。エドモントン市冬の都市コーディネーターのホルドスウォース氏は、「共通点、そして相違点も面白いと思っておりました。まちづくりを積極的に行っている者としては、北極圏のデザインに関する話が非常に面白かったです。デザインというコンセプトは、非常に大きな影響があります。人間の精神的な生活の質にも関わってくる問題であります。そのため、この分野でのさらなる交流というものを求めたいと思います。」と会議の感想を述べました。

記者から2020年のロヴァニエミ市での市長会議開催に関する質問があり、ロトゥヴォネン市長は、「デザインを主要テーマに掲げたい。」と答えました。また会議の感想を求められた松本市の菅谷市長は、「地球規模の課題を共有して、なおかつそれに対して連携を深め、解決のために学び合い、さらに世界平和につながっていくこと。」に市長会の持つ意義を語りました。そして、記者よりこの国際ネットワークが国家間の友好関係にどのように資すると思うか意見を求められた華川郡のチェ・ムンスン郡首は、「国家間の利害を超えて、冬の都市の住民を中心に据えて、世界中の人々の幸せを追求する。些細なことから小さなことから一緒に作り上げていくことが大事だと思います。」と、冬の都市市長会の取り組みについて評価し、記者会見は終了しました。

記者から2020年のロヴァニエミ市での市長会議開催に関する質問があり、ロトゥヴォネン市長は、「デザインを主要テーマに掲げたい。」と答えました。また会議の感想を求められた松本市の菅谷市長は、「地球規模の課題を共有して、なおかつそれに対して連携を深め、解決のために学び合い、さらに世界平和につながっていくこと。」に市長会の持つ意義を語りました。そして、記者よりこの国際ネットワークが国家間の友好関係にどのように資すると思うか意見を求められた華川郡のチェ・ムンスン郡首は、「国家間の利害を超えて、冬の都市の住民を中心に据えて、世界中の人々の幸せを追求する。些細なことから小さなことから一緒に作り上げていくことが大事だと思います。」と、冬の都市市長会の取り組みについて評価し、記者会見は終了しました。

## 燃料電池自動車の展示試乗会（会議2日目：7月28日）

札幌トヨタと札幌トヨペットのご協力により、札幌コンベンションセンター前の屋外展示場で、燃料電池自動車の展示試乗会を行いました。静かな走りと快適な乗り心地を参加者は順番に試乗して確かめていました。





# 食 事

## 食 事

会議期間中の昼食は、札幌コンベンションセンターに昼食会場を設けてビュッフェスタイルで提供しました。また、昼食と同じ会場をコーヒースタンドにも使用しました。

### ■コーヒースタンド

午前、午後各1回の休憩時間には、コーヒースタンド会場を設けて対応。飲み物の他、札幌・北海道のお菓子を日替わりで提供し、好評を博しました。

| 日    | 7月27日(水)    | 7月28日(木)                   | 7月29日(金)    |
|------|-------------|----------------------------|-------------|
| 時間   | 15:00~15:30 | 10:15~10:50<br>15:20~16:00 | 10:20~11:00 |
| 会場   | 中ホール        | 中ホール                       | 会議室107・108  |
| スイーツ | 7種類         | 【午前】6種類<br>【午後】6種類         | 6種類         |
| ドリンク | 水、コーヒー      |                            |             |



## ■昼食

昼食は日替わりメニューを用意し、ビュッフェ・着席スタイルで提供しました。また、会場にモニター 4 台を配置し、参加都市から提供された PR 映像を上映しました。また、昼食会場には各都市から提供された PR パンフレットを展示配布できるテーブルを用意し、気軽に情報交換できる場としても活用されました。

| 日       | 7月27日(水)                                                                                                                                      | 7月28日(木)                                                                                                                    | 7月29日(金)                                                                                                                               |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時間      | 12:30~14:00                                                                                                                                   | 12:30~13:30                                                                                                                 | 12:45~14:00                                                                                                                            |
| 会場      | 中ホール                                                                                                                                          | 中ホール                                                                                                                        | 会議室107・108                                                                                                                             |
| 固定メニュー  | サラダ各種(ドレッシング:和風・イタリアン・フレンチ)<br>温野菜 野菜スープ フルーツ デザート パン ライス                                                                                     |                                                                                                                             |                                                                                                                                        |
| 日替りメニュー | 〔冷製〕<br>●冷製ラタトゥイユ<br>●蛸のカルパッチョ<br>●蒸し鶏とメンマのピリ辛<br>〔温製〕<br>●チキンの香草焼き<br>●パスタと茄子のキーマカレー<br>●グラタン<br>●豚ロース肉のロースト<br>ポリネシアンソース<br>●夏野菜のペペロンチーノパスタ | 〔冷製〕<br>●スモークサーモンとオニオンスライス<br>●魚介類のエスカベシュ<br>●鶏肉のやわらか蒸し柚子ソース<br>〔温製〕<br>●チキンバロティース<br>●ビーフシチュー<br>●いろいろお豆とトマトの煮込み<br>●野菜ピラフ | 〔冷製〕<br>●野菜サンドイッチ<br>●チーズとトマトカプレーゼ生ハム添え<br>●アボカドと海老のサラダ仕立て<br>〔温製〕<br>●牛肉の茄子のムサカ風<br>●サーモンのボワレ醤油バターソース<br>●鶏肉の照り焼き<br>●いろいろ野菜入りショートパスタ |



# 夕 食 会

## 札幌市長主催歓迎夕食会

日時：7月27日（水） 18：30～20：00

会場：札幌パークホテル 1階 ザ・テラスルーム

秋元札幌市長の主催者挨拶に続き、歓迎の言葉と乾杯を恩村一郎札幌市議会副議長が行い、懇談がスタート。ビュッフェ・立食スタイルのメニューは、北海道産の食材をふんだんに使い、にぎり寿司やおでんなどの和食も用意され、参加者は気軽にテーブルを回って交流を深めていました。

また、オブザーバーとして参加していた美瑛市より、同市において雪の中で貯蔵された、にぎり酒「夏雪」もふるまわれました。

この日のアトラクションは、生け花ショーと三味線のコラボレーションで、三味線演奏をバックに、華道家が大きな壺に花を活けていきました。仕上げは、会議参加者の中から希望者に手伝ってもらうパフォーマンスも組み込まれ、参加型のアトラクションになりました。

終始和やかな雰囲気の中、最後はノボシビルスク市のアレクセイ・コンドラチエフ副市長による乾杯で、会議初日の夕食会が閉会しました。

### 【メニュー】

#### <冷製料理>

- ◆クロスティニー
- ◆刺身の盛り合わせ
- ◆時不知サーモンの自家製マリネ 森のキャビア添え
- ◆野菜のミックスサラダ
- ◆わんこそば ナメコおろし

#### 本日のデザート

- ◆フルーツ盛合せ

#### <温製料理>

- ◆豆類を入れたキッシュパイ
- ◆焼き物：(鯿の蝦夷焼き、帆立、ししゃも焼き)
- ◆時不知サーモンの包み焼き
- ◆鶏肉のグリルと野菜のレモン風味焼き
- ◆ポークチャップのグリル洋食屋さんソース インカのめざめ添え
- ◆タコと枝豆の和風ピラフ
- ◆アスパラガスとズッキーニのスパゲッティトマト味

#### <コーナー料理>

- ◆ビーフステーキ 山わさび和風ソース



#### <和 食>

- ◆にぎり寿司：鮪、そい、甘海老
- ◆天婦羅：時不知、帆立貝、舞茸、アスパラガス
- ◆蒸し物：知床鳥スープ茶碗蒸し、玄米マカロニ、チーズ
- ◆焼き物：きたあかりとトウモロコシ、酒盗クリーム焼き
- ◆煮 物：おでん〔蛸つみれ、大根、はんぺん、じゃが芋、玉子、餅巾着、昆布〕
- ◆酢の物：カニとワカメときゅうりの酢の物、たらば蟹、毛蟹、ずわい蟹

#### <ドリンク>

〔アルコール〕ビール、ウイスキー、日本酒、ワイン  
〔ソフトドリンク〕ウーロン茶、水

#### 【アトラクション】

生け花ショーと三味線のコラボレーション

生け花：片見修子

津軽三味線：佐々木忍弥／佐藤文彦

## 瀋陽市政府主催夕食会

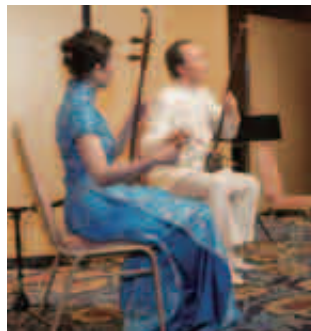
日時：7月28日（木） 19：00～20：30

会場：札幌プリンスホテル 国際館パミール

3階 大沼・洞爺・支笏

2018年の第18回世界冬の都市市長会議の開催都市である瀋陽市政府主催の夕食会では、各都市代表者を集めた正面メインテーブルの料理はスタッフによるサーブ、円卓の座席は、ビュッフェ・着席スタイルとなりました。

アトラクションは、中国琵琶と二胡の演奏でした。



### 【メニュー】

#### 〈VIP メニュー〉

- ◆パンチェッタとカッテージチーズのサラダ仕立て
- ◆チキンとゆり根のコンソメスープ
- ◆鯛とサーモンのポワレ ベルモットソース
- タイム風味のズッキーニと茄子と共に
- ◆牛ロースのロティと野菜のメランジェ 柚子胡麻風味のマデラソース
- ◆パン
- ◆ショコラミルクレープ
- ◆コーヒー

#### 〈VIP グルテンフリーメニュー〉

- ◆ボイルポークと野菜サラダ
- ◆チキンと野菜のスープ
- ◆鯛とサーモンのポワレ トマトにコンフィー添え
- ◆牛ロースのロティと野菜のメランジェ 山わさび添え
- ◆ライス
- ◆フルーツ
- ◆コーヒー

#### 〈ビュッフェメニュー〉

- ◆サーモンとイカのカルパッチョ風
- ◆サラダコーナー（オリーブオイル・塩・胡椒・ビネガー）
- アスパラガス、コーン、トマト、きゅうり、オニオンスライス、レタス、大根、人参

- ◆海老とベビー帆立貝のエスカベッシュ
- ◆赤魚のポッシュ アサリとサフランのソース
- ◆クロガレイムニエル グルノーブルソース
- ◆チキンのソテーと野菜のメランジェ マデラソース
- ◆ポークのスパイスマリネ オーブン焼き
- ◆牛ロースステーキ 柚子胡麻風味ソース
- ◆パン
- ◆野菜のペペロンチーノパスタ
- ◆フルーツ
- ◆デザート

#### 〈ドリンク〉

〔アルコール〕 ビール、ウイスキー、日本酒、ワイン  
〔ソフトドリンク〕 ウーロン茶、水

#### 【アトラクション】

中国琵琶と二胡の合奏  
中国琵琶：沖本美由紀  
二胡：張換（チャン・ホワン）  
張亜起子（チャン・アキコ）

## 世界冬の都市市長会会長主催夕食会

日時：7月29日（金） 18：40～20：00

会場：豊平館 2階 広間

3日目の夕食会は、前月にリニューアルオープンしたばかりの重要文化財に指定されている歴史的建造物「豊平館」で開催しました。同日は豊平川花火大会の開催予定日で、参加者に花火を楽しんでもらう予定でしたが、あいにくの雨で花火大会が延期となりました。



### 【メニュー】

#### ＜冷製料理＞

- ◆ブルスケッタ
- ◆海の幸のカルパッチョ
- ◆時不知サーモンの自家製マリネ サワークリーム風味
- ◆彩のミックスサラダ
- ◆太巻き寿司といなり寿司
- ◆茶そば ナメコ山菜
- ◆本日のデザート
- ◆フルーツバリエ

#### ＜温製料理＞

- ◆カルツォーネ
- ◆フライドチキンとサモサ ポテトのバスケット
- ◆リガトーニとキノコのトマトソース
- ◆白身魚の赤ミソネーズソース焼き
- ◆照り焼きチキン 胡麻風味
- ◆厚切りトンカツコルスロー添え
- ◆蒸し野菜 塩ドレッシング添え
- ◆サーモンと夏野菜ピラフ



- ◆アスパラガスとポテトのスパゲッティ 唐辛子風味
- ◆ローストビーフポテト添え山わさび風味ソース

#### ＜ドリンク＞

〔アルコール〕 ビール、ウイスキー、日本酒、ワイン  
〔ソフトドリンク〕 ウーロン茶、オレンジジュース、水

#### 【アトラクション】

ピアノ：岩田友恵  
バイオリン：小林佳那



視 察  
エクスカーション

## 視 察

日時：7月29日（金）

14：30～15：00（冬の都市見本市「2016 ウィンター  
シティーズ・ショーケース」開会式）

15：00～17：30（市内視察）



会議参加者は、世界冬の都市市長会議に合わせて7月29日から31日までの3日間開催された冬の都市見本市「2016 ウィンターシティーズ・ショーケース」の開会式に出席し、出展都市の代表者をはじめとした関係者によるテープカットを行い、展示会場内を視察後、市

内視察を行いました。今回の視察のテーマは、日本の三大夜景にも選ばれている藻岩山から市内を眺望し、街の広がりを実感してもらうことでした。あいにくの雨で遠くまでは一望できませんでしたが、参加者は札幌の市街地などの全景を興味深く見ていました。

### 【コース】

15:00〔見本市会場（チカホ）〕⇒15:45〔藻岩山（もーりす号乗車・展望台）〕⇒17:00〔移動〕⇒17:30〔ホテル着〕



## エクスカーション

日時：7月30日（土） 9：00～20：00

エクスカーションとして、札幌・北海道の魅力と歴史を体感できる1日コースを用意しました。北海道博物館で北海道の歴史に触れてから、隣接する開拓の歴史村を訪れ、参加者は大変興味深く展示を見ていました。その後、昼食を挟んで1972年冬季札幌オリンピックのジャンプ競技の舞台となった大倉山シャンツェへ。リフトに乗ってスタート地点を見学した後、隣接するウィンタースポーツミュージアムでスキージャンプの疑似体験などを楽しみました。

その後は、札幌ビール博物館を見学して、ビールジョッキを傾けながら北海道名物のジンギスカンを食べて、エクスカーションが終了しました。

### 【コース】

9：00〔パークホテル〕⇒9：15〔プリンスホテル〕⇒  
10：00〔北海道博物館〕⇒10：45〔北海道開拓の村〕



⇒11：45〔移動、昼食（赤レンガテラス）、移動〕⇒  
15：00〔大倉山ジャンプ競技場（リフト乗車、記念撮影）・ウィンタースポーツミュージアム〕⇒16：30〔移動〕⇒17：15〔サッポロビール博物館〕⇒18：00〔サッポロビール園ガーデングリル〕⇒19：30〔移動〕⇒19：45〔パークホテル着〕⇒20：00〔プリンスホテル着〕



### 【昼食】

会場：レストランテイル・チェントロ ひらまつ  
（赤レンガテラス4階）

メニュー：白アスパラガスのパンナコッタと海の幸  
北海道産鳥賊とブロッコリーのフェデリーニ 黒オリーブ風味

若鶏のインヴォルチーニ ソースコニャックとサルサ  
ヴェルディ 季節の野菜と共に

5種類のドルチェからお好きなものを2品  
コーヒーと小菓子

### 【夕食】

会場：サッポロビール園 ガーデングリル  
メニュー：ジンギスカン 食べ放題



## 関 連 行 事

# 冬の都市見本市 「2016 ウィンターシティーズ・ショーケース」

日 時■ 2016年7月29日（金）～31日（日）

29日（金）14:30～19:00

30日（土）11:00～19:00

31日（日）11:00～17:00

会 場■ 札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」 北3条交差点広場（西）

出展者■ 5か国 12都市・団体 12ブース

| 国      | 都市・団体名     | ブース数 | 内 容        |
|--------|------------|------|------------|
| 中 国    | 長春市        | 3    | 都市紹介、工芸品   |
|        | ジャムス市      | 1    | 都市紹介       |
|        | チチハル市      | -    | 都市紹介       |
|        | 瀋陽市        | -    | 都市紹介       |
| フィンランド | ロヴァニエミ市    | 2    | 都市紹介       |
| モンゴル   | ウランバートル市   | 1    | カシミア・セーター他 |
| 韓 国    | 華川郡        | -    | 都市紹介       |
|        | 麟蹄郡        | -    | 都市紹介       |
| 日 本    | 松本市        | 2    | 都市紹介、伝統工芸品 |
|        | 恵庭市        | 1    | 特産物（食品）    |
|        | 滝川市        | 1    | ものづくり紹介    |
|        | 雪氷環境プロジェクト | 1    | 雪冷房機、さくら展示 |

7月29日から31日までの3日間、札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」で、冬の都市見本市「2016 ウィンターシティーズ・ショーケース」を開催しました。同見本市には、市長会議に参加した都市などがブース出展し、工芸品や衣料品、食品を展示販売したほか、会場内にパネルを展示し、都市の魅力を紹介しました。

初日のオープニングは、札幌市の秋元市長の開会あいさつに続き、ブース出展したロヴァニエミ市、松本市、ウランバートル市の代表者、冬の都市見本市実行委員会の若林委員長の5名によるテープカットで幕を開けました。



期間中、ステージイベントも企画され、「アンサンブルグループ奏楽（そら）」の演奏が5回、「馬頭琴・カンテレ・デュオ RAUMA」の演奏が2回行われました。

クロージングセレモニーでは、北星学園大学4年生の小野咲花さんによる「世界冬の都市市長会議の開催報告」と題して、小野さんがビデオカメラで会議の様様を取材し編集した映像を披露しました。最後は、同実行委員会の若林委員長の挨拶で3日間の見本市は閉会しました。



# 冬の都市見本市「ビジネス交流会」

日時■ 7月28日（木）14:00～18:00

会場■ 札幌プリンスホテル 国際館パミール 3階

参加企業■ 環境関連分野 3か国 4都市 19社

旅行関連分野 3か国 4都市 9社・団体

冬の見本市「ビジネス交流会」は、7月28日札幌プリンスホテル国際館パミールで開かれ、海外企業のプレゼンテーションと個別商談会が行われました。

## ○環境関連分野 参加企業

**瀋陽市（5社）** 瀋陽上林商務貿易有限公司、遼寧中部環境保護有限公司、瀋陽大有環境工程有限公司、瀋陽瑞高環境設備有限公司、中国科学院瀋陽応用生態研究所

**ノボシビルスク市（2社）** 株式会社トランサービス、株式会社エコポリス管理会社

**札幌市（11社）** トーワ建設、J&C、北海道環境バイオセクター、e.cot、廃油ストーブひまわり有限責任事業組合（㈱工北サーモ）、セテック、北海道セントラルパソロジーラボラトリー、環境技建、日本仮設、北海道ポラコン、旭イノベックス

**滝川市（1社）** レビオ

## ○旅行関連分野 参加企業

**ハルビン市（1社）** ハルビン冰雪大世界株式有限公司

**ノボシビルスク市（1社）** シビルスキ・オテリ株式会社（ホテル）

**松本市（1社）** 松本観光コンベンション協会

**札幌市（6社）** JTB北海道、日本旅行北海道、近畿日本ツーリスト北海道、生活協同組合コープさっぽろ、グローイングツーリスト、さくらツアー企画



# 冬の都市フォーラム

日時 ■ 2016 年 7 月 30 日 (土) 14:00 ～ 16:00

会場 ■ 共済ホール

主催 ■ 札幌市、世界冬の都市市長会

後援 ■ 国連広報センター、国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所、  
独立行政法人国際協力機構 (JICA)、日本国際連合協会北海道本部

1981 年に札幌市の提唱により誕生し、国連の登録 NGO でもある世界冬の都市市長会。市長会の主要事業である市長会議が、34 年ぶりに札幌市で行われたこの機会に、記念イベントとして「冬の都市フォーラム」を開催しました。フォーラムでは、市長会がこれまで行ってきた活動を秋元市長が紹介したほか、ウランバートル市のバイルバートル戦略政策企画部長から市長会ネットワークの活用事例として、市長会議がきっかけとなって始まった札幌市のモンゴルへの消防技術協力事業も紹介されました。また、国連広報センターの根本所長と、国連開発計画 (UNDP) 親善大使で俳優の紺野美沙子さんが、ご自身の活動体験を交えながら国連の活動を紹介しました。

なお、ウランバートル市のバイルバートル戦略政策企画部長による『札幌市消防局×モンゴル・ウランバートル市「消防技術協力」報告』の内容については、本報告書 56 ページをご覧ください。

## 世界冬の都市市長会の活動紹介

札幌市長 秋元 克広



『世界冬の都市市長会』は、世界中の冬の都市が集まりまちづくりを学び合うための国際ネットワークです。「冬は資源であり、財産である」をスローガンに活動しています。この組織は 1981 年に札幌市が設立を提唱して世界中に参加を呼びかけ、1982 年札幌で第 1 回の市長会議が開催されました。これは札幌市が自ら主催する唯一の国際会議であり、これまでの会長は歴代の札幌市長が務めており、現在私が 4 代目の会長の職を務めています。

「冬の都市」の定義は、「積雪または寒冷という気象条件の下でまちづくりを行っている都市」ということです。具体的には最大積雪量が概ね 20 センチ以上であること、そして一番寒い月の平均気温が概ね零度以下となること。少なくともこのいずれかを満たす都市の集まりが私たちの『冬の都市市長会』です。

市長会に加入している都市は、カナダがエドモントン、中国が長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽の 7 都市、そしてエストニアがマールドゥとヴィームシ、フィンランドがロヴァニエミ、日本が松本と札幌、モンゴルがウランバートル、ノルウェーがトロムソ、韓国からは華川、麟蹄、太白の 3 都市、そしてロシアがマガダンとノボシビルスク、アメリカからはアンカレッジと計 10 か国、21 都市が加入しています。

それでは特徴的なまちをいくつか紹介します。サンタクロースで世界的に有名なフィンランドのロヴァニエミ市は、人口 6 万人ほどの街です。夏には白夜、冬にはオーロラが見られる、まさに冬の都市のイメージにぴったりの街です。

広い草原とゲルは、モンゴルのウランバートル市です。ウランバートル市は人口が約 137 万人の首都で、夏には馬が駆ける草原が、冬には果てしなく続く雪原へと変わります。

「華やか」に「川」という字を書くのは、ファチョンという韓国の都市です。ファチョンは 38 度線に近い人口が 2 万 5 千人ほどの小さな町でありますけれども、その豊かな自然を生かして魚のやまめをモチーフとした冬のお祭りを開催しています。お祭りは大変人気があり、毎年 100 万人以上の人が集まっているようです。

## 会員都市が環境行動目標を定めて実行中

次に、皆さんといっしょに時間を少し遡って34年前の誕生から順に市長会の歩みを辿ってみたいと思います。市長会のスタートは今から遡ること34年前、1982年に開催された『第1回北方都市会議』という会議で、札幌市の提唱によって世界6か国、9都市が参加して札幌で行われました。

当時の人口は143万人。札幌は冬季オリンピックが開催された1972年から10年経過した時期で、今は10区ありますけれど、当時は7区で、市長は板垣武四市長でした。地下鉄の東西線の白石～新さっぽろ間が開通する時期で、札幌がより一層発展を遂げる時期だと思っています。

さて、当時の札幌はいろいろな課題を抱えておりました。代表的なものとしてはスパイクタイヤによる粉塵の問題です。スパイクタイヤは安全面から制限に踏み切ることが難しかったわけですが、先ほどの映像にありましたように既にスパイクタイヤの規制を行っていたヨーロッパの都市の事例を聞いて、その後の制限・撤廃に向けて舵を切ることになったという経緯がございます。また冬期スポーツの振興ということもございましたが、雪上で行うスノーホッケーという札幌独自の競技を生み出して市内の多くの小学校で普及につながったという例もあります。さて、このようにいくつかの成果を上げた北方都市会議ですが、多くの参加都市から会議の常設を求めたいという声が上がって、札幌市が主催してこれを継続的に開催するということになりました。

その第1回市長会議の開催から近年までの歩みを辿ってみたいと思います。北方都市会議はその後『世界冬の都市市長会議』と名前を変えて積極的な活動を続けていくことになりますが、その中で札幌市が果たしてきた役割というのは非常に大きいものでした。札幌市のように200万人近い人口を抱える都市で年間6メートルもの降雪があるのは、札幌をおいて他にはありません。このように世界でも稀な、都市と雪、冬の季節が共存してまちづくりを進めてきた札幌であるからこそ、札幌の雪まつりやイルミネーションなどに代表される冬のイベントはもちろん、ササラ電車あるいは冬に強い公共施設、地下街や地下通路など、こういった公共施設づくりというものにいろいろなノウハウを持っておりました。この市長会の活動を通して札幌はさまざまな形で世界の冬の都市をリードしてくることができたと言っても過言ではないと思います。

世界冬の都市市長会の活動を通じて、ウランバートル市の消防技術協力の事例ように、世界の冬の都市が札幌に学ぶといった事例も生まれているところであります。(ウランバートル市への消防支援事業の紹介は56ページ参照)

また2000年以降、市長会は冬の都市における地球環境問題にも力を入れるようになりました。2004年にアメリカのアラスカ州アンカレッジ市で開催された会議において、参加者がアラスカの氷河が温暖化で崩れ落ちる姿を目の当たりにして、冬のエネルギー消費が多い、そして温暖化の影響を身近に感じる積雪寒冷地の冬の都市が率先して地球環境問題に立ち向かうべきではないかということが共有化され、それらをこの会議の中で取り組むことになったわけであります。市長会では会員都市がそれぞれCO<sub>2</sub>の削減など、それぞれの都市の実態に合わせた環境行動目標を定めておりまして、その取り組みを実際に行って、今会議は2年に一度行っておりますが、目標を定めて2年後の会議でその状況報告をして進捗状況を確認し合うといった活動を行って、実行性を高めているところであります。

さて、そのような地球環境問題を含めてさまざまな課題に取り組んできた市長会の現在の姿をご紹介します。市長会は2016年に再び始まりの地である札幌で市長会議を開催することになりました。実に34年振りということですが、札幌コンベンションセンターで、27日から実質的な会議は昨日まで行われました。今回の会議では国内外から30以上の都市、100人以上の方々にご参加いただきました。

この国際会議の経験を国際都市札幌の市民の皆さんと共有させていただくために、2つの共催イベントを用意しております。1つは『冬の都市見本市 ウィンターシティーズ・ショーケース』です。会議参加都市が展示ブースを設けて各都市の特産品を展示販売あるいはステージイベントなどを通じて、都市のPRを行っています。札幌駅前通地下歩行空間、通称“チ・カ・ホ”の北3条交差点広場で開催しています。もう一つのイベントは、今皆さんにお越しいただいておりますこの『冬の都市フォーラム』です。

これまで世界の冬の都市の先頭に立ってさまざまな活動をしてきた札幌ですが、今、大きな変化の中にいます。例えば少子化による人口減少です。現在の札幌の人口は約195万人ですが、これまでは増加の傾向にありましたが、これからは減少の時期に転じてくるわけです。それに加えて高齢者の方の割合も年々多くなっていくと想定されています。2060年には人口の4割が高齢者と推計しております。そのために今から将来の札幌を支えていくことができる若い世代や産業、都市の基盤というものをしっかり育てていく必要があると思います。

また、今世界はグローバル化の波の中にあります。インターネットなどで気軽に海外の情報を入手できるようになりますし、国を越えた都市間の人々の往来も活発になっております。国という壁が低くなって、これまでは日本の中の一都市であった札幌ですが、世界の中の札幌としてより大きな舞台でさまざまな都市や企業、人々を

相手にしていかなければならない時代なわけですが、もちろんこれはチャンスでもあります。世界の舞台上で通用するような産業や企業、人材を育てていく、そして都市の魅力にも磨きをかけていく必要があるということです。このように札幌が転換点を迎えてくる中で、この市長会が札幌や世界に対して何ができるのかということを考えてみたいと思います。

### 34年後も、笑顔で溢れる街に

今回は市長会を語る上で大切な4つのキーワードを軸に考えてみたいと思います。1つ目は「フェイス・トゥ・フェイス」ということです。2つ目は「魅力発信」。3つ目が「都市による国際ネットワーク」。4つ目は「市民が世界とつながる場の提供」ということであります。

1つ目の「フェイス・トゥ・フェイス」ということですが、市長会では2年に一度市長会議を行っておりますが、市長会議がない年には事務レベルの会議を行っています。このように世界の各都市の代表者や関係者が直接膝を突き合わせてお互いの顔を見ながら話をしていく。そうすることで相手の都市や国を知ることにつながっていく。このことによって築き上げる都市同士の信頼関係が、文化の違いや国レベルの利害を越えた理解と協力関係を生み出す大きな力になるんだろうと思います。これほどインターネットやSNSなどのコミュニケーション手段が発達している時代ですが、フェイス・トゥ・フェイス、顔と顔を突き合わせていくというものに勝るものはないと思っています。

次に「魅力発信」ということであります。市長会議においてさまざまな事例紹介を通じて、それぞれの都市の魅力を発信することができます。その他に札幌を訪れる会議参加者に対して札幌の魅力を直接体験していただくことが可能になるわけです。今回の会議でも参加者の皆さんには札幌や北海道の魅力について十分感じただけなのではないかと思っています。また市長会議では広報誌を通じて世界の52か国、2,300件を超える都市や関係者にこれを送付しており、冬の都市をリードしている札幌という都市の魅力を発信しているところです。

3つ目のキーワードは「都市による国際ネットワーク」ということです。冒頭で現在の会員都市が世界10か国、21都市と申し上げましたが、その規模感をどのように感じになるのでしょうか。例えば会員都市の人口を合計すると何人になるかお分かりでしょうか。実に4,600万人という数字になります。これは国で言いますと、世界のトップから30位の国に相当する規模になってくるわけですが、それだけ市長会でのネットワーク、この組織というものが1つの国と同じレベルの影響力や規模であると言えると思います。加えて市長会は1997年から国連の登録NGOとなっており、このような国際機関

とのつながりも国際ネットワークとしての魅力を高めているところです。また市長会という一つのツールを活用することで同時に複数の都市同士が交流するという、まさに掛け算のように多くのコラボレーションが生まれるという利点があります。札幌市がそういった国際ネットワークに参加し、かつ主宰するというのが、先ほどお話したグローバル化の流れの中では大変力強い武器になるのではないかと考えています。



最後のキーワードは「市民が世界と繋がる場の提供」ということです。今回はこの冬の都市フォーラムですとか冬の都市見本市の他に、札幌コンベンションセンターでの会議ではすべてのプログラムを傍聴可能ということで市民の皆さんにも公開し参加していただける機会を作ってきました。これは市民の皆さんに冬の都市の情報に触れていただくことで世界を知り、世界とつながる機会を提供させていただくための取り組みでした。昨日の会議では札幌開成高校の生徒さんに会議参加者の前でまちづくりの提案もしていただきました。こういう若い人たちにもこのような国際会議に参加していただいた意義というのは大きいのではないかなと思います。そういう意味で、市民の皆さんが世界と直接つながる機会を増やして国際的な視野を持った札幌っ子が成長していつてくれると非常にありがたいなと思います。『世界冬の都市市長会』というこの貴重なツールを市民の皆さんと共有しながら活用していくことで、転換期を迎える札幌の未来を築き上げていきたいと考えています。

それでは最後に、時計の針を進めながら34年前の市長会議始まりの地である札幌のちょうど34年後の未来を皆さんと想像してみたいと思います。来年、年明けには冬季アジア大会の開催が予定されております。3年後の2019年には札幌でもラグビーのワールドカップが開催される予定であります。現在は2026年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けての取り組みを進めております。2030年度末には北海道新幹線の札幌延伸が予定されております。34年後は2050年ですが、その時の札幌はどうなっているのでしょうか、ということでもあります。

本当に笑顔で溢れる街でありたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

# 日本の国連加盟 60 周年を迎えて

国連広報センター所長 根本 かおる



『世界冬の都市市長会』の皆さんには常日頃から国連登録の NGO として国連とつながりながら、国連の立ち向かわなければならないさまざまな課題にご協力をいただいています。この場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

今日は国連を自分事に。昨年 9 月に国連総会場で採択されて、これから 2030 年までの国際社会を牽引していく行動目標である『SDGs』がどう私たちの世界を変革するのか、それを皆さんと一緒に考えながらお話をしていきたいと思います。

今年は、とりわけ日本と国連にとって大切な節目の年でもあります。日本が国連に加盟して 60 周年です。日本は 1952 年に独立を回復して、そしてすぐ国連に加盟申請をしましたが、冷戦の真ただ中で、当時のソビエトがなかなか首を縦に振ってくれなかった、そういう中で加盟までに 4 年半がかり、日ソ共同宣言に署名し、1956 年 12 月 18 日に日本は加盟を果たしたわけです。

日本は今年、来年と安保理の非常任理事国として、とりわけ世界の平和と安全のために貢献していますが、非常任理事国になるのは今回で 11 回目です。これは世界で最多です。

皆さんが国連と聞いてまずイメージなさるのがニューヨークにある国連の事務局の本部ビルだと思います。この国連事務局の日本における出先が私のいる国連広報センターです。国連事務局が行っている活動を中心に、国際の平和と安全の維持、人権の救済と推進、そして経済社会開発の推進、これを三本柱として日本の方々に日本語で分かりやすくお伝えするというのを任務にしています。残念ながら日本語は 6 つある国連公用語の中には入っていないので、日本語に関しては私たち国連広報センターが目利きとなって日本語に翻訳しています。日本には全部で 28 の国連の諸機関の事務所があります。広報面で調整役をになって“One UN”、ひとつの国連として発信することも私たち国連広報センターの使命となっています。

この 3 つの柱、国際の平和と安全の維持、人権、そして開発。人権なくして平和と安定なし。あるいは開発な

くして平和と安定なし。また逆のことも言えます。平和と安定なくして人権というのは担保されないし、経済、社会開発も推進できない。そういった密接不可分の 3 つの柱だと覚えておいていただきたいと思います。

国際の平和と安全の維持に関する活動として目に見えやすいのが国連の平和維持活動／PKO かと思います。現在 16 の PKO オペレーションというのが世界で展開されていて、およそ 12 万人の制服組、文民担当官が現場で汗をかきながら仕事をしています。日本の方々が一番身近なものとしては日本の自衛隊も派遣されている南スーダンの国連 PKO があるかと思います。南スーダンは世界で一番新しい国、2011 年に長年の紛争を経てようやく独立を果たした世界で一番若い国なわけです。つまり南スーダンの人たちは平和な時代を知らない。平和を知らない人たちに平和を理解してもらう。平和の尊さを理解してもらって平和を作り上げてもらう。その下支えをするのが国連の PKO 活動です。残念ながら今月の上旬にまた大規模な衝突が起きてしまいました。不安定な場所での活動でもあります。

この南スーダンで、ある日本人の女性の国連職員が大変良い仕事をしています。北部ユニティ地方のベンティウにある国連 PKO の事務所長をしている平原弘子さんです。モンゴル軍、ガーナ軍が駐屯しています。その他国連警察もいるし文民担当官もいる、総勢 2000 人を束ねる仕事を彼女はしています。不安定な中での仕事についての思いを、私は今年の 3 月に南スーダンを訪問して彼女のコンテナを改造した宿舎で少しお話を聞きました。

## 南スーダンの平原弘子さんのお話し（ビデオから）

根本：一番の課題は何ですか？

平原：POC、12 万人いますけれども、その人たちをいかに安全に自分たちがいた村なり町なりに戻すかというのが第一の課題です。国民に対して国が還元するようなシステムができれば上手くいくと思うので、とりあえず平和が来ればうまくいくかなと思います。私は一応ピースキーパーというか平和維持活動をやっていますので、我々の仕事、国連の貢献、PKO の貢献というのは正にセキュリティ、ピース・ビルディング、ピース・エンフォースメント、ピース・キーピングが一番基本ですから、とりあえずセキュリティが確保できるように持って行きたいと思います。紛争が終わった国というか地域はセキュリティが安定していませんから、急に国連機関とか NGO とかがバツと行って仕事をするというのは非常に難しい。ですから、ある程度安全が確保されるまでのこの期間にピースキーパーを入れて安全を安定させつつ次の、例えば UNDP とか開発を中心にやっている機関に引き渡せるくらいのレベルまでの仕事を、というのが基本だと思うのです。

不安定な状況の中でまずは安全を確保して、そして人道援助アクター、それから開発アクターに橋渡しをしていく。そういった活動を、日々額に汗して頑張っている日本人女性がいるということをよく覚えておいていただければと思います。

人権というのは、私自身に「国連で議論されていることと私たちの暮らし、私たち自身とつながっているんだな」と認識させてくれた出発点でもあります。私は国連に移る前はテレビ朝日でアナウンサーを、後には報道記者をして、そして留学を転機にして国連に移ったという経歴を持っています。テレビ朝日にアナウンサーとして入社した1986年ごろは、女性は民放キー局ではTBS以外はアナウンサーでしか採用してもらえない時代でした。それが翌年の採用からはその垣根はなくなったのです。日本が女子差別撤廃条約という条約に批准するにあたって男女雇用機会均等法を成立させ施行し、それで垣根がなくなった。「国連の議論というのは私たちの暮らしに影響がある」わけです。

少し調べてみると、国籍法もこの批准を前にして改正されています。国籍法が改正される前は日本国籍というのはお父さんから子供に受け継がれるものでした。今はお父さん、お母さん両方から受け継がれるものになっています。最も端的にこれが現れるのが国際結婚の場合です。法改正の前は、お父さんは日本国籍、お母さんは外国籍、生まれた子供はお父さんから受け継がれて日本国籍。でも反対にお母さんが日本国籍、お父さんが外国籍の場合、生まれた子供に日本国籍は付与されませんでした。これはあまりにも差別的だと、差別撤廃条約に抵触するということで批准を前に、日本は法改正をして批准したことがあるわけです。国連の議論と私たちの権利、これが密接につながっているんだということを私はこの女子差別撤廃条約という所から知りました。

## SDGsの17の目標

『SDGs／持続可能な開発目標』というものが私たちの住む世界を大きく変えていきます。これは2016年、今年を皮切りにして2030年まで先進国も途上国も中進国もすべての世界を引っ張っていく行動計画です。17の目標があります。これを策定する上では2012年の『リオ＋20』から始まって、およそ3年かけて世界中でコンサルテーションをして、一般の方々からも数百万人の意見を受け入れて、それで作られたものです。何も国連機関、政府だけのものではない。ここに今日お集まりの一人一人もアクターとして支える義務がある、そういうものです。

この前身として2000年に『ミレニアム開発宣言』というものが出されて、2015年を達成の期限とする『ミレニアム開発目標』というものがありました。これは主に途上国の社会開発に関する目標です。貧困人口を半減する、飢餓人口を半減する、初等教育を普及させるなどの

途上国を対象にした社会開発の目標だったのですが、この2015年までの間にそれまで見えてこなかった問題が新たに顕在化したのです。その一つが気候変動、地球温暖化に代表されるような環境保護の問題です。北海道は梅雨がないはずなのに梅雨のような現象が起きている。あるいは流氷も少なくなっている。地球温暖化、気候変動の影響というものを皆さんひしひしと感じておられると思います。

それから貧困格差の問題。日本も子供の6人に一人が貧困ライン以下の生活を強いられています。それから一人あたりのGNP／国民所得が増えたとしても、持てる層・持たない層の格差というものは広がっているという残念な結果が途上国からも日本からも上がっています。そういった新たに顕在化した格差の問題も含めて採択されたのがこの17のゴールです。

17のゴールは大きく分けて経済成長、それからあらゆる人を取り残さないで、置いてきぼりにしないですくい上げるといふ社会的包摂、そして環境保護、この3つが大きな柱になります。

それから、これまでの『MDGs／ミレニアム開発目標』と比べた場合の『SDGs／持続可能な開発目標』の特徴ポイントは、普遍性です。ユニバーサリティです。ミレニアム開発目標は途上国が対象でした。でもSDGsは私たちのような先進国の中の格差の問題、ジェンダー推進の問題あるいは気候変動対策の問題も対象になります。そして報告義務があります。

それから不可分性です。17も目標がありますけれども、これが一つ一つ独立して存在しているのではなくて密接不可分につながっているのです。たとえば女子教育。女子教育を考える場合、教育を受けた女の子はいずれお母さんになった時に、より健康な食事を子供に与えて健やかに育てることができます。それから経済的な自立にもつながります。それから格差の是正にもつながる。あるいは平和と公正の議論に、和平交渉の場に女性の代表がより参加しやすくなる。というわけでさまざまなものに関わってくるわけです。

SDGs、変革的／トランスフォーマティブということですから。私たちは今、誰も置き去りにしないでこの世の中から貧困というものを撲滅することができるかもしれない初めての時代に突入しています。今まさに私たちが歴史を塗り替えようとしています。

是非皆さん、お一人お一人、自分はどのゴールが気になるのか。どのゴールに貢献できるのか。それぞれの関心、それぞれのアクションというものを考えていただければと思います。『冬の都市市長会』にとってみれば一つにはゴール13の気候変動対策というのがあるでしょうし、それからゴール11のまちづくりの問題があるかと思いますが、それぞれのお立場で何に貢献できるのか考えていただければと思います。

マララ・ユサフザイさんです。マララ・ユサフザイさ

んは 17 歳で、史上最年少でノーベル平和賞を受賞しました。「女の子だって教育を受けたい」、そう声を上げてタリバンに命を狙われましたけれど、奇跡的に助かって声を上げ続けています。その彼女は SDGs が採択された昨年 9 月の国連総会場で素晴らしい演説を行っています。

18 歳の彼女にとって SDGs の中で特に大切なのはゴール 4 の教育、ゴール 5 のジェンダー平等、そしてゴール 16 のピース／平和でしょう。マララさんは特段裕福な家庭あるいは政治家につながるような家庭出身ではないのです。お母さんは読み書きができません。でもお父さんが女子教育に大変理解があって彼女を応援してきました。その彼女が今先頭に立っている。ここにお集まりの皆さんもマララさんと同じようにチェンジメーカーになる素質があり、チェンジメーカーになることができるということです。

『世界冬の都市市長会』にとって非常に大切な課題である気候変動、これはゴール 13 です。『パリ協定』が昨年の COP21 の場で採択されました。『京都議定書』と違って『パリ協定』は先進国にも途上国にもすべての締約国に適用されるわけですが、署名式は今年の 4 月 22 日にニューヨークで大々的に行われましたけれども、まだ発効に必要な条件が集まっていません。5 月に行われた G7 伊勢志摩サミットでも年内に何とか発効させる、そのためには 55 の締約国の批准、それと締約国で併せて世界の温室効果ガスの 55% を削減できる。この条件を満たして初めて発効するのです。日本にも早期の批准というのが求められているわけです。

## 一人一人がチェンジメーカーです

SDGs の実現にはあなたのアクションが必要だということを申し上げました。それぞれの方々がどんなことをしているのか、一例をご案内します。

井田寛子さんは今年の 3 月まで NHK 『ニュースウォッチ 9』のお天気キャスターを務め、今年の 4 月からは TBS の気象キャスターをしています。この彼女がまだ NHK でキャスターをしていた時に、2050 年、このまま行ったらどんな気象になってしまうだろうかと『未来気象予報』というビデオを作って国連のキャンペーンに参加してくれたのです。井田さんは TBS に移ってからずっと



この気候変動、地球温暖化の問題には関心をもち続けて、機会があるたびにに取り上げるように頑張ってくれています。こういう関わり方もあります。

これは世界のセレブ、マドンナとかオノ・ヨーコ、ビヨンセとか、名だたるセレブたちを写真で撮ってきたファッション・フォトグラファーのレスリー・キーさんが撮ってくださったものですが、レスリー・キーさんは SDGs にとても賛同してくださっているのです。なんとか自分のクリエイティブな力でこの SDGs の発信、広めることに貢献したいと言ってこんな写真を撮ってくれました。前列真ん中に写っているのは早見優さん。その横には松本伊代さんという、私と同じような世代であれば胸がときめいてしまうような、そんなアイドルたちを勢揃いさせて SDGs のアイコンのプラカードを持って写真を撮ってくれました。早見優さんの新しい曲のミュージック・ビデオをレスリーさんがプロデュースし、その中で SDGs のプラカードもモチーフとして使っています。

高校生もいろいろな形で国連の課題に関わることができます。高校模擬国連。国際大会が今年 5 月にニューヨークで開かれ、麻布高校の二人が優秀賞を受賞しました。今年の 11 月には 10 回目になる全日本高校模擬国連の大会もありまして、熱心に取り組んでいる学生たちが集まります。

広島・長崎は高校生平和大使という高校生たちをノミネートしています。国連の場をはじめとして世界で行われる軍縮を考える会議に派遣されて、日本の学生の立場からいろいろと発言をしています。広島の高校生小桜さんは「世界の若者のネットワークで核兵器にこだわっている政府の建物を包囲したい」と語ってくれました。

国連の課題に関わる最も端的な形というのが国連で働くことかもしれません。国連の職員には 3 つの Core Values というものが求められています。一つは Professionalism。日本人は仕事を与えられれば的確に判断して最後まで遂行するというで手堅い評価を受けています。Integrity、組織への忠誠です。日本人は組織に大変忠誠です。それから Diversity / 多様性。日本人は立場の異なる人達の意見を聞いて落とし所を考えながら調整するという能力に長けていると思います。つまり日本人には国連の職員として求められている資質が備わっている。残念ながら国連に対する日本の分担金に比べると日本人の職員というのは数的には非常に少ないです。ですから国連側も日本側も優秀で「国連で働いてみたい」という人には国連で働くチャンスを与えたいと思っているわけです。

私たちひとりひとりがチェンジメーカーです。パン・ギムン事務総長は、“There is no global solution without local action.”。つまり足元のアクション無くしては世界的な解決、世界規模の問題の解決はないのだと。すべては足元から始まります。

ご静聴どうもありがとうございました。

# 親善大使として見たこと感じたこと

国連開発計画（UNDP）親善大使  
紺野 美沙子



私の母が北海道の余市の生まれで、幼少期を函館で過ごしました。私の母方の祖母は岩手県の陸前高田の出身なのですが、祖父の仕事の関係で北海道に参りました。祖母は私が高校1年生の時に亡くなったのですが、終末期にはことあるごとに「お世話になりました。函館に帰ります」と言っておりました。祖母そして母が大好きな函館。函館に母方の菩提寺があり、その関係で子どもの頃からたびたび函館、そして札幌にも遊びに来ています。

一番思い出に残っているのは、私が小学生の時に青函連絡船に乗って函館に来て、函館本線で札幌まで来たときのことです。その途中で、母と姉と私の3人で“なかなか読めない駅名あてクイズ”をしながら札幌まで来たのがとても良い思い出です。その後に大通公園で焼きトウモロコシを買ってもらいました。“大通公園”と聞くと焼きトウモロコシの香ばしい香りと共に私の幼い時のことが思い出されます。

それから札幌と言えば、1972年に開催された札幌オリンピック。小学生でした。忘れもしない、日の丸飛行隊。「日の丸飛行隊ごっこ!」とか言ってみんなでやった思い出とか、あと銀盤の妖精ジャネット・リン。実は私、あの時にフィギュアスケートという競技があって、「ああ、こんなに素敵なんだ」というその時の思いが残っています。私は東京の高校に通ったのですが、フィギュアスケート部があり、高校の3年間と大学生の初め頃はフィギュアスケートに勤しんでおりました。もちろん3回転ジャンプはできませんけれども、前とか後ろに滑ることくらいならできますので、たとえば『浅田真央物語』のスパルタコーチの役とかがあったら是非出させていただきたいなど、思っています（笑）。

間もなくブラジルでリオのオリンピックが始まりますが、テレビのニュースで見ると、現地のリオではオリ

ピック開催に伴う貧富の差が非常にクローズアップされていて、「こんなに苦しんでいる人たちがいるのにオリンピックで浮かれている場合なのか？」という報道をよく目にします。確かに貧富の差で苦しんでいる方たちや様々な差別、たくさんの方が不安を抱えている中では真の平和というのは訪れないのかなという風に思います。

## UNDP はインフラ整備から識字教育まで幅広い分野で援助

今日は私の国連開発計画（UNDP）親善大使としての活動をちょっとだけご紹介差し上げたいと思います。

UNDP、United Nations Development Programme と言っても、日本国内では「UNDP って聞いたことないな」「どんなことやってるの？」と質問されることが多いです。

UNDP はユニセフやユネスコ、国連難民高等弁務官事務所と同じ国連機関の一つです。最近は“One UN”と言って国連もスリム化していこうということで、一つの目標に向かって相互の連携が行われていますが、UNDP の重点活動分野があります。UNDP は今、世界中の約 170 の国や地域で活動しています。開発途上国と呼ばれる一つの国。たとえば同じアジアの中ではカンボジアという国があります。経済発展が著しいのですけれども、カンボジアという一つの国が他の国々や国連や国際機関、NGO などの援助を受けずに国として自立するまでの総合的な援助を行っているのが UNDP です。UNDP が行っている援助というのは非常に幅広くて、小学校を作ったり、宗教的な理由や貧困のために教育を受けられなかった女性たちに識字教育を行ったり、あと大きい所ではインフラの整備です。たとえば日本政府と協力して開発途上国の港を作ったり、道路を作ったり、発電所を作ったり、そういった



大きな援助もしています。それから IT の普及教育などの非常に細やかな援助もしています。一つの国の自立のためにはその国の根っこになる部分がしっかりしていなくてはいけないということで、たとえばその国の法律を作る、選挙制度を作る、司法制度を作る、そういった基本的なものへのお手伝いをすることもあります。

UNDP というのはその途上国の人々の一人ひとりの能力の向上、一人ひとりができることを増やしていった、それが国全体のパワーにつながるという、考え方です。私たちが日本に暮らしているとごく当たり前のことが途上国、とりわけ経済的にとても貧しい地域では全く当たり前ではありません。たとえば貧しい地域の方たちはその日食べる物を選ぶことができません。私たちは学校を卒業したら自分の就く職業を選ぶことができますけれど、途上国の特に経済的に厳しい地域の人たちは、そういった仕事さえも得ることができません。つまり、生きていく中でありとあらゆる選択肢がほとんどないという状況です。そういった方たちの選択肢が少しでも増えるようなお手伝いをしているのが UNDP です。

## 10 回の視察で 9 つの国、地域を訪問

先ほど根本さんがご説明してくださった SDGs。2030 年までに少しでも多くの国や地域で達成されるようにお手伝いをしているのも UNDP です。そして UNDP の活動を世界中の皆さんに知っていただくために活動しているのが、親善大使です。私も親善大使の中ではいつの間に

か一番の古株になってしまいました。1998 年に突然の任命を受けてからあっという間に 18 年も経ちました。ワールドカップで活躍したジダン選手とか、ロナウド選手とか、ドログバ選手、イケル・カシージャス選手、皆さんサッカーの選手の方は “Match Against Poverty” と言いまして、サッカーを通じて貧困撲滅をしようということで、今までに 11 回も世界中のサッカーのスター選手の方を集めてチャリティマッチを行っています。その収益を寄付したりとか、世界中の貧困問題に多くの方たちの関心を集めようといったプロジェクトを行っています。

私は数年に一度開発途上国に参りまして、UNDP が行っているそのプロジェクトの様子を実際に見せていただいて、その時に感じたことを、自分の言葉で伝えるという役割を担っています。ちなみに国連の親善大使は取り決めて報酬が決まっております、ユニセフの親善大使も UNDP の親善大使も皆さん年に 1 ドルということになっています。あくまでも名目上のもので実際にはいたっていない。

私はこれまでに 10 回の視察をして 9 つの国や地域を回って参りました。カンボジアには 2 回参りました。パレスチナ、ブータン、ガーナ、東ティモール、ベトナム、モンゴル、タンザニア、パキスタン。東日本大震災の被災地にも何度か伺っています。そして来週の 8 月 2 日からアフリカのケニアに行つてまいります。ケニアにはフラミンゴの生息地としてとても有名なナクル湖という湖があるのですが、よく映画や、さだまさしさんの歌にも

取り上げられましたけれども、そのフラミンゴが気候変動の影響だと思うんですが非常に数が減っている。そのナクル湖にも行ってまいりますので、もし機会がいただけたら皆さんの前でご報告差し上げたいと思います。

## すべての子どもたちに初等教育を

初めて親善大使として訪問したのが1999年のカンボジア王国です。これまで2回行っています。最初に訪問した時に強く思ったことは、とにかく「百聞は一見にしかず」ということです。今から17年前にカンボジアに行くと聞きまして、「もしかしたらそこここにまだ地雷が埋まっているかもしれない」、そんな気持ちで参りました。でも、今まではテレビのニュースや新聞などでしか知ることができなかったカンボジアの地雷の問題というのが実際に現地に行ってみて、この同じ地球で起きている非常に深刻な問題なんだなということを、現地の地雷の被害に遭われた方、実際にその地雷の除去の仕事に従事なさっている方、いろんな方にお目にかかって話を聞いて初めて現実のものとして胸に迫ってまいりました。

そのカンボジアに2回訪問して一番印象に残っているのは、子どもたちの初等教育です。貧しさ故に小学校にさえ通うことができない。貧しさだけではなくて、たとえば近くに学校がなかったり、教える先生がいなかったり、治安が悪かったり、どうしても家の仕事をしなくては行けなかったり、様々な理由で小学校にさえ行けない子どもたちがたくさんいるという現実を目の当たりにしたことです。最初に訪問した時の小学校には、国際協力機構（JICA）で青年海外協力隊としてカンボジアに2年間赴任していた日本人の小学校の女性の先生が非常に厳しい環境の中で頑張っていたらっしゃいました。そういうことも各訪問先で目の当たりにすることができ、その活躍ぶりを嬉しく思いました。ある小学校は1年生が130人くらいいるのに6年生にいくと30人くらいに減ってしまっているという現実がありました。アンコールワットという素晴らしい世界遺産の近くの非常に経済的に貧しい村で、ひとりの少女に出会いました。12歳の女の子です。その女の子に「学校に行ってるの？」と聞いたら、「ほとんど行っていません」と彼女は答えたんです。「どうして学校に行けないんですか？」と言ったら、「お父さんとお母さんが死んでしまったから、私は毎日水汲みをしなくては行けない」と。しかも片道2キロ、3キロを歩いて。「もしもお金があったら文房具を買いたいし、学校の制服も欲しい。今まで生きてきた中で嬉しかったことは一つもないけれど、一番悲しかったことはお母さんが死んでしまった時だよ」と話をしてくれました。

他にもトンレサップ湖というカンボジアで一番大きな湖に船の中で暮らしている、水上生活をしている人たちの地域にも行きました。ここでも子どもたちに話を聞いて、「私の家はとても貧しいから学校に行くためのボート

がない」と。この水上生活の子どもたちの小学校は湖の中にあるのです。「毎日学校に通いたいから、もしお金があったらボートが欲しいな」と話してくれた12歳の女の子もいました。

こういった話を日本の子どもたちにとすると、みんな一生懸命聞いてくれて「かわいそう」「何か私にできることはないですか？」と聞いてくれます。「かわいそう」と思ってくれる優しい気持ちは本当に嬉しいと思いますけれども、小学生の皆さんだけではなくて、今、日本で勉強することができているすべての皆さんに、日本で勉強できるということはとても恵まれていて運がいいことであるということ、そして日本で勉強できるからこそできること、やらなくちゃいけないことがあるんだよということ子どもたちに伝えたいと思いますし、気づいてもらえたらと思います。

一昨年、ノーベル平和賞を受賞したマララさんが「教育は平和そのものだ」と仰っていましたが、私もその通りだと思います。教育を受けることで先ほど申し上げた人生の選択肢が増える。たとえ貧しい地域に生まれたとしても、教育さえあれば自分で人生を切り開いていける可能性が生まれます。それと共にもう一つとても大切なことは、世界にはさまざまな民族、それぞれの歴史、文化、宗教、互いの違いを認め合う社会、許し合う社会が何よりも大切だということが教育によって理解できるようになるのではないかと私は思っています。ですから何よりも教育。すべての子どもたちが貧富の差、生まれてきた地域にかかわらず最低でも初等教育を、というのが、何よりも大切なことだと思います。

ブータン王国。3年前に見目麗しいブータン王国の新しい国王と妃殿下が来日なさいました。ブータンと言えば“幸せの国”、“国民総幸福”。国民一人ひとりの心の豊かさを大切にしている国ということで、私もブータンに行く時は「人が生きていく中で本当の幸せって何だろうか?」「本当の豊かさって何だろうか?」その答えをちょっとでも見つけたいと思って参りました。

Bumtan という、ブータンの一番東です。首都のティンブプーという所から、危険な山道を10時間くらい走ってやっと着いた Bumtan。そこの知事さんと名産のレッドパンダビールというビールを飲みながらお話をさせていただいたのですが、その時にそのブータンの知事さんが「ブータンは急ぎ過ぎない開発をしている」と。「確かに他のアジアの国々がどんどん経済発展していることはもちろん知っている。けれども、私たちはあえて急ぎ過ぎない開発をしているんですよ」と。「というのも、私たちが本当に先祖代々大事にしてきた文化、伝統、それから森林が非常に多いという自然環境、美しいブータンの伝統建築の町並み。そういったものを何よりも大切にしていこうと。何でもかんでも近代化ということを私たちは望んでいません」とおっしゃいました。そして「私たちは着るものも、食べるものも、教育も、そして地域

の人たちも、もう何もかも満たされています。もっともっと欲しいという気持ちは私たちにはないんですよ」と。首都のティンブーには近代化の波が押し寄せていて、若い方は伝統的な衣装を着ずにジーンズがいいとか、やっぱりインターネットも解禁されてどんどん変化はしているそうですが、その当時、10年前にブータンのその知事さんはそんなふうにおっしゃいました。

## 自分の足元で自分が置かれた場所で できることを継続していく

ブータンで1週間過ごす中で私の中に浮かんだのは「足るを知る」という言葉です。物や情報に溢れても心満たされない人たちはたくさんいます。そういった中で自分らしく豊かに暮らしていくためには、自分で自分に向き合って自分なりの幸せの形を探していく。自分なりの幸せの尺度を持つということが豊かに生きる近道なのかなと感じたブータンの旅でした。

この札幌市と同じ冬の都市モンゴルには10年前、まずウランバートルに行きました。札幌のような大都会でビックリしました。人口が集中して、特に冬場、皆さん寒いので石炭を使ったりとか、特に貧しい地域の人たちは手あたりしだい何でも燃やしてしまうので、大気汚染の問題が深刻だと聞きました。ただ、そのウランバートルを出てちょっと走っただけでももう驚くような、“エターナル・ブルー”と言うのだそうですが、このモンゴルの空の青さと360度見わたす限りの大草原を経験することができます。私がモンゴルに行って一番強く思ったのは、日本の子どもたちに、大自然の中で実際の動植物と触れ合って欲しいということです。そこで私が見たの是一村一品プロジェクトです。日本の大分県から始まった一村一品運動。おらが村の自慢の一品を全国に、そして世界中に広めていこうというプロジェクトですけど、蜂蜜作りやカーペット作り、日本で始まった一村一品運動がこのモンゴルでも行われていて、手に職をつけた人々の生活がどんどん良くなっているという輝く笑顔を見てとても嬉しくなりました。

最後に朗読させていただこうかなと思って準備して参りました。

まとめになるのですが、国際協力って何だろうか。私の中では結論としては、国際協力も電車やバスの中で困っている方やお年寄りに席を譲るというのも同じだなということです。身近な方たちに思いやりの気持ちを持つということ。そういう意味では皆さんが関心のある分野から、地域での活動でもいいし、日本中のさまざまな被災地の援助でもいいですし、もちろん国際協力でもいいです。関心のある分野に思いを寄せていくということがとても大切だと思います。自分の足元で自分が置かれた場所でできることを継続していくということが大切なことだと思います。私自身も自分が好きなことでもし喜んでくだ

さる方がいたら嬉しいなという思いで、朗読の活動を続けています。では最後に短い詩ですが聞いてください。

(谷川俊太郎作の詩「あい」を朗読)



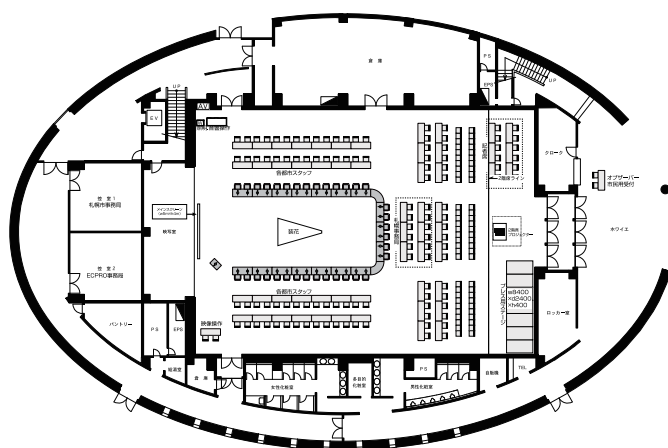


# 資 料

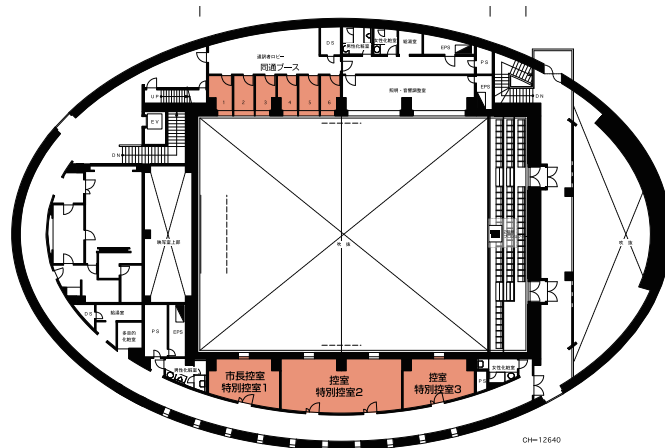
# 札幌コンベンションセンター 会場図



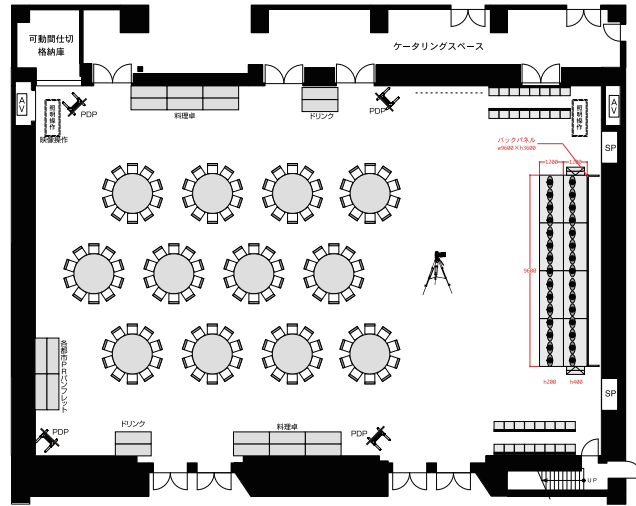
コンベンションセンター全体図



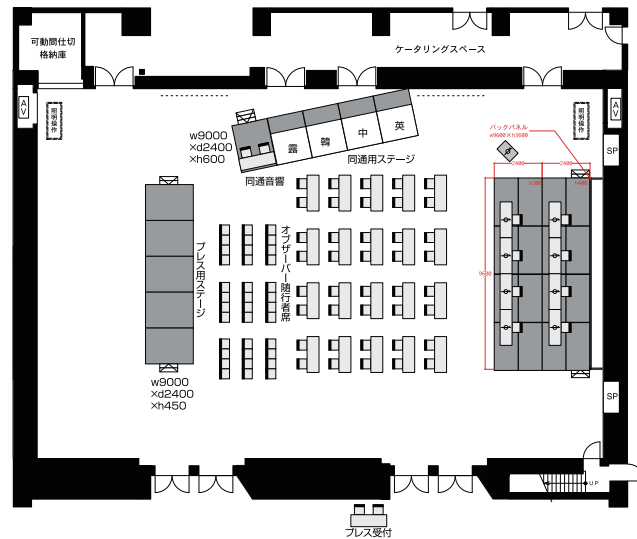
市長会議会場 特別会議場1階



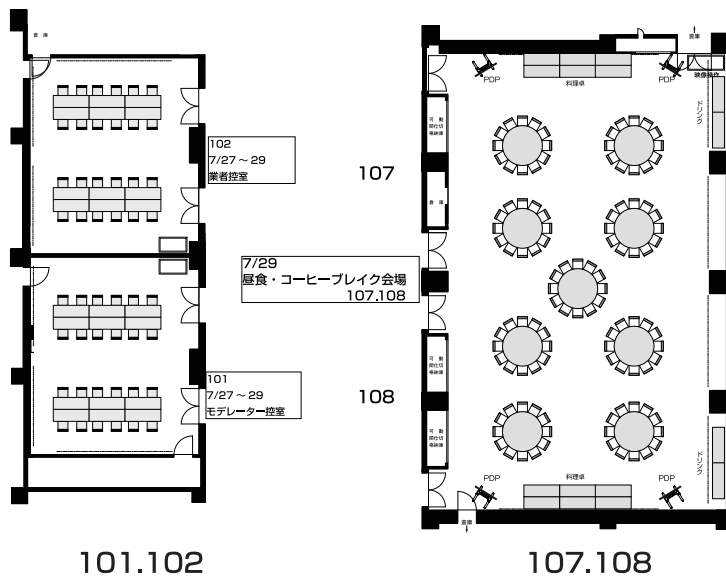
市長会議会場 特別会議場2階



7月27日・28日 昼食・コーヒープレイク会場 記念写真撮影会場 中ホール



7月29日 記者会見会場 中ホール



101.102

107.108

## 看板、バックパネル

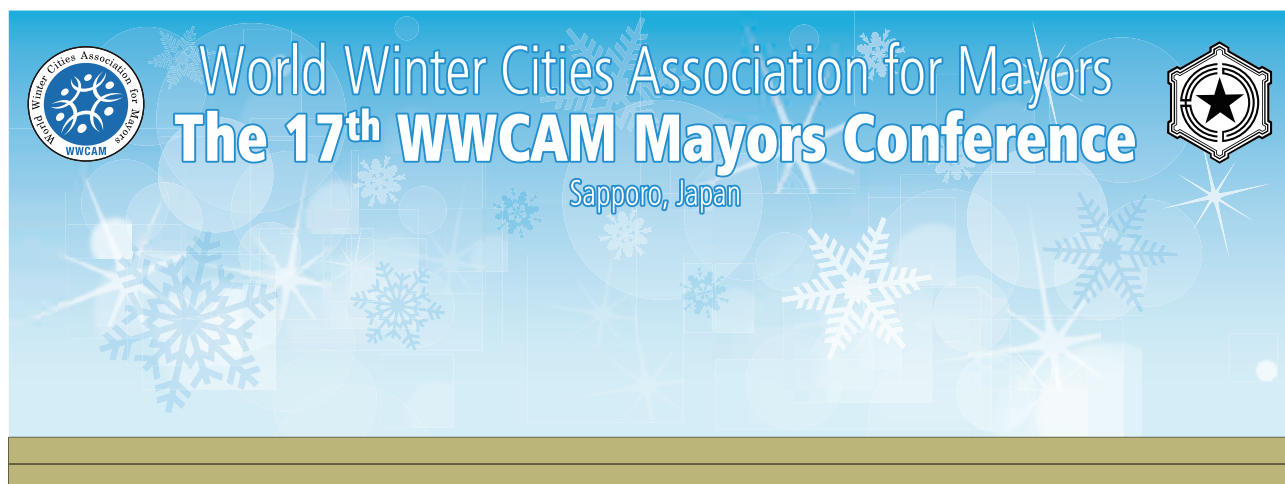
### ■会場ステージ看板



特別会議場吊看板 w7200×h900

特別会議場 吊看板

### ■バックパネル（記念撮影／記者会見）



## 記念品、配布資料

### ■記念品（代表者：二風谷イタ）



### ■記念品（随行者：日本てぬぐい風呂敷セット）



### ■記念品（随行者：藍染扇子）



### ■配布資料一式



第 17 回世界冬の都市市長会議報告書

発 行 年 月 平成 28 年（2016 年）12 月  
発 行 札幌市総務局国際部交流課  
札幌市中央区北 1 条西 2 丁目  
TEL : 011-211-2032  
制作・編集・印刷 株式会社イー・シー・プロ



第 17 回世界冬の都市市長会議（日本・札幌市）  
報告書

